令和四年 第1回定例会

宇検村議会議録

令和四年三月四日開会 定例会
令和四年三月十七日閉会

宇 検 村 議 会

令和 4 年第 1 回宇検村議会定例会

令和 4 年 3 月議会

令和4年第1回宇検村議会定例会会期日程

3月4日（金）開会～3月17日（木）閉会 会期14日間

日次	月日	曜日	会議・休会・その他
第1日	3月4日	金	本会議（開会・・・議案審議）
第2日	3月5日	土	休会
第3日	3月6日	日	休会
第4日	3月7日	月	一般質問
第5日	3月8日	火	一般質問
第6日	3月9日	水	予算審査特別委員会
第7日	3月10日	木	予算審査特別委員会
第8日	3月11日	金	予算審査特別委員会
第9日	3月12日	土	休会
第10日	3月13日	日	休会
第11日	3月14日	月	休会
第12日	3月15日	火	休会（中学校卒業式）
第13日	3月16日	水	現地視察・常任委員会・全員協議会
第14日	3月17日	木	本会議（議案審議・閉会）

令和 4 年第 1 回宇検村議会定例会

第 1 日

令和 4 年 3 月 4 日

令和4年第1回宇検村議会定例会会議録
令和4年3月4日（金曜日）午前9時30分開議

1. 議事日程（第1号）

○開会の宣告

○日程第 1 会議録署名議員の指名

○日程第 2 会期の決定

○日程第 3 諸般の報告

○日程第 4 行政報告

○日程第 5 令和4年度施政方針

○日程第 6 承認第 1 号 専決処分（令和3年度宇検村一般会計補正予算）について
(説明・質疑・討論・採決)

○日程第 7 議案第 1 号 令和4年度宇検村一般会計予算について

○日程第 8 議案第 2 号 令和4年度宇検村国保事業特別会計予算について

○日程第 9 議案第 3 号 令和4年度宇検村宇検村国保施設事業特別会計予算について

○日程第 10 議案第 4 号 令和4年度宇検村簡易水道事業特別会計予算について

○日程第 11 議案第 5 号 令和4年度宇検村農業集落排水事業特別会計予算について

○日程第 12 議案第 6 号 令和4年度宇検村漁港漁村集落排水事業特別会計予算について

○日程第 13 議案第 7 号 令和4年度宇検村介護保険事業特別会計予算について

○日程第 14 議案第 8 号 令和4年度宇検村後期高齢者医療事業特別会計予算について
(以上8件一括上程・説明・委員会付託)

○日程第 15 議案第 9 号 令和3年度宇検村一般会計補正予算について
(説明・質疑・討論・採決)

○日程第16 議案第 10 号 令和3年度宇検村国保事業特別会計補正予算について
(説明・質疑・討論・採決)

○日程第17 議案第 11 号 令和3年度宇検村簡易水道事業特別会計補正予算について
(説明・質疑・討論・採決)

○日程第18 議案第 12 号 令和3年度宇検村農業集落排水事業特別会計補正予算について
(説明・質疑・討論・採決)

○日程第19 議案第 13 号 令和3年度宇検村介護保険事業特別会計補正予算について
(説明・質疑・討論・採決)

○日程第20 議案第 14 号 宇検村観光施設の設置及び管理等に関する条例の制定について
(説明・質疑・討論・採決)

○日程第21 議案第 21 号 観光拠点施設及び活性化センターの指定管理者の指定について
(説明・質疑・討論・採決)

散会の宣告

1. 本日の会議に付した事件
議事日程のとおり

1. 出席議員

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	倉本富夫君	2番	壽山新太郎君
4番	海原隆家君	5番	肥後充浩君
6番	吉永常明君	7番	喜島孝行君
8番	杉浦治俊君		

1. 欠席議員

3番 保池穂好君

1. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

事務局長 松井学君 書記 楠田綾香君

1. 説明のため出席した者の職氏名

村長	元山公知君	会計課長	小松洋仁君
副村長	植田稔君	教育委員会事務局長	松元五月君
教育長	村野巳代治君	建設課長	高田浩志君
総務課長	原田俊昭君	住民税務課長	柳百々代君
保健福祉課長	保枝力人君	産業振興課長	栄平四郎君
企画観光課長	辰島月美君		

△ 開 会 午前9時30分

○職員（松井 学君）

ご起立願います。一同、礼。

○議長（杉浦治俊君）

ただいまから、令和4年第1回宇検村議会定例会を開会します。

これから、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお配りした通りです。

△日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（杉浦治俊君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第127条の規定によって、海原隆家君、肥後充浩君を指名します。

△ 日程第2 会期の決定

○議長（杉浦治俊君）

日程第2、会期の決定の件を議題とします。

お諮りします。

本定例会の会期は、本日から3月17日までの14日間としたいと思います。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

会期は本日から3月17日までの14日間と決定しました。

△ 日程第3 諸般の報告

○議長（杉浦治俊君）

日程第3、諸般の報告を行います。

私の諸般の報告は、お手元にお配りしてあります報告書のとおりです。お目通しを願いたいと思います。

これで諸般の報告を終わります。

△ 日程第4 行政報告

○議長（杉浦治俊君）

日程第4、行政報告を行います。

村長から行政報告の申し出がありました。

これを許します。

○村長（元山公知君）

皆様、おはようございます。

それでは、令和3年12月定例会議会報告後の行政報告を行います。

皆様のお手元にお配りしているとおりでございますが、主だったものを報告いたします。

12月14日、100歳になられた村民の長寿を祝い、ご親族お祝いの場で敬老祝い金を贈呈いたしました。

12月19日、宇検村と鹿児島大学の主催による防災シンポジウムを元気の出る館で行いました。

12月26日、うけん市場祭りが七ヶ宿町の参加もあり、元気の出る館で開催され、参加いたしました。

1月7日、集落における感染症対策への感謝と集落のコミュニティを支援する助成金を交付するため、役場会議室で交付式を行いました。

1月20日、1月16日の津波警報時の避難について検証するため、津波対策の会を元気の出る館で行いました。

2月19日、宇検村元気の出る公社の臨時株主総会を役場会議室で行い、出席いたしました。

2月24日、市町村長研修を含む会議6件が鹿児島市であり、出席いたしました。

2月28日、第156回鹿児島県市町村共済組合が鹿児島市であり、出席いたしました。

3月3日、瀬戸内警察署と宇検村との防犯カメラ協定調印式を役場会議室で行いました。

以上で行政報告を終わらせていただきます。

○議長（杉浦治俊君）

これで、行政報告は終わりました。

△ 日程第5 令和4年度施政方針の説明

○議長（杉浦治俊君）

日程第5、令和4年度施政方針の説明を行います。

村長から発言を求められておりますので、これを許します。

○村長（元山公知君）

令和4年、第1回宇検村議会定例会の開会にあたり、村政運営に関する私の基本姿勢と所信の一端を申し上げ、議会議員並びに村民の皆様へ、ご理解とご協力を賜りたいと存じます。

始めに、新型コロナウイルス感染症が確認され、全世界がコロナ禍に翻弄されながら2年が過ぎました。社会はようやくウイズコロナを受入れ、社会活動を維持するための基準づくりに動き始め、ワクチン接種の効果を背景に、エッセンシャルワーカーと言われる、生活の根幹を支える業種での「社会を止めない働き方」が定着しつつあります。

年初めには、第6波が奄美大島でも急拡大し、本村でも感染者が確認されたものの、村民の皆様をはじめ、関係業界のご理解、ご協力と冷静な行動により、少しずつではありますが、収束に向かっているものと、認識しております。

村民の皆様、感染予防を徹底しながら安心できる日々の生活を守っていきましょう。

さて私、村長就任から3年が過ぎましたが、所管の業務や災害対応等を通して、職責の重さを日々感じながら、村民の生命、財産、安全・安心な生活を守るため、職員と共に村政運営に取り組んでまいりました。

議員並びに村民の皆様におかれましては、ご理解、ご協力を賜りましたことに、心から感謝申し上げます。

今後とも、村民の声に耳を傾け、集落座談会等の開催を通して、同じ目線で語り合い、公約の実現と村政発展へ、スピード感を持ち全力で邁進することを、改めてお誓い申し上げます。

まず財政につきましては、2022年度の国の予算は、昨年を1兆円上回り、4年連続で100兆円を超え、107兆6千億円と、過去最高額であります。税収も65兆2千億円と過去最高額を見込んでの予算であり、コロナ禍で実感こそ湧きませんが、全体として景気は回復傾向にあります。

村としましては、地方交付税も前年度以上が見込まれることから、例年規模を上回る積極的な予算編成となっております。主に、人を呼び込むことで産業の活性化を期待する観光面と、地産地消、プラス安定出荷できる農業基盤づくりを特徴とした予算で、一般会計当初予算においては、これまでの継続事業を始め、新規事業を含めて、約32億円台で3.93%の増額予算となっております。

自治体の財政状況を示す指標である実質公債費比率は、9.9%から9.3%と前年度より改善され、将来負担比率も、基金残高の増加で平成30年度決算から、連続ゼロと改善されていますが、起債の残高が、元年度から1億増の39億円で、借入額が償還額を上回る傾向が続いておりますので、今後とも有利な措置の起債に努めながら事業執行にあたってまいります。

財政運営につきましては、事業の優先順位をしっかりと検討し、各分野で連携を図り計画的に執行するよう努めてまいります。

また、特別会計につきましては、7会計で9億8,680万7,000円で前年度対比1.84%の増額予算になっている中、簡易水道事業特別会計、農業集落排水事業特別会計、漁業集落排水事業特別会計につきましては、令和6年度からの公営企業会計の法適化を前に、健全な施設運営への意識改革を図るため、公共施設の使用料も予算計上し、経営の「見える化」を行っております。法適化によるサービスの向上で、改めて独立採算の原則のもと、使用料の衡平さを保つことへの村民の理解と、施設運営に最大限配慮した、節減の意識改革を図ってまいります。

これまでと同様、財政健全化を進めていくことは当然のことではありますが、新型コロナウイルス感染症地方創生臨時交付金なども有効に組み込み、収束後の地域活性化と、安心・安全な生活に資することを念頭に、村民に必要な予算は、積極的に活用するとともに、重要な自主財源である村税、使用料、手数料等につきましては、徴収率の向上を図り、自主財源の確保に努めてまいりま

す。

宇検村へのふるさと納税は、年々増額傾向にあり、それに伴い、返礼品である村内の農林水産物や、特産品等の市場が拡大しております。今後更に発展させ、世界自然遺産登録地としての知名度の付加価値を活かしながら、「宇検村」というブランドを確立し、関係人口の拡大、宇検村のPR、観光へと繋がるよう、ふるさと納税業務の充実を図ってまいります。

行政改革につきましては、社会の変化をとらえ、行政需要に即したサービスを提供していくことが大切であり、コロナ禍で一変した社会生活に対応できるよう、関係部署と連携して住民サービスに努めてまいります。ICT・IoTの進化により変化するライフスタイルへのサポート、情報提供の多重化、住民サービスのあり方など、コロナ収束後の社会の動きに村民の声を反映させるよう努めてまいります。

そのためにも、職員としての資質向上を図るため、これまで以上に職員研修に力を入れてまいります。現在も行事や会合等が思うように開催できない状況ではありますが、できる限り対策を図り、村民とのコミュニケーション向上に努めてまいります。

現在、5人の地域おこし協力隊が活動しております。任期を迎える隊員もいますが、今後も、本村の地域おこしに意欲のある、都市部の人材を呼び込み、その定住・定着を図り、村内各集落の維持・強化につなげてまいります。

また、今年度より、元気の出る公社の体制と方針を大きく見直します。村民の要請に迅速に対応できるよう社員を増員し、耕作放棄地の解消も積極的に進め、農業基盤の確立と村民の農業所得の向上を図ってまいります。

今年度は、令和5年度からむこう10年間の宇検村総合振興計画の策定を行います。第5次宇検村総合振興計画から10年を迎え、これまでの成果と今後の課題、社会情勢の変化を踏まえて、宇検村が目指す将来像を明確にし、持続可能な地域づくりの指針となるよう、計画の策定を進めていく所存です。

「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産登録を受け、宇検村も新たな時代を迎えております。遺産の価値を守るための取り組みが重要であり、7月オープン予定の世界遺産センターとの連携を図りながら、盗掘・盗採防止のパトロールや外来種の駆除活動、リュウキュウアユやサンゴ礁の保全活動を引き続き行い、奄美の特徴的な自然環境の保全・継承に努めてまいります。

今後の建設予定事業としましては、診療所の建て替え、防災会館の順次建て替え、給食センター建設、及び役場庁舎建設等があります。建設にあたっては将来的に財政を圧迫することがないように、見極めながら事業を進めてまいります。

農業の振興については、村の重点振興作物たんかんについてですが、専門家の巡回指導を定期的に行うと共に、近年、果樹支援対策事業を用いて増加しつつある、新規就業農家等に対し、関係機関と協力しながら、現地での栽培管理講習会を生育ステージごとに、開催してまいります。

また、規格外品の有効活用としまして、今年度も引き続き、たんかんジュース「濃いに恋して100%」の製造・販売を行い、ふるさと納税返礼品など、本村のPR材料として有効活用してまいります。

令和2年度より実施しています「うけんブランド確立事業」については、昨年同様に、共販及び委託選果を利用した、等級良以上のたんかんに対して手数料の助成、委託選果を利用した等級良以上のたんかんに対して、村独自でデザインした発送用ダンボール箱の配布、ブランド確立協力金を助成いたします。

また、今年度より新たに、マンゴーとパッションフルーツもブランド確立へ向けて、ふるさと納税の返礼品として出荷するものを対象に、村独自でデザインした発送用ダンボール箱を制作・配布し二弾・三弾目の「うけんブランド確立」を図りながら、生産者の出荷負担の軽減にも繋げていくよう取り組んでまいります。

パッションフルーツにつきましても、生産者への苗木供給と購入の助成を行い、生産安定に向けた取組みを推進し、合わせて、生勝生産組合育苗ハウスにおきまして、季節ごとの野菜苗などの栽培・販売を行い、村民及び高齢者の生きがいづくりに取り組んでまいります。

また、現在「鹿児島県の農林水産物認証制度・K-GAP」をマンゴー、トマト、採卵鶏は取得しており、たんかんの取得も順次進め、継続して認証されるよう、関係機関と協力し営農指導や講習会を行ってまいります。

また今年度から、農業用パイプハウスのリース事業を実施いたします。事業概要としましては、村内の農家を対象に、K6N型農業用パイプハウスの有償リースを行います。期間満了時には事業実施者へ譲渡する計画です。ハウス内で栽培する作物は村で指定している重点品目を想定しており、本事業を活用しての新規就農者や、規模拡大を促す計画であります。

サトウキビ振興については、機械の導入による植え付けから収穫までを機械化し、農家の労力軽減を図りつつ生産奨励金等の助成を引き続き行ってまいります。

畜産振興につきましては、巡回指導や研修会を通して、飼養管理技術や受胎率の向上、防疫体制を徹底し子牛・採卵鶏の品質や生産向上及び労働軽減を図り、安全で安心した経営ができるよう指導を行ってまいります。

農地の有効活用を図るため、農業委員や農地利用最適化推進委員会を中心に、農地中間管理機構へ農地の情報提供を継続して行い、農地の有効活用に努めるとともに、「多面的機能支払交付金」を活用し、村内各集落の環境保全を進めてまいります。今年度は、宇検村元気の出る公社において社員の増員等を図り、約5haの遊休農地解消の目標を掲げ、村、公社間で連携を密にし、耕作放棄地解消に取り組んでまいります。

現在、湯湾干拓の試験圃場にて、新規品目、アテモヤ・コーヒー等の試験栽培に取り組んでおり、風当たりの厳しい農地などの、条件不利地での栽培に適した品目の検討を、行ってまいります。

鳥獣被害対策としましては、依然としてイノシシによる農作物への被害が確認されており、今年度は田検地区において、鳥獣被害対策実践事業を活用した進入防止柵を整備してまいります。また、個人等で行った鳥獣被害防止用資材購入の一部助成、及び鳥獣被害対策実施隊による被害軽減活動も継続してまいります。

カラス被害については、現在1基設置している捕獲檻と、移動式の捕獲機を利用しながら被害軽減に努めてまいります。

林業の振興につきましては、世界自然遺産登録後の環境に配慮した伐採・森林整備・緑化の推進を行い、森林環境保全並びに森林資源の管理に努めてまいります。

水産業の振興につきましては、焼内湾で行っている養殖業は重要な雇用創出の場となっております。今後も、各事業者・村漁協など関係機関と連携し、漁場の環境整備・漁業従事者の確保・定着に努め、安定的な経営ができるよう協力してまいります。

また、本年度も農林水産物等輸送コスト支援事業や離島漁業再生支援事業、サンゴ礁保全対策事業を活用し、村内水産物の当該出荷に係る輸送費の補助、漁場の生産力向上を図るための取組、やけうち湾内でのオニヒトデ駆除を行ってまいります。

本年度より、第2期浜の活力再生プラン策定にあたり、漁家の皆様の所得向上を図るため、新設する農林水産物直売施設「うけん市場」への出荷・販売体制の見直しや充実を村漁協と一体となり取り組んでまいります。

商工業の振興につきましては、村内商店の経営者の高齢化や後継者不足により厳しい状況にあると思われま。

今後も、村商工会主導のもと村内での購買促進を促すための経営指導や地元優先の買物を推奨し、経営の合理化などの指導、助言を実施してまいります。

また、例年実施しております「やけうちどんと券」についても、販売期間や購入限度額などを検討し、今年度も継続していく予定であります。

また、農林水産物輸送コスト支援事業につきましては、県本土との流通条件不利性を改善し、生産・産業振興の推進を図るため、奄美群島振興交付金を活用し、農林水産物や加工品（黒糖焼酎等）の輸送費補助を継続してまいります。

今年度の地籍調査箇所については、前年度に引き続き芦検地区、新規調査箇所として田検・湯湾地区の調査を進めてまいります。調査を推進することにより、個人財産の適正な管理・公共事業の推進や、災害時の所有者判明に役立つよう、早急に事業推進を図ってまいります。

今月に完成する観光拠点施設「ケンムンの館」は、これから先、宇検村の経済や人の流れの拠点となり、観光産業の中心を担う施設として、指定管理者の運営により稼働していきます。認知度もあがり利用客が年々増加している、「うけん市場」を本施設内に移転し、観光客と村民の交流のきっかけとなる場の創出を図ってまいります。

また、「ケンムンの館」に、グリーンスローモビリティ愛称「マジンスローカー」と、村内2路線

のバスのターミナル機能を併設することにより、観光客や、村民がゆっくりすごせる空間づくりを目指してまいります。

来訪者が最初に立ち寄る「ケンムンの館」の、観光窓口を充実させ世界自然遺産登録を契機とする、多種多様な観光客に対し、宇検村の価値を共有できるような情報発信に努め、宇検村ファンや関係人口の拡大と、観光に携わる方々の収入増を目指してまいります。

奄美群島が広域的に実施する観光施策と、村独自の施策をマッチングさせ、体験メニューや自然観察の価値を上げるための、宇検独自の観光形態を確立させ、観光業の発展に努めてまいります。

引き続き、友好都市の協定を結んでいる宮城県七ヶ宿町との、両町村での物産販売をはじめ、物流、人的交流が発展するよう推進してまいります。

また、屋鈍集落から瀬戸内町西古見集落間の道路を整備し、奄美大島南部の観光名所をつなぐルートを確立し、南部大島の観光発展を目指してまいります。

現在、国は、「激甚化する風水害や切迫する大規模地震への対策」「予防保全型インフラメンテナンスへの転換に向けた老朽化対策の加速」「国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進」の各分野につきまして、更なる加速化・進化を図ることとし、令和7年度までの5か年に、追加的に必要となる事業規模等を定め、重点的・集中的に対策を講じる方針であります。

本村の地理的条件を踏まえながら、危険箇所の解消を図るため、地域の実情に即した整備に努めてまいります。

まず、県管理の道路整備につきましては、利便性の向上及び災害に強い道づくりを目指し、県道曾津高崎線の平田工区の改良事業を継続してまいります。今後、佐念集落からタエン浜間の道路改良工事、また、阿室集落から屋鈍集落間についても用地調査中でもあり、災害防除事業で整備して行く予定であります。

湯湾新村線の、赤土山工区につきましては、世界自然遺産登録地であるため環境に配慮して事業費が莫大になることと、事業の長期化が課題となっておりますが、奄美大島南部地域の活性化と地域住民の安全を図る面からも、新たなルートの検討も含めた、早期の調査並びに計画策定に取り組んでもらうよう、県及び国に継続して要望してまいります。

村道の整備につきましては、社会資本整備総合交付金事業で、宇検船越線、屋鈍曾津高崎線の改良工事を実施してまいります。防災安全社会資本整備交付金事業で、赤土山線、田検名音線の舗装補修工事を実施してまいります。

村単道路整備については、宇検防災会館隣接路線の舗装工事、宇検船越線法面保護工事、須古石良線舗装修繕工事、湯湾集落内の冠水対策工事、湯湾大棚線区画線設置工事を実施してまいります。

道路維持管理の県道については、権限移譲交付金で道路の除草、路傍樹の管理をしてまいります。また、村道、林道、農道につきましては、新たに元気の出る公社と業務協定を締結し、民間事業所との委託業務の住み分けを図り、適正な維持管理作業を推進してまいります。

港湾の整備の湯湾港須古地区につきましては、岸壁の補修工事を継続して実施してまいります。名柄港につきましては、海岸堤防等老朽化対策事業で既設護岸の補修工事を実施してまいります。

漁港関連事業につきましては、芦検漁港施設及び宇検漁港海岸施設の機能保全計画に基づき、保全工事を行い効率的な維持管理、既設施設の長寿命化及び、ライフサイクルコスト縮減を図るため、施設の整備をしてまいります。

県営事業では、急傾斜地崩壊対策工事で、湯湾下朝戸地区、芦検池城地区を継続事業で整備し、新規事業で久志小中学校山側の整備をしてまいります。

また、砂防事業では、芦検脇田川を継続事業で整備し、新規で久志集落の砂防施設整備に実施してまいります。

次に、保健福祉についてですが、本村における人口は、年々減少傾向にあり、全人口に占める高齢者の比率が国・県及び郡内の他町村に比べても高い状況にあります。

本村の現状は、令和3年12月末現在で世帯数が951世帯、人口1,667名で内訳が男性815名、女性852名であります。また、高齢化率も65歳以上が746名、44.75%で75歳以上が378名、22.68%となっております。

新型コロナウイルス感染症対策につきましては、令和2年度から令和3年度にかけ、日本国内のみならず世界規模で、新型コロナウイルス感染症が爆発的に広がり、保健福祉関連事業等の推進に大きな支障をきたしております。

この新型コロナウイルス感染症においては、世界的に感染を広げる変異株オミクロン株が、国内また県内においても急拡大を広げ、奄美大島でも年明けから感染が確認されはじめ、本村においても1月8日に初の新型コロナウイルス感染者が確認され、今日で18例の感染が発表されております。

オミクロン株は、他のデルタ株とは異なり感染力が強く、軽症者が多いと聞いておりますが、高齢者や基礎疾患を有する方においては、重症化する恐れもあります。

感染対策につきましては、国や県による支援措置などの対策と連動しながら、感染防止対策をしっかり講じると共に、検査体制の確保・充実に、関係機関と共に取り組み、村民の皆さんの安心と安全が図られるよう、引き続き緊張感を持って、新型コロナウイルス感染症対策に取り組んでまいります。

また、本村においても村民の皆さんが楽しみにしている各種行事・教室等も中止させざるを得ない状況にあります。令和4年度は、これまで培ってきた新型コロナウイルス感染症対策の知見を基に感染状況も考慮しつつ、コロナ禍での開催についても、前向きに検討してまいります。

地域共生推進事業につきましては、「地域共生社会」の理念に基づき、様々なニーズや、社会的孤立等の問題に対応するため、令和元年度より事業を実施しております。

令和2年度に、村の社会福祉協議会と協定を結び、村から職員を派遣し、令和4年3月に、地域福祉活動計画案を作成する予定であります。

令和4年度は、住民参画のもと、村の最上位の福祉計画である、「宇検村地域福祉計画」を策定

し、重層的支援体制整備事業に向けた、移行準備事業等を活用し、村社協等と協働して、地域福祉の推進に努めてまいります。

介護保険事業につきましては、介護保険制度の理念に基づき、地域包括支援センターを中心に、自立支援と重症化を念頭に置いた事業を展開してまいります。

地域支援事業につきましては、村民主体の介護予防活動である、「いきいきどうくさ体操」や、サポート運営型の「頭の体操教室」などの支援を行い、村民自らが介護予防、支えあいに取り組む地域づくりを目指し、地域ケアシステムの進化推進を図ってまいります。

保健事業につきましては、宇検村健康増進計画「いきいき健康うけん21」、「国保データヘルス計画」、「後期高齢者データヘルス計画」に則し、本村の健康課題であります脳卒中对策を推進してまいります。平成29年度に策定いたしました「いきいき健康うけん21」での取り組み成果としまして、特定検診受診率の向上、国民健康保険一人当たり医療費と、後期高齢者一人当たり医療費の抑制などがあげられます。これは、村民の皆さんの健康意識の向上や、各種健診や教室への参加などを通して、予防活動に取り組まれていることの賜物であります。今年度は、これらの評価・分析結果を基に「第2期いきいき健康うけん21」の策定に努め、国保保険事業・高齢者の保健事業と介護予防事業を一体的に実施し、村民の健康寿命の延伸・生活の質QOLの向上を目指してまいります。

引続き、特定健診・長寿健診・各種がん検診受診率の向上を図り、各種予防事業を効果的に実施し、生活習慣病重症化予防・医療費適正化に努めてまいります。特に、若年世代から健康診断受診や運動習慣の継続など、発症予防に向けた環境整備にも力を入れて取り組んでまいります。

障がい者福祉については、関係機関と連携し「宇検村第6期障がい福祉計画・第2期障がい児福祉計画」に基づく事業に取り組むと共に、すべての村民がお互いの人格を尊重しあいながら、誰もが同じように暮らせる社会を目指し、きめ細やかな相談・支援・情報提供を図ってまいります。

母子保健事業につきましては、妊娠から育児期までの切れ目のない支援を行い、妊産婦健診や乳幼児健診の各種健診、保育指導の充実を図り、安心して出産や子育てができるよう、子育て世代包括支援センターにおいて、専門職による相談支援及び、子育てへの不安解消をはじめ、産後のうつ病や虐待などの未然防止に、取り組んでまいります。

児童福祉につきましては、「第2期宇検村子ども・子育て支援事業計画」に示している、「地域の心がつながり、皆が育む玉黄金！だれもが笑顔になれるむら うけん」の考えのもと、安心して生み育てられる環境づくり、子育てを応援する環境づくり、地域における子育て支援の充実を図ってまいります。

令和3年度から開設しております、放課後児童クラブにつきましても、各関係機関と密に協議を行いながら、充実した活動ができるよう、取り組んでまいります。子育て支援の一環として、出産祝い金や入学祝い金、子育て世帯への住宅家賃助成等も継続して実施してまいります。

自殺対策につきましては、「宇検村自殺対策計画」のもと、関係機関と連携を図りながら、自殺対策を支援する人材育成の強化のためゲートキーパー養成研修の開催、児童生徒の心身の健康に関

する、教育の推進等に取り組んでまいります。

次に、国保施設事業につきましては、令和4年度におきましても医師1人、看護師1人、会計年度任用職員の非常勤1名、看護師1名、医療事務1名で、週5回の診療体制を整えてまいります。

令和3年9月より、特別養護老人ホームの嘱託医として業務を実施しており、令和4年度においても週1回の医療業務を行ってまいります。また、社会福祉法人施設と、協力医療機関委託契約を締結しており、利用者の緊急時の診療及び入院等に関する業務を行ってまいります。

また、現診療所は昭和54年に建設され42年が経過し、老朽化に伴い建物自体の天井、外壁等の一部が腐食し、補修を繰り返しながら維持している状況であります。また、トイレや階段等は、バリアフリー化がなされておらず、障がい者や高齢者などの身体の不自由な方へご不便をおかけしている状況であります。

村内唯一の医療機関として、村民の日常を支える重要な役割を果たし、地域に拓かれた健康ステーションとしての診療所を、今年度で実施設計を行い、令和5年度の竣工を目指してまいります。

高校生通学バス助成金につきましては、定住及びUターン者の促進を図るため、帰省等に係るバス利用料、及び通学バス利用料助成を、実施してまいります。

次に、自然環境及び生活環境の保全についてですが、国が脱炭素社会の実現を打ち出す中、宇検村としても脱炭素型地域づくりを模索していく必要があります。

今年度は、宇検村の特色や地域資源を生かして、バイオマス、太陽光、小水力、風力など再生可能エネルギーを利用した地域づくりを積極的に推進していきます。村民、事業者、行政がそれぞれの役割を担いながら、相互連携して再生可能エネルギーを推進し、経済の循環、エネルギーの地産地消、災害時も含めた地域エネルギーの自立と、環境負荷の低減を図ってまいります。

村民総意の元、脱炭素社会を目指す村として、3月20日に、観光拠点施設「ケムムの館」の落成式の中で、「ゼロカーボンシティ宣言」を発する予定にしております。

ゴミの不法投棄対策については、村内の林道や主要道路沿いの山裾など、不法投棄発生箇所を中心に年間を通じてパトロールを行うとともに、不法投棄が発生した地域については、注意喚起の看板の設置及びチラシを配布し、生活環境の保全に努めてまいります。

海岸漂着物対策事業につきましては、現在、台風や偏西風、潮の流れ等の影響により、年間を通して焼内湾で海岸漂着ゴミ、及び軽石が発生している状況であるため、引き続き国の補助事業を活用し、村内の海岸に漂着しているゴミの回収及び処理を行い、海岸の環境保全に努めてまいります。

野良猫TNR事業につきましては、奄美大島には、アマミノクロウサギをはじめ、多くの希少動植物が生息しておりますが、森林内では、ノネコによる希少動物の捕殺が確認されております。

また、集落に生息する野良猫もノネコの発生源となり、希少動物を脅かす存在となっております。

そこで希少動物を守るために、昨年に引き続き野良猫TNR事業を実施し野良猫の減少を目的と

した事業を推進してまいります。

飼い猫につきましては、適正飼養、動物愛護の意識の向上、また、地域生活環境の向上並びに自然環境及び生態系の保全を図ることを目的とした、不妊手術やマイクロチップ装置の助成を今後も継続し、村内のノネコ・野良猫の発生源対策に努めてまいります。

合併浄化槽設置の推進については、生活排水による公共水域の水質汚染を防止するため、引き続き、国・県の補助事業も活用して、し尿と雑排水を合わせて処理する合併浄化槽の設置促進に取り組んでまいります。

簡易水道事業につきましては、集落内の配水管を順次更新しておりますが、今年度は、湯湾地区内の配水管の更新を行う予定であります。今後も、安全で安心な生活用水を供給するために、適切に対応してまいります。

住宅整備につきましては、今年度は名柄ヤチハマ団地の改修工事を進めてまいります。この住宅は、平成3年度竣工から約30年が経過しており、経年の劣化による老朽化が著しい状態であります。本事業を導入することで、建物自体の長寿命化と設備等の更新を行い、快適な居住空間を確保するものであります。

人口減少や建築物の老朽化、居住形態の多様化により、空家等の増加傾向は今後も続くことが予測されます。令和3年10月に策定した、宇検村空家等対策計画に基づき、不適切な状態にある危険廃屋を、解体・撤去する事業を展開し、村民の生活環境保全及び安心・安全な村づくりの推進を図ってまいります。

農業集落排水事業については、平成29年度から機能強化更新事業で順次整備しておりますが、今年度は、宇検中央地区真空弁の更新、芦検地区機械設備、電気設備・真空弁更新等の工事を実施してまいります。

次に、人権教育及び人権啓発についてですが、人権啓発活動の推進につきましては、各関係機関・団体等と連携を図りながら、人権問題についての理解認識を深め、差別意識を解消し、人権の尊重されるむらづくりに努め、特設人権相談所開設等、継続した人権啓発活動に取り組んでまいります。

次に、消防・防災について、村民が安心して暮らせる村づくりは、最も重要な施策の基本とするものであります。

一昨年は、台風10号で多くの教訓を得、先日は突然の津波警報で、自助共助の大切さと公助として取り組むべき課題が浮き彫りになりました。特に、一次避難のあり方と避難行動を継続することへの支援は急務であり、集落、消防団と連携し体制を整えてまいります。

今後、30年以内に80%の確率で発生すると予想されている、南海トラフ地震への対応は、私たち世代に現実的に起こるものとして備えておかなければなりません。

今年度も、防災訓練と研修を積極的に進めてまいります。併せて、自主防災組織の運営研修を継続して行い、災害時の避難行動を自主的に判断できるよう意識の向上に努めてまいります。

避難所となる公民館につきましても、劣化度診断をもとに、老朽化の著しい公民館から順次整備を進めてまいります。

有事の際、宇検分駐所職員はもとより、消防団員のご協力も必要不可欠であります。職員、団員の資質向上のため積極的な研修受講も引き続き進めてまいります。

今後も、村民の防災意識の向上を図り、自助、共助、公助のそれぞれの役割を明確化し、関係団体等と密な連携をとりながら、村民が安全で安心して暮らせる環境づくりを進めてまいります。

次に、教育行政について。令和4年度におきましても、宇検村教育振興基本計画を踏まえ、「ふるさとを愛し、未来（あす）へはばたく、心豊かでたくましい人づくり」を教育行政推進の基本目標とし、その推進にあたっては、「ふるさとの豊かな風土や教育的な伝統を生かし、ふるさとに立つ教育」を視点として取り組んでまいります。

学校教育におきましては、「生きる力を備えた元気な宇検村の子供の育成」を目標として、個々の児童生徒に密着した道徳教育や生徒指導、人権教育、読書活動等を推進するとともに、村教育相談員・スクールソーシャルワーカーの活用や体験活動の取組、いじめ防止基本計画に基づいた対策等を推進してまいります。

また、児童生徒の健やかな育成のために授業や部活動、一校一運動、食育などの一層の充実に取り組み、学校給食の無償化や部活動の大会出場等への助成も継続してまいります。あわせて、近年の災害発生状況等を踏まえ、危険予知、回避能力の育成など防災教育の充実にも努めてまいります。

本村の児童生徒の学力は、今年1月に小学5年生、中学1・2年生を対象として実施された鹿児島学習定着度調査の結果において、小学校では国語・社会・算数・理科、中学校では国語・社会・数学・理科・英語の全教科が県平均以上を達成している状況であります。ただし、県平均を大きく上回っている教科とわずかに上回っている教科の差がありました。また、児童生徒により個人差があることや、思考力・判断力・表現力等の向上の課題もあります。

その解決を目指すために、村教育研究会による各種教職員研修会や校内研修会を実施し、個人に応じた指導や複式・少人数指導を充実してまいります。あわせて、昨年度整備されたGIGAスクール構想による「児童生徒一人、1台タブレット端末」利用による情報活用能力などの向上を図ってまいります。

また、特別支援教育支援員による支援や、英語教育小学校専科指導教員や、英語指導助手（ALT）活用による外国語教育の充実、昨年夏の「奄美・沖縄世界自然遺産」登録を機に開催された、「やけうちっ子環境学習・世界自然遺産博士講座」等も、引き続き取り組んでまいります。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症罹患者が本村においても発生いたしました。このような状況時に児童生徒の学習に遅れが出ないようにタブレット端末などを活用したオンラインでの自宅学習対策などを講じるよう努めてまいります。

さらに、学校における教職員の働き方改革を推進するため今年度、校務支援システムを導入し、

事務作業の負担軽減を図ってまいります。

あわせて、施設設備の点検補修や学校緑化に努めるとともに、児童生徒減少対策については、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し名柄校区・阿室校区活性化対策委員会と連携を密にしながら親子山村留学制度を継続して推進してまいります。

また、田検小中学校の共同調理場や小中併設校の調理場の今後について「学校給食のあり方検討委員会」を開催し、協議を行った結果、建設候補地の選定と、総合給食センター方式での整備を進めていく方向性を確認いたしました。今後の予定といたしましては村診療所建設後の令和7年度の建設を検討してまいります。

次に、社会教育と社会体育についてですが、令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策として、多くの社会教育関係行事や村民体育大会をはじめとする社会体育行事も開催中止となりました。

令和4年度におきましては、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら昨年同様、次の点に取り組んでまいります。

まず、本村の児童生徒の成長を見据え、家庭教育や家庭教育学級の充実、PTA活動や子ども会、社会教育関係団体の活動等の充実を図り、子育ての機運醸成に努めてまいります。さらに、村民が継続的に学ぶことのできる公民館講座や図書管理システムを導入し利便性の向上した図書室など各種施設の利用促進を図ってまいります。

また、児童生徒の健全育成事業につきましては、七ヶ宿町との児童相互交流事業を令和2年度・3年度はコロナ禍でやむなく中止しており、今年度は交流ができなかった中学生2学年合同の開催を予定しております。その他の事業では中学三年生テーブルマナー教室や茶道教室・新春書き初め会・やけうちっ子体験チャレンジスクールについても引き続き実施してまいります。

次に、生涯スポーツを通じた健康づくりと仲間づくりを推進するため、村体育協会を中心とした推進体制の整備を促進し、各種スポーツ大会運営の改善工夫やスポーツ少年団の健全育成、毎週月曜日夜間の体育館無料開放も継続してまいります。

さらに、スポーツ推進委員や関係団体などの協力を仰ぎながら、村内の社会体育施設の定期点検等を確実に実施し、事故防止に努めながら効果的な活用を進めてまいります。

あわせて、高校生・大学生などのスポーツ合宿誘致についても、引き続き推進してまいります。

続いて、「地域文化および芸術活動の振興」につきましては、今後も、文化協会や公民館講座の講師の先生方と連携を図りながら、文化芸術活動の普及・振興に努めてまいります。文化財保護についても昨年度は「佐念モーヤ」の老朽化した鉄筋コンクリート造りの屋根を撤去し、新たに風化防止のための屋根を建設いたしました。今後も有形、無形文化の保存・継承を推進してまいります。

公益財団法人から基金へ移行した「宇検村振興育英基金」については教育委員会内で業務の合理化を図り、本村の青少年の育成事業や奨学金制度を充実させてまいります。

以上、令和4年度の村政運営に対する所信と施策について概要を申し述べましたが、村政運営につ

いては、これからも村に住み続けたい、行ってみたいといわれる、村民の誇れる宇検村を目指し、社会の変化に合わせながら、新しいことに挑戦するという意味の、「チェンジ&チャレンジ」を合言葉に、職員一丸となり取り組んでまいりますので、議会議員並びに村民の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げ、令和4年度の施政方針といたします。

村民の皆様、心をひとつに、笑顔あふれる宇検村を築いていきましょう。以上であります。

○議長（杉浦治俊君）

これで令和4年度施政方針の説明を終わります。

暫時休憩します。開会は10時50分とします。

休憩 午前10時38分

再開 午前10時50分

△ 日程第6 承認第1号 専決処分 令和3年度宇検村一般会計補正予算について

○議長（杉浦治俊君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程第6、承認第1号、専決処分、令和3年度宇検村一般会計補正予算についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○村長（元山公知君）

承認第1号について提案理由のご説明をいたします。

承認第1号は、令和3年度宇検村一般会計補正予算についてですが、既定の予算に5,777万7,000円を追加し、歳入歳出予算総額をそれぞれ37億9,701万7,000円とするものです。

地方自治法第179条第1項の規定に基づき、専決処分したので、同条第3項の規定によりこれを報告し、議会の承認を求めます。

よろしくご審議をお願いいたします。

○議長（杉浦治俊君）

これで提案理由の説明は終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑ありませんか。

○2番（壽山新太郎君）

7ページの1目19節の扶助費の4,450万、例の国からのですね、非課税世帯に対する臨時給付金の件ですが、こちら、対象者の方に対して全世帯に対して、今支給率というか、支給されている進捗状況はどんな感じなんでしょうか。

○保健福祉課長（保枝力人君）

お答えいたします。この非課税世帯に対しての臨時給付金なんですけど、2月18日に1回目の申請の締め切りを行っております。その締め切りに合わせまして2月の25日に339世帯分の給付を行ってお

ります。また、今月の18日に2回目の締め切りを行いまして25日に支払い、また、最終の3月31日に残りの支払いをする予定であります。以上です。

○2番（壽山新太郎君）

ありがとうございます。こちらですね、対象者の方の申請書をですね、見てみますと、なかなか高齢者の方々分、ほとんど大半を占めていると思いますが、中身を見てみますと、書き方等にですね、かなり高齢者の方は困惑すると思います。実際、芦検なんですけど、高齢者の方が4・5件なんですけど、ちょっと申請書の書き方が分からんということで、説明をしに行った経緯があったものですから、ちょっと確認しますが、こちら申請書の内容はですね、現金支給ではなくて、全て口座振込であると思います。高齢者の方が記入の仕方が分からないということで、役場としましてのですね、そういう高齢者の方に対しての対応とかは、どういった形でされているのか、お伺いをします。

○保健福祉課長（保枝力人君）

お答えいたします。ご説明、集落内でありありがとうございます。集落での説明ありがとうございます。役場にもですね、問い合わせ数件来ておりますが、担当の者から口座の書き方とか、そういう書き方を指導して、全員が申請をされております。以上です。

○2番（壽山新太郎君）

やはりですね、こういった対策資金の給付金等はですね、やはりスピード感が非常に大事だと思いますので、職員の方も業務でいろいろ大変だと思いますが、できればですね、公民館に各集落集めてですね、記入の仕方の、申請の仕方とか、そういったこともですね、していただければ、住民サービスにもつながっていきますので、次回、またこういうのがありましたら、そういう対応をよろしくお願いします。以上です。

○議長（杉浦治俊君）

ほかに質疑ありませんか。

○6番（吉永常明君）

確認をしたいと思います。1目児童福祉の件で、19節の扶助費なんですけども、12月補正で確か250名の1,250万だと思うんですけど、今回10万増えているということは、1人増えた、1世帯増えたということですかね。

○保健福祉課長（保枝力人君）

ちょっと調べてよろしいでしょうか。すみません。

○議長（杉浦治俊君）

ほかに質疑ありませんか。

○保健福祉課長（保枝力人君）

お答えいたします。1人増加となっております。以上です。

○議長（杉浦治俊君）

ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

質疑なしと認めます。

これから、討論を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、承認第1号、専決処分、令和3年度宇検村一般会計補正予算についてを採決いたします。

お諮りします。

本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

承認第1号、専決処分、令和3年度宇検村一般会計補正予算については、原案のとおり可決されました。

- △ 日程第7 議案第1号 令和4年度宇検村一般会計予算について
- △ 日程第8 議案第2号 令和4年度宇検村国保事業特別会計予算について
- △ 日程第9 議案第3号 令和4年度宇検村国保施設事業特別会計予算について
- △ 日程第10 議案第4号 令和4年度宇検村簡易水道事業特別会計予算について
- △ 日程第11 議案第5号 令和4年度宇検村農業集落排水事業特別会計予算について
- △ 日程第12 議案第6号 令和4年度宇検村漁港漁村集落排水事業特別会計予算について
- △ 日程第13 議案第7号 令和4年度宇検村介護保険事業特別会計予算について
- △ 日程第14 議案第8号 令和4年度宇検村後期高齢者医療事業特別会計予算について

○議長（杉浦治俊君）

日程第7、議案第1号、令和4年度宇検村一般会計予算についてから、日程第14、議案第8号、令和4年度宇検村後期高齢者医療事業特別会計予算についてまでの8案を、一括議題とします。

本8件について、提案理由の説明を求めます。

○村長（元山公知君）

議案第1号、令和4年度宇検村一般会計予算から、議案第8号、令和4年度宇検村後期高齢者医療事

業特別会計予算までの提案理由のご説明をいたします。

議案第1号は、令和4年度宇検村一般会計予算についてですが、歳入歳出予算総額をそれぞれ32億5,275万8,000円とするものです。

議案第2号は、令和4年度宇検村国保事業特別会計予算についてですが、歳入歳出予算総額をそれぞれ2億1,215万4,000円とするものです。

議案第3号は、令和4年度宇検村国保施設事業特別会計予算についてですが、歳入歳出予算総額をそれぞれ9,171万9,000円とするものです。

議案第4号は、令和4年度宇検村簡易水道事業特別会計予算についてですが、歳入歳出予算総額をそれぞれ2億5,435万円とするものです。

議案第5号は、令和4年度宇検村農業集落排水事業特別会計予算についてですが、歳入歳出予算総額をそれぞれ1億391万6,000円とするものです。

議案第6号は、令和4年度宇検村漁港漁村集落排水事業特別会計予算についてですが、歳入歳出予算総額をそれぞれ1,698万円とするものです。

議案第7号は、令和4年度宇検村介護保険事業特別会計予算についてですが、歳入歳出予算総額をそれぞれ2億8,417万1,000円とするものです。

議案第8号は、令和4年度宇検村後期高齢者医療事業特別会計予算についてですが、歳入歳出予算総額をそれぞれ4,805万5,000円とするものです。

以上8件、よろしくご審議をお願いします。

○議長（杉浦治俊君）

これで提案理由の説明は終わりました。

本8案については、全員で構成する予算審査特別委員会を設置し、これに付託し審査することにしたと思います。

ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

本8案については、全員で構成する予算審査特別委員会に付託して審査することに決定しました。

これより、予算審査特別委員会の委員長及び副委員長を互選していただきます。

委員会の場所を議員控室と定めます。

暫時休憩いたします。

休憩 午前11時00分

再開 午前11時01分

○議長（杉浦治俊君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

予算審査特別委員会の委員長及び副委員長の互選の結果をお知らせします。

委員長に肥後充浩君、副委員長に喜島孝行君が決定しました。

以上、互選の結果をお知らせしました。

△ 日程第15 議案第9号 令和3年度宇検村一般会計補正予算について

○議長（杉浦治俊君）

日程第15、議案第9号、令和3年度宇検村一般会計補正予算についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○村長（元山公知君）

議案第9号について提案理由のご説明をいたします。

議案第9号は、令和3年度宇検村一般会計補正予算についてですが、既定の予算に8,181万2,000円を追加し、歳入歳出予算総額をそれぞれ38億7,882万9,000円とするため議会の議決を求めるものです。

よろしくご審議をお願いします。

○議長（杉浦治俊君）

これで提案理由の説明は終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑ありませんか。

○5番（肥後充浩君）

14ページの防災のほうの工事請負費、屋鈍の防災会館新築工事費の増が1,800万上がっていますけれども、当初でこれは7,800万の予算を計上されていたと思います。合わせて9,000万になっていますけれども、その増額の理由はこういった理由でしょうか。

○総務課長（原田俊昭君）

9月に7,800万組みまして、今回1,200万の増であります。これは最近のご承知のとおりでございますが、資材高騰並びにいろいろ設計を行い検討した結果、増額になっているということでもあります。以上です。

○5番（肥後充浩君）

資材の高騰は12月の時点でほかの工事のほうも増額というような形になっていたんですけども、今回、この3月の議会までに、やはりその金額が積み上がらなかったのかどうか、それともまだ品物が入って来てないから、この分、遅れていくのか、その辺をちょっと教えてください。

○総務課長（原田俊昭君）

工期がですね、今から、工期で言いますと、今から2月解体をして、来年度の末までには仕上げるという工期でありますので、その工期でいきますと、いろんな変更は予算の財源内訳とか考えると

難しくなっています。それで、よっぽどいろんな社会の変化がない限り、これ以上の大きな変化はないものと考えています。

○5番（肥後充浩君）

屋鈍の公民館はそんなに大きくない広さですので、それに使う資材等も1,200万まで大きいかなと思ったものですから、全体で9,000万のうちの増額だけで、資材の増額だけで1,200万というのは、なかなか、設計内容の変更、場所が広がったとか、そういったのも踏まえての話だったら、なかなか納得もいったところでしたけども、その辺はぜひ、今後とも材料の入って来るのが遅くなるだろうし、その辺は早急に打ち合わせながら行ってほしいと思います。

それと26ページの住宅管理費の中での修繕費で物件費521万円と計上されているんですけど、これは何の物件費なのか。冷房なのか、冷房とかそういったものなのか、そういったのは入っていないと思うんですけど、物件費というのは何なのか、教えてください。

それと、災害復旧費の520万減額されているんですけども、これは工事請負費520万、割と減額を大きいもんですから、ちゃんと住めるような状態での復旧で520万円余ったのか、それともどこかを削って520万円余らせたのか、ちょっとその辺を教えてください。

○建設課長（高田浩志君）

お答えします。26ページの公営住宅火災復旧の事業費の減額と、住宅管理費の521万の増額は、両方に絡んでいることなんでありまして、まず、公営住宅の火災復旧事業費、当初予算で2,475万を計上しておりまして、9月の補正時に575万増額をしております。これは建物全体、外壁だとか、屋根の防水工事等も含めて、見えない部分の火災時に見えない部分が相当あるということで、このときに575万計上いたしました。それで、契約で当初契約が2,123万で変更で増額406万計上して、工事費全体が2,529万で終わっております。これにつきましては、当初の2,123万の契約分は全額保険のほうで雑入で受け入れをするようにしております。今後、増額分の406万についても、保険が入って来る予定にはなっておりますが、ここで575万の減額をしました。それでこの芦検の1号棟、2号棟、3号棟において古い扉の不具合が非常に多くて、現在、古い扉は重量が重くて、なかなか開きにくいということで、そういうのがあったので、この事業費が減額になったお金で、それを住宅管理費で増額をしまして、今回、その扉の修繕費として計上しております。以上です。

○5番（肥後充浩君）

一応、流用してそれを使ったということで、有効的じゃないかと思っはいるんですけども、やはりこれは村単が伴っていますので、補助じゃなくて村単ですので、またその辺もよく考えながら予算の使用はしてほしいと思います。

それと、明許繰越が上がっているんですけども、今年、水道のほうまで合わせると約4億8,000万、4億8,500万ぐらいの繰り越しになっておりますけれども、昨年も5億2,000万の繰り越しがありました。昨年はコロナのほうで1億近くのお金を急に出てきたようなので繰り越しということで、話を聞いていたと思うんですけども、これは毎年こういうふうな4億から5億の繰り越し、これはもう抜

本的にこの2・3年ずっと続いていますので、これをどうしたら、なぜこれだけの多くの繰り越しが出るのか。その原因をある程度究明して、それに対応する施策を取るべきじゃないかと思うんですけれども、これをよく見ますと、建設課サイドのほうが多いかなと思っております。ですので、建設課の人員が足りないのか、足りなければまたそこに補充をして、それがスムーズに年度内で、ある程度予算消化ができるような形の方法も取れないのか、その辺はどうでしょうか。

○建設課長（高田浩志君）

この繰越明許費の4ページのほうに記載されておりますが、トータルで4億2,441万、合計繰り越しということにしてありますが、その中で建設課のほうが2億5,843万2,000円と半分以上占めておるんですけども、これにつきましては、毎年繰り越しを少なくするということとで話に上がっておりますが、29年度が4億6,300万、30年度が4億6,700万、R元年度が7億3,600万、R2が5億1,600万に比べると、過去5年の中では一番低いのかなと思っております。この中で、職員の繰り越しをなるべくしないようには心がけてやっております。この中で、社会資本整備交付金事業の1億が一番目立つ訳なんですけれども、これは屋鈍曾津高崎線と宇検船越の予算が多く占めておりますけれども、一応発注は既にしているんですけども、どうしてもその分の発注が遅れたために、その分の事業費を翌年度に繰り越しをしておりますが、それも業者にとりましては工事の一番少ない時期に繰越工事ができるというのもあると思います。その辺は考えてないんですけども、なるべく工期内に、年度内早く、早期発注にしていくように努めていきたいと考えております。

○5番（肥後充浩君）

確かに業者にとってみたらそれがいい方向にもなっているとは思いますが、工事の平準化というのが叫ばれている中、やはり今年度も今年度で、また予算を組んでいるわけですから、今年度の予算は先送りにして、前年度の予算を先にするようなことしかできないわけですから、繰り越しというのはそういう制度ですので、忙しいのも分かりますけど、また行政とも、村長とも話し合っ、人員が足りなければ足りないなりの方法で、やはり我々は4年度の予算は4年度でまた認めるわけですから、ただそれは4月1日からの執行はオーケーですので、だぶって発注できるところもあると思います。村単なんか特にどこの審査も要りませんので、村単独の事業というのはそのまま発注できますので、その辺も平準化の中に、当初の4月、5月、6月は村単事業を出して、6月以降の審査の要る補助事業に対しては6月以降に発注するとか、それでも足りなければ、やはりどうしても繰り越しを行う。そういう形のほうが一番スムーズじゃないかと思っていますので、今年は4億2,000万、水道まで入れると4億8,000万ですので、少なくはなっているんですけど、努力は認めますけれども、やはり平準化ということで、ぜひそういったふうをお願いしたいと思います。以上です。

○議長（杉浦治俊君）

ほかに質疑ありませんか。

○6番（吉永常明君）

23ページ、6目の14節工事請負で今回駐車場ということで3,000万上がっていますけれども、この間、企画課から説明いただいたこの中で、総工事費が9,700万、本体工事が7,000万、これ駐車場が2,200万と上がっているんですけど、この駐車場はどこを指すんですか。それが1点と、もう一つ、26ページ、非常備消防費の14節工事費の名柄の消防小屋が今回6月に補正が上って、今回また200万ほど上がっているんですけど、これもさっきから話が出ているように、多分材料費の値上げだと思うんだけど、その説明をお願いしたいと思います。

○企画観光課長（辰島月美君）

まず、6款の3,000万の工事請負費の増額についてお答えいたします。

体験観光多目的交流施設整備事業ですけれども、奄振事業で予算を確保している部分です。9,725万円の総事業費となって、その中で工事は始めております。その中には、全体枠として建物本体、そしてグリーンスローモビリティの導入、そしてそこに付随する園地並びに駐車場、そしてその舗装という、そのひとくくりで9,725万円の確保をして工事を進めてまいりましたが、先ほどの総務課長からの答弁もありましたように、資材の高騰であったり、コロナ禍の影響によるあらゆる経費の上昇ということで、本体価格、そして駐車場の整備に予想以上にも経費がかかったということで、その駐車場整備のほうを今年度確保したその9,725万円でおさまる部分の工事は今年度です。奄振事業も全体額の予算が不用額が出たということで各市町村で何か補正がないかということで、足りなかったその駐車場整備の経費を手を挙げまして、奄振事業の補正で3,000万要望いたしまして、ここのほうに残りの駐車場整備、そして芝張り、そして側溝、取付道路という、ちょっと、かなり上昇した分の経費を当てて、全体の工事を終了するというふうに、繰り越しのほうで終了させていただくことになっております。以上です。

○6番（吉永常明君）

ということは、これは駐車場じゃなくて、全体の金額が3,000万ということ、そういうのでいいのかな。

○企画観光課長（辰島月美君）

はい、全体枠の9,725万円の中で、建物が上昇した部分は駐車場で予想していた部分の予算をちょっと流用して工事をやっております。その駐車場自体もやはり予想以上に側溝整備とか、取付道路、そして舗装に係る部分が上昇しておりますので、全体の予算が上昇したということになっております。以上です。

○総務課長（原田俊昭君）

それでは26ページの消防の非常備消防名柄消防車庫の件でございますが、9月に予算を上げておりますが、その際は参考にできる車庫ということで、芦検のほうの車庫を参考にさせていただいて、750万上げて、設計も50万上げて行いましたが、その後、実際に設計に入って検討した結果ですね、やはり増額ということで対応するしかないということで、今回211万5,000円計上させていただいております。

○6番（吉永常明君）

さっきの同僚議員の話じゃないけど、結局これ、6月に補正がして、まだ全然何の手もつけてないんですよ。多分、あの頃、6月だって、6月すぐはできないだろうけども、例えばそのころに設計、ちゃんとそれまでにやっていたら、まだこういうことはならなかったと思うんです。今になって急激に材料が上がってきているんですよ、全て建設資材が。だから、やっぱりもう全体的に、行政の皆さんの工事とか、県との取り組みというのが、予算が発生してからの取り組みが、僕はもう非常に遅いと、かねがね思っていて、さっきの繰越明許のこともそうだけでも、ここで質問するのもやめて、今回の予算審査の中でちょっとやりあおうかなと思っていたんですけども、こういうことが考えたときに、消防小屋なんかは、やっぱりすぐ造ってやらないと、いつまでも野ざらししているんで、また工期が遅れてこういう結果になったと思うんですけど、そこら辺はどう思われます。

○総務課長（原田俊昭君）

確かに消防車庫のほうは、急ぎ工事を行わなければいけないということで進めておりましたが、ご存じの名柄の川のほうですね、向こうの工事の川の工事を行わないと、消防車庫の工事に入れないということで、そういう関係で今、ずれ込んでいるというところであります。もちろん、もうすぐ造ろうということで、取り組んではございました。そういう経緯がございます。以上です。

○6番（吉永常明君）

また後、詳しいことは予算審査でお伺いしたいと思います。以上です。

○2番（壽山新太郎君）

ちょっと1点だけ教えてください。20ページの12目12節の委託料マイナス516万4,000円、これは業務委託料の減なんですけど、これの理由の説明をお願いします。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

お答えします。地籍調査事業ですが、この12の委託料516万4,000円、これ事業費の減によります国から事業費がつくんですが、その減によります調整減となっております。以上です。

○議長（杉浦治俊君）

ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第9号、令和3年度宇検村一般会計補正予算についてを採決いたします。
お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

議案第9号、令和3年度宇検村一般会計補正予算については、原案のとおり可決されました。

△ 日程第16 議案第10号 令和3年度宇検村国保事業特別会計補正予算について

○議長（杉浦治俊君）

日程第16、議案第10号、令和3年度宇検村国保事業特別会計補正予算についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○村長（元山公知君）

議案第10号について提案理由のご説明をいたします。

議案第10号は、令和3年度宇検村国保事業特別会計補正予算についてですが、既定の予算に988万円を追加し、歳入歳出予算総額をそれぞれ2億2,169万5,000円とするため議会の議決を求めるものです。

よろしくご審議をお願いします。

○議長（杉浦治俊君）

これで提案理由の説明は終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑ありませんか。

ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第10号、令和3年度宇検村国保事業特別会計補正予算についてを採決いたします。
お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

議案第10号、令和3年度宇検村国保事業特別会計補正予算については、原案のとおり可決されました。

△ 日程第17 議案第11号 令和3年度宇検村簡易水道事業特別会計補正予算について

○議長（杉浦治俊君）

日程第17、議案第11号、令和3年度宇検村簡易水道事業特別会計補正予算についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○村長（元山公知君）

議案第11号について提案理由のご説明をいたします。

議案第11号は、令和3年度宇検村簡易水道事業特別会計補正予算についてですが、既定の予算から100万円を減額し、歳入歳出予算総額をそれぞれ2億3,319万7,000円とするため議会の議決を求めるものです。

よろしくご審議をお願いします。

○議長（杉浦治俊君）

これで提案理由の説明は終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑ありませんか。

○5番（肥後充浩君）

一つだけ教えてください。歳入で村債の簡水の水道事業債と辺地債から一般財源に切り替えているんですけども、組替えている形になっているんですけども、この辺は起債が認められなかったのか、それとも起債の枠がもうなかったのか、教えてください。

○総務課長（原田俊昭君）

お答えいたします。辺地対策事業債、これは国からの枠がございまして、その枠によって配分、その年度の事業の起債を当てていくんですが、枠が減ったといえますか、あててきた上でこの辺地対策事業分はここにこの分の額を当てることができなくて、一般財源で行ったと考えております。簡水についてもそのようにだと思いますが、詳しくはちょっと調べてからでよろしいですか。一応、枠の関係があると思っております。

○5番（肥後充浩君）

宇検村も余裕がある町村じゃありませんので、できるだけ一般会計を年度内で使い切るというのは、ちょっと厳しい部分もありますから、その辺、やはり起債で借りられる部分はちゃんと、それはもう当初で枠が分かっていると思いますので、その枠にあてはめて当初予算では組んでいるはずですので、その辺は今後とも気をつけて財政の厳しい折ですので、運用していくようお願いしたいと思います。ではまた、予算審議の中でも、この答えはよろしいですので、よろしく願いいたします。以上です。

○議長（杉浦治俊君）

ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第11号、令和3年度宇検村簡易水道事業特別会計補正予算についてを採決いたします。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

議案第11号、令和3年度宇検村簡易水道事業特別会計補正予算については、原案のとおり可決されました。

△ 日程第18 議案第12号 令和3年度宇検村農業集落排水事業特別会計補正予算について

○議長（杉浦治俊君）

日程第18、議案第12号、令和3年度宇検村農業集落排水事業特別会計補正予算についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○村長（元山公知君）

議案第12号について提案理由のご説明をいたします。

議案第12号は、令和3年度宇検村農業集落排水事業特別会計補正予算についてですが、既定の予算から347万3,000円を減額し、歳入歳出予算総額をそれぞれ1億1,267万4,000円とするため議会の議決を求めるものです。

よろしくご審議をお願いいたします。

○議長（杉浦治俊君）

これで提案理由の説明は終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第12号、令和3年度宇検村農業集落排水事業特別会計補正予算についてを採決いたします。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

議案第12号、令和3年度宇検村農業集落排水事業特別会計補正予算については、原案のとおり可決されました。

△ 日程第19 議案第13号 令和3年度宇検村介護保険事業特別会計補正予算について

○議長（杉浦治俊君）

日程第19、議案第13号、令和3年度宇検村介護保険事業特別会計補正予算についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○村長（元山公知君）

議案第13号について提案理由のご説明をいたします。

議案第13号は、令和3年度宇検村介護保険事業特別会計補正予算についてですが、既定の予算に396万6,000円を追加し、歳入歳出予算総額をそれぞれ3億180万6,000円とするため議会の議決を求めるものです。

よろしくご審議をお願いします。

○議長（杉浦治俊君）

これで提案理由の説明は終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第13号、令和3年度宇検村介護保険事業特別会計補正予算についてを採決いたします。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

議案第13号、令和3年度宇検村介護保険事業特別会計補正予算については、原案のとおり可決されました。

△ 日程第20 議案第14号 宇検村観光施設の設置及び管理等に関する条例の制定について

○議長（杉浦治俊君）

日程第20、議案第14号、宇検村観光施設の設置及び管理等に関する条例の制定についてを議題と

いたします。

本案について提案理由の説明を求めます。

○村長（元山公知君）

議案第14号について提案理由のご説明をいたします。

議案第14号は、宇検村観光施設の設置及び管理等に関する条例の制定についてですが、村内の観光施設の利用規定を明確化し、良好に管理するため、地方自治法第244条の2第1項の規定に基づき、条例を定めるもので、議会の議決を求めるものです。

よろしくご審議をお願いします。

○議長（杉浦治俊君）

これで提案理由の説明は終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑ありませんか。

○2番（壽山新太郎君）

すみません。第4条のですね、使用料の件なんですけど、ここを読みますと、使用許可申請を受ける施設のうち、これが別表2に該当すると思いますが、そのうち使用料が発生するものについてはあらかじめ使用料を納付すると書いておりますが、この別表2の説明の中でですね、使用料が発生する施設はどの施設なんでしょうか。

○企画観光課長（辰島月美君）

ケムムの館も部分的な会場を貸し出す予定にしております。それと待網公園なんですけれども、そちらも使用料というか、そちらの体験関係で使用料が発生するパターンがございます。ほかの公園などはあまり想定されてはいないと思うんですけども、今後、観光関係が展開するにあたって、公園を使用してそちらのほうにキャンプ、もしくはイベント、そういうときには、今後、手数料が発生させ、使用料が発生させるという可能性があるということで、広くこの条例を適用できるように制定しております。以上です。

○2番（壽山新太郎君）

その手数料とか、取るのもいいと思いますが、一応観光客とか、村民に対しての、そういった手数料が発生するところとか、周知のほうがいじですので、そこあたりよろしくをお願いします。以上です。

○議長（杉浦治俊君）

ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第14号、宇検村観光施設の設置及び管理等に関する条例の制定についてを採決いたします。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

議案第14号、宇検村観光施設の設置及び管理等に関する条例の制定については、原案のとおり可決されました。

△ 日程第21 議案第21号 観光拠点施設及び活性化センターの指定管理者の指定について

○議長（杉浦治俊君）

日程第21、議案第21号、観光拠点施設及び活性化センターの指定管理者の指定についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○村長（元山公知君）

議案第21号について提案理由のご説明をいたします。

議案第21号は、宇検村観光拠点施設及び宇検村活性化センターの指定管理者の指定についてですが、地方自治法第244条の2第6項の規定により、指定管理者となる団体の名称及び指定の期間について、議会の議決を求めるものです。

よろしくご審議をお願いいたします。

○議長（杉浦治俊君）

これで提案理由の説明は終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第21号、観光拠点施設及び活性化センターの指定管理者の指定についてを採決いたします。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

議案第21号、観光拠点施設及び活性化センターの指定管理者の指定については、原案のとおり可決されました。

これで本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会します。

○職員（松井 学君）

ご起立願います。一同、礼。

散会 午前11時42分

令和 4 年第 1 回宇検村議会定例会

第 2 日

令和 4 年 3 月 7 日

令和4年第1回宇検村議会定例会会議録
令和4年3月7日（月曜日）午前9時30分開議

1. 議事日程（第2号）

○日程第1 一般質問（通告順）

5番 肥後 充浩 議員

2番 壽山 新太郎 議員

6番 吉永 常明 議員

1番 倉本 富夫 議員

○散会の宣言

1. 本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

1. 出席議員

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	倉本富夫君	2番	壽山新太郎君
4番	海原隆家君	5番	肥後充浩君
6番	吉永常明君	7番	喜島孝行君
8番	杉浦治俊君		

1. 欠席議員

3番 保池穂好君

1. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

事務局長 松井学君 書記 楠田綾香君

1. 説明のため出席した者の職氏名

村長	元山公知君	会計課長	小松洋仁君
副村長	植田稔君	教育委員会事務局長	松元五月君
教育長	村野巳代治君	建設課長	高田浩志君
総務課長	原田俊昭君	住民税務課長	柳百々代君
保健福祉課長	栄光男君	産業振興課長	栄平四郎君
企画観光課長	辰島月美君		

△ 開 会 午前9時30分

○職員（松井 学君）

ご起立願います。一同、礼。

○議長（杉浦治俊君）

これから、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお配りしたとおりです。

△ 日程第1 一般質問

○議長（杉浦治俊君）

日程第1、一般質問を行います。

順番に質問を許します。

5番、肥後充浩君。

○5番（肥後充浩君）

場内の皆様、おはようございます。通告に従いまして一般質問を行いたいと思いますが、その前に一言所見を述べて申し上げたいと思います。

新年になりまして初めての議会であります。村民の皆様にはこの1年が良い年であるとともに、健康で過ごされますよう祈念いたします。世界におきましては、ウクライナにおける戦略戦争が起こっております。武力による平和ではなく、話し合いによる紛争解決の早期解決を心より願っております。また、多くの犠牲者が出ておりますが、犠牲者の方々に哀悼の意を表したいと思います。早く平和な日の来ることを強く望みます。

また、奄美大島においても新型コロナウイルスによる第6波の影響で、各地においてクラスター等が起こっておりますが、幸いにして宇検村においてはまだクラスター等の傾向は見られませんが、感染者の確認が行われております。村民の誰もが感染してもおかしくない状況であります。冷静な行動をし、引き続き十分に手洗いやうがい等の感染予防対策を行いながら日常生活をお願いしたいと思います。新種のウイルスもまた発見されているとの情報もあります。明るいニュースといたしまして、大島高校が甲子園出場という快挙がなされました。地元の高校生の頑張りに元気をもらいながら、先の見えない新型コロナウイルスですが、みんなでコロナウイルスに打ち勝ち、移動や旅行が気兼ねなくできるよう、健康で明るい宇検村をつくっていきましょう。

それでは、一般質問に移りたいと思います。

防災や災害対策について伺います。今回の津波警報は、実際に津波の被害がなくて安心しましたが、今考えるととても良い実際の避難訓練になったのではないのでしょうか。これを教訓にしていければと思います。

まず1点目ですが、1月16日に深夜に津波警報が発令され、最大3mの津波が予想されました。多くの村民が驚き、車や徒歩にて避難いたしました。このときの集落別の避難人数を教えてください。

各集落においては、自力で避難ができない方々や、深夜のために防災無線等が聞けない方々がいる。その方々の避難状況を教えてください。

2点目ですが、警報に対して対策本部は設置したのか、お答えください。私が拝見したところ、1人で警戒している方たちを見かけましたが、対策本部においてどのような指示であったのか。

3点目に、防災無線において避難の勧告通知は行っていたが、各地域の避難所の場所の周知はしていたのか。14集落の避難場所の徹底を行うための施策はどうしたのか。

4点目に、各集落の標高表示の設置の新設はできないのか。各集落を見たところ、表示の設置が各公民館にされております。そのほかはヘリポート地点に設置があります。湯湾集落内においては、集落内には見当たりません。3mの津波であれば10m以上の地点に避難すれば安全だと思います。その判断は、やはり標高の表示が基準になると思いますので、新設はできないのか。

5点目ですが、昨年湯湾地区であった全住民個々の避難計画作成を目指したモデル事業が実施されましたが、そのときの指摘事項はどのようなものだったのか、お答えください。また、そのことについて、今回、集落民との検証は行われたのか、お答えください。

次に、観光振興についてですが、夏の観光の目玉であるタエン浜海水浴場及び屋鈍海岸や船越海岸の軽石の撤去は、海水浴シーズンまでにはできないのか。また、私が12月に議会において、新年度予算にて対応してほしいと要望いたしました。船越海岸等は村の管理でありますので、何度か村の職員で撤去が行われております。屋鈍海岸においては、管理は鹿児島県ですが、集落民等の作業において撤去作業が行われております。タエン海水浴場は県からの委託を村が受けており、あまり撤去作業が進んでいるようには見えません。観光客にきれいな浜をぜひ楽しんでもらうためにも、軽石の除去はできないのか。

次に、県道の草木はきれいに除去されており、ドライバーにとってとても安全に通行できる。感謝しております。佐念から先の県道においても、道路外の草木の除去がなされており快適ですが、観光面として前線とは言いませんが、道路から海が見えるような伐採作業はできないのか、お聞きします。

次に、世界自然遺産登録になり、観光に力を入れるときに、このコロナ禍で観光業にとっても痛手だと思います。この状況の中ではありますが、今、通行できない林道赤房線の通行止めの解除の計画はないのか。また、どのような理由で通行できないのかお聞きします。

次に、先日4日の日の施政方針が示されましたが、その中から3点ほど質問いたします。

1点目に、7月オープン予定の世界自然遺産センターとの連携を図りとありますが、実際、どのような連携を取るのか、具体的に教えてください。

2点目ですが、昨年も規格品外のタンカンジュースの製造販売を行うと言っていたが、令和3年どのような業者が製造し、買い上げ販売したのか、実績を教えてください。

3点目に、診療所の本年度の実施計画とあるが、場所はどこなのか、建設計画はいつ決定したのか、平成30年12月5日に宇検村庁舎等検討委員会が25名の委員の下に検討を行い、当時の元田村長に

対して答申をしました。役場庁舎及び診療所は地元住民の生命・財産を守る本村の防災面での拠点施設、医療の拠点施設であり、長期にわたり中心的な施設などの建設には、住民アンケートや説明会等を通じて広く意見を聞いた上で判断していただきたいと答申をしている。どのような経緯で決定をしたのか、その手順は踏んだのか、お答えください。

あとは通告席にて再質問を行います。

○議長（杉浦治俊君）

ただいまの肥後充浩君の質問に対して答弁を求めます。

○村長（元山公知君）

皆様、おはようございます。それでは、肥後議員の御質問にお答えいたします。

まず、防災・災害対策についての1点目の、今回1月の津波警報において、村民の多くの方々が避難したが、避難人数を教えてくださいのご質問ですが、1月16日深夜0時15分の津波警報では、日本全国、特に奄美群島、トカラ列島では多くの方が避難し、奄美市や瀬戸内町では渋滞がおこるなど混乱を極めました。宇検村でも多くの村民が避難しました。訓練とは違い車での避難が大多数であり、広範囲であったため正確な人数はわかっておりませんが、区長さんとの連絡で545人という数字は把握しております。

次に、2点目の対策本部はいつ設置したのかとのご質問ですが、0時15分の緊急地震速報から職員が駆け付け、0時30分に警戒本部を設置し、総務課5名、他自主参集した職員で警戒に当たりました。避難の呼びかけと区長さんからの情報収集を行いました。夜中の警報中で危険を伴いますので新たに職員の招集は行いませんでした。

次に、3点目の防災無線において、各地域の避難場所の告知や広報は行ったのかとのご質問ですが、防災無線における告知は4回行いましたが、内容は住民避難の呼びかけであります。今回の津波警報時の避難については、さまざまな課題を実感しましたので、1月20日、元気の出る館にて、消防団、区長、役場職員計37名で意見交換し検証を行いました。中でも多かったのが、役場からの情報発信不足という意見でありました。今回は防災無線のみであったのでラジオやエリアメールも使い、同じ情報でも繰り返し伝えることの重要性を感じました。

また、村内の避難場所の告知でありますので、23か所ございますので、文書にしてしっかり伝えるため、エリアメールを適宜使用していく考えであります。

次に、4点目の各集落に標高表示板の新設・設置をできないかとのご質問ですが、現在標高掲示板は、平成24年度に50カ所、28年度に16カ所設置しています。28年度設置分は、ドクターヘリコプターのランデブーポイント表示の際に設置しましたが、しっかり文字が確認できるので問題ありませんが、24年度設置分が9年経過しており、ほとんどが文字を確認できない状態であります。住民が避難する上で、参考にして行動できるよう再設置をすすめてまいります。

また、現在鹿大の岩船先生が、村内の標高調査に入っておりますので、調査が終わりましたら地図に落とし込んで、集落単位で示し避難行動を支援してまいります。

次に、5点目の昨年の湯湾地区の防災モデル地区の検証はしたのかとのご質問ですが、今回の津波警報による避難行動については、村全域、全集落を対象に検証を行い、多くの課題が浮き彫りになりました。

ご質問の湯湾地区モデルの防災研修は、スーパー台風による高潮を想定して、避難所となり得る、集落内の高層建造物の把握と、その情報を共有し避難行動に活かしていくことを目的としております。

高潮は、台風など発達した低気圧により波浪が発生し、海面が異状に高くなる現象なので、雨風がしのげる高い建造物が避難場所に適します。

津波も、頑丈な高い建造物で、予想される津波の高さを超えるのであれば安全と考えますが、実際には、多くの方がより高い建造物より、より遠くへの避難を行ってまいりました。

今後も、湯湾地区のみならず防災研修を継続してまいります。津波と高潮の特徴を、集落の地形や家屋のつくりと照らし合わせながら、地域にあった避難のあり方を検討してまいります。

次に、観光振興についての1点目の、観光の目玉である、タエン浜海水浴場、及び屋鈍海岸・船越海岸の軽石の撤去は、夏の海水浴シーズンまでにできないかとのご質問ですが、タエン浜海水浴場は、大島支庁農村整備課、屋鈍海岸、船越海岸は、大島支庁瀬戸内事務所で、いずれも県管理であります。それぞれの県管理者が対応していますが、タエン浜海水浴場は、3月中に発注予定であります。屋鈍海岸は、村内業者のボランティアにより、昨年11月22日に大型土のう33袋分撤去しております。残っている軽石の撤去は、現在、関係機関との協議を行っており、協議終了後委託業務の発注を行い、できるだけ速やかに撤去できるよう努めてまいります。

船越海岸については、昨年11月に2回、今年2月に1回、軽石撤去作業を実施しております。村が主体となり、海岸漂着物回収処理事業費補助金を活用して、3月中には事業完了の予定であります。

しかし、軽石は完全に除去できるものではなく、まだ、漂着が続いている状況です。海流の影響を受け、軽石漂着がいつまで続くのか予想はできませんが、海岸の景観が損なわれることが続くことのないように、管理者である県と協議を行い、海開きのできる状態になるよう作業を進めていく予定であります。

次に、2点目の佐念集落から先の県道の、海岸側の草木の伐採をし、海面が見れるような作業は計画していないかとのご質問ですが、県道の維持管理については、道路管理事務交付金で村の委託業者が除草作業や路傍樹管理を行っております。委託業者では、年間の作業計画を立てて適正な維持管理作業を進めておりますが、年が明けてからの2月末ぐらいまでの寒い時期は、草の成長が鈍るため、車道部にかかる雑木や県道の余剰地及び法面の雑木処理を主に作業しております。

佐念集落からタエン浜海水浴場までの距離が、約2.5kmありますが、特に標高の高い所からタエン浜海水浴場までの、約500m区間が海面が見れない状況です。現況として、車両通行には支障もない状態であり、視界を遮っている樹木は、がけ下から伸びており、伐採になると危険を伴う作業になるため、現時点での伐採作業計画はありません。

次に、3点目の自然遺産や観光道路としても利用可能な、林道赤房線の通行止めの解除の計画はないのかとのご質問ですが、林道赤房線は、起点が県道湯湾新村線、終点が村道奄美中央線で全延長15.9kmのうち、宇検村管理分が約7.2km、奄美市（旧住用村）分が約8.7kmであります。

現在の道路状態は、長年の豪雨等による未舗装分の路面浸食が著しく、車両が通行できない状況となっております。このため、周辺の森林整備や自然保護パトロール等に支障を来している状況であります。全延長15.9kmのうち、普通車両通行可能が9.3km、路面状態が悪く4輪駆動車通行可能が5.3km、車両通行不能区間が1.3kmであります。

平成29年3月7日に、奄美群島国立公園としての指定があり、赤房線に関しても、国立公園第1種特別地域の中に取り込まれたため、道路復旧に関して、環境省との間で協議を一度しましたが、今後とも継続的に協議を重ね、道路復旧に向けた取り組みを行ってまいります。

次に、施政方針についての1点目の、施政方針において、7月オープン予定の世界自然遺産センターとの連携を図りとありますが、どのような連携なのか具体的に教えて下さいとのご質問ですが、奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島に関する情報提供、普及啓発等を核となっていく世界自然遺産センターは、5市町村がローテーションで職員を派遣し、環境省と鹿児島県、5市町村の協議会で運営を行います。奄美大島の自然体験フィールド等に関する案内・誘導・ルールの周知やイベントなど、活動を共有し広域的に取り組んでいく所存であります。

次に、2点目の昨年も規格品外のとんかんジュースの製造・販売を行うと言っていたが、令和3年はどの業者が製造し、買い上げ・販売の実績を教えてくださいとのご質問ですが、とんかんジュースを製造する業者につきましては、令和元年度当初より、薩摩川内市の業者へ依頼し製造しております。

次に買い上げ量ですが、令和3年産は581kg加工用とんかんを買い上げました。

次に、販売の数量になりますが、大瓶720mlを205本、小瓶180mlを673本製造し、うけん市場や三太郎の里で販売し、購入された皆様より、たくさんの好評価を受けております。また、ふるさと納税の返礼品等としても利用しており、島外の方々へ宇検村のPRにも役立てております。

次に、3点目の、診療所の本年度実施設計とあるが、場所はどこなのか、また、建設の決定計画はいつ決定したのかとのご質問ですが、まず、場所につきましては、現在の診療所の駐車場が優先の候補地であり、建設計画の決定につきましては、診療所は優先的に施設整備を行う旨を関係課へ指示を出した令和2年8月であります。

診療所建設に至った経緯について、説明いたします。平成29年12月5日、第1回宇検村庁舎等建設検討委員会を、委員22名、事務局7名の参加のもと開催しております。検討内容としましては、宇検村庁舎等建設検討委員会設置要綱について、宇検村役場庁舎及び診療所の現況について、宇検村役場庁舎の耐震度調査の結果について、建て替えた場合の財源及び事業費について、建て替えるとした場合の建設場所についてなどの、検討をしております。

また、平成30年3月23日に、第2回目の委員会を、同メンバーで開催しております。

第1回目の検討委員会と同様の内容に加え、財政的な将来負担についても協議がなされております。

第3回目の宇検村庁舎等建設検討委員会は、平成30年12月5日に開催されております。検討内容としましては、現状での宇検村の財政シミュレーション、役場庁舎、診療所を建設した場合の財政シミュレーション、委員会としての村への具申案についての協議を行い、同日付けで検討委員会から村に対し、役場庁舎及び診療所の建て替えについての意見具申の提出がされております。

その具申の中で、役場庁舎、診療所両建築物について、村が実施した耐震度調査の結果では、倒壊の危険性はないということになっているが、診療所については、患者の利便性の向上を図るためにも建て替えは必要と考えるが、建て替えに際しては、次の意見を参考に取り組んで頂きたいとなっております。

まず、診療所建設場所について、一つ目が、地域住民の利便性については、現在診療所のある湯湾集落が、焼内湾を挟んだ本村の中心部に位置しており、役場や消防、福祉センター等の公共施設が集中していて、最も利便性が高いと考えられる。

次に、現在診療所の建設されている場所は、薬局も隣接していることから、土地が一段高い県道沿いの駐車場が最適ではないかと考えられるが、役場庁舎建設と診療所建設を同時期に建て替えるのであれば、役場庁舎と併設できないかも検討していただきたい。

いずれにしても、場所及び実施設計を行う前段階において、現場で勤務されている医師や、看護師等の意見も取り入れて進めていただきたい。

また、診療所建設時期についてですが、他の事業との整合性を図り、役場庁舎建設と同時期に建て替えるのか、十分検討して判断する必要がある。村の長期的財政シミュレーションを参考に、診療所建設時期については、平成36年度（令和6年度）から、平成41年度（令和11年度）の間に建設を検討することと具申されたところであります。

この具申を受け、診療所建て替えの協議を進めてきたところでもあります。診療所の運営は令和2年度より現医師に引き継がれ現在に至っておりますが、現在の医師着任後から月1回程度、診療所運営に関する会議を開催してまいりました。令和2年8月の会議において、村の公共施設整備において、診療所は優先的に施設整備を行う旨を決定し、関係課へ指示いたしました。

令和2年9月から、大島郡医師会「地域医療ビジョン×未来投資」勉強会の外部委員を、宇検診療所建設に関する医療アドバイザーとして委嘱をし、同月より12月にかけて6回の協議を開催いたしました。

今年度には、月1回程度の割合で会議を行い建設に向けての打ち合わせを実施しております。また、昨年12月21日に令和3年度第1回宇検村診療所建設検討委員会を新たに立ち上げ、開催いたしました。協議内容としましては、宇検村診療所建設検討委員会設置要綱について、宇検村診療所の概要について、宇検村診療所建設の検討に至った経緯について、今後のスケジュールなどについて、協議をしております。

また今月中に、第2回目の宇検村診療所建設検討委員会の開催を、予定しております。

以上であります。

○議長（杉浦治俊君）

再質問がありますか。

○5番（肥後充浩君）

まず、防災のほうから、545人という数字を把握しているということですけど、これは村の人口にしては3分の1程度、約4分の1程度になるんですけども、残りの方は避難しなかったということですか。

○総務課長（原田俊昭君）

お答えいたします。村長の答弁にもございますが、今回の避難は車での避難が非常に多くございました。それでも、区長さんとの連絡のやりとりはいたしまして、区長さんから把握できる分だけでもということで、避難者数を連絡いただいたんですが、その人数が大体、大体というか、545人でもございました。この人数は、大体いつも防災訓練を行うときがこのような人数になっております。ですが、申し上げましたが、車で避難した方が非常に多くございましたので、これ以上に大部分の方が避難したものと思っております。以上です。

○5番（肥後充浩君）

それでは、避難しなかった方の中で、自力で避難できない方々とか、そういう方々を把握していらっしゃるでしょうか。

○総務課長（原田俊昭君）

この1月20日の検証の会議の中で、各集落の避難のときの状況とか伺いました。この中で、消防団も入って一緒に検証を行いました。その中で、消防団の方は非常に避難の支援に頑張っていたいて、各集落の家々ですね、回って避難を支援してもらったんですが、やっぱりどうしても避難をできなかった方とか、実際おられたようでございます。正確な人数は分かっておりませんが、今、答弁にもありましたが、鹿大の岩船先生が入っておりますが、実際、どういうふうな避難行動であったのかというのをアンケートを取るとということで、実際、アンケートの案もできております。これがまた実際分かりやすいようなアンケートに見直してですね、皆さんに配って、実際、どこに避難されたかですね、把握して今後につなげていきたいと考えております。

○5番（肥後充浩君）

確かにその消防団員の方々は、本当に献身的に各家々を回って、個別で声をかけてもらってました。それは私も現状を見ているので、その方々の聞き取りをすると、どれぐらいの人なんかは避難できなかったというのは、逆に分かったら、この方なんかは、あの家の人はいるよという話を、私も何度も聞きましたので、あれなんか行ってないよとか、区長さんは把握されてなくても、消防団員の方々はその分は把握されてましたので、聞いたところですけども、やはりそういった方々も入れた検証委員会等をしないと、全体的なその避難の動向、動き方とか、そういったのが確実に

は分からないと思います。今日の新聞でも、去年の時点で宇検村は1,600名しかいませんので、1,600名のうちの子供と、そういった役場職員、若い人なんかを除くと、把握できる数は動けない数というのは少ないと思いますので、その辺はやはりしっかりと把握されて、避難体制をしてほしいと思います。

それと次に、対策本部なんですけれども、やはり役場職員は1次とか、2次とか、そういう防災のときの規定があると思うんですけれども、役場に非常事態の時に参加しなければならないみたいなのは作ってあると思うんですけれど、それには則っては、今回はしなかったということですね。

○総務課長（原田俊昭君）

普通の災害対策においては、まず、情報連絡体制を取って、それから警戒本部を設置して、状況を見ながらですね、対策本部に格上げしていくという対応を取ります。その際、総務課を基本として、総務課何名以上、各課何名以上というふうに体制を取っていきます。今回の場合、地震による津波ではございませんでした。それで、その警戒のですね、体制を取るのに、まずアラームが鳴って駆けつけてやったわけでございますが、まずは情報収集から始まるということで、総務課の職員が5名駆けつけましたので、その5名を中心に、まず警戒本部は総務課が中心で、私が、総務課長が本部長となりますので、総務課を中心に警戒本部をまず立ち上げて、情報収集に当たりました。それから、自主参集をした職員もありましたが、それぞれ役場庁舎の中で待機をして、いつでも体制は取っておりましたが、あのような状態でありましたので、現場にも行けず、その後の体制を強化するとか、そういうこともできませんでしたので、警戒本部を設置して対応に当たったということでもあります。

○5番（肥後充浩君）

それは通常時は確かに台風とか、高潮とかいうので、警戒本部を立てます。そのときはまだ時間があります。余裕をもって、じゃ、今晚は待機しよう、警戒本部を作りましょうとかいう余裕はあるんですけど、今回の場合は急なことで、津波ということで、警報が、国からの警報が鳴りました。だから、役場の体制としても、津波のときの体制と、それから普通のスーパー台風とか、そういった台風のときの避難体制とか、やっぱり緊急、同じく緊急なんですけれども、時間をもって対応できるときと、そうでないときの、やはり二重の体制づくり、そういったのは必要じゃないかと思うんですけど、その辺はどうですか。

○総務課長（原田俊昭君）

この体制につきましては、本当、今後こういうことがあったときはどうするかということで、まずは、役場の職員の中で、実際、話し合いを行いました。その中で、やはり津波となると、まずは身の安全を確保して、それから状況が落ち着いたら役場に参集というふうに、実際はなるということでありまして、まずは、ですけれども役場で体制を取らなければいけないので、その場合どうするかということをお話したところ、やはり、近くにいる職員が、まずは集合しなければ、体制を取れないだろうということで話し合ったところですね、湯湾集落にいる職員が18名ということが、ちゃん

と確認できていますので、まずは湯湾集落にいる職員は、とにかく役場に集合する。そして、総務課はもちろん全て集まる。まずはそれから体制を取って、順次状況を見て体制を格上げしていこうということで、話し合いを行いました。

○5番（肥後充浩君）

ぜひそういうふうな、緊急時とやはりゆっくり対応できる場合との割り振りは、ちょっと考えたほうが良いと思います。でないと、今回の場合みたいに急になって、じゃ5名と、総務課の5名と湯湾いる18名全部出てきたのかということ、そうじゃないはずですので、やはり、あなたは絶対出て来なければいけませんよというのが格付けされると、人間としてはやはり責任感がありますから、行って、自分もその対策本部の中でいろんなことをするんだということができるとと思いますので、やはり、1人で、5名の中で総務課長が陣頭指揮になりますけども、あとの4名の方は14集落に連絡せ、あれせ、これせと言っても、なかなかそれは絶対できませんので、やはりそういった体制だけをつくって、電話で全部連絡できるような、そういう緊急時の、超緊急時のときの、夜中で、我々もびっくりしましたので、じゃ、何がどうするかということに、あのマニュアルに書いてるとおり行おうかということ是可以しますので、ぜひそれは緊急時にも、避難場所にしても台風時と、それから津波時の場合、避難場所は全く分けていますので、そういったこともまた集落の方々も分かってない部分もあるんじゃないかと思います。ですので、やはり緊急時と、そういったゆっくり、ゆっくりではないですけども、完全に完璧にその体制が整えられるときの災害とは別に、やはりそういったのを作っておくべきだと思います。

対策本部をなぜかと聞いたのは、湯湾の集落の中でも、消防団員が1人で見張りをしていました。ということは、1人で行けということをや役場の対策本部とかが、消防団を伝わって言っているのか。やはり、こういった災害の場合は、我々は2人以上じゃないと、その人にもし何かあったときに、じゃ、この人どこにいるのというのを、ことも、その人を助けることもできませんので、今回は3mということで、波も小さいし、出て来れなかったんですけど、あちこち見ても、やっぱり1人で海のところでこうして、車を止めて消防車を止めて、こうして見ている方とか、やはり1人1人の動きが多かったんで、その辺の対策を、対策本部のほうから指示したのか、指示してあれば、それはちょっと違うんじゃないかと思って、身の安全のためには、やはり2人だと、おい、危ないから逃げようという判断もできますけど、1人だと、あげ、自分がいなくなったら、ここは誰が見るのかとか、そういうふうになってしまうと、なかなか動きがとれないと思いますので、ぜひその辺は対策本部としても2人以上の配置とか、そういった、じゃ、どこで見張っておけ、いったような、そういったのを、今回把握してないですよ。

○総務課長（原田俊昭君）

役場の職員につきましては、とにかく役場に集合したあと、出て行くときにはボードがありますけど、そこに出て行く、どこに出て行くと書いて、1人じゃなくて2人で、とにかくそういった対応を取れということで、ちゃんと伝えております。その消防団の現場については、こちらからの指示

とかはございませんでした。

○5番（肥後充浩君）

災害対策本部には消防団長とか、そういった方々も本部の中に来ますので、それをまた全体を取り仕切るのが総務課長です。ですので、やはりそういったところは気をつけて、やはり1人で行かさないように、ぜひ2人以上で警戒に当たってくれということは、ぜひやってほしいと思います。でないと、2次災害につながる可能性がありますので、今後、普通の災害対策についてもそうだと思います。1人でやっぱり行動させるということは、本当に危険なことです。台風でいつ飛ばされるかわからないし、物が飛んで来て倒れたときに、その人を助けるのは、そばにいるもう1人の方だと思いますので、その辺はぜひ災害対策本部長としても認識をされて、ぜひ警戒体制に移ってほしいと思います。

それと、滝の園や虹の園の避難状況とか、そういったのを、動けない人とか、全部で手助けをしないと動けない方々の避難状況とか、どういったことをしたのかということは情報として持っていますか。

○総務課長（原田俊昭君）

その施設の避難状況は、こちらで把握はしておりません。ですが、滝の園については、避難する場所になっていますので、そちらはほかの須古集落の方なんかは避難する場所と指定されていますので、そしてまた虹の園のほうも7.3mという高い地点にございますので、今後その虹の園の後ろを須古集落とか、避難場所としても考えてございますので、そういった地点ということもありまして、避難者の人数とかはこちらでは把握しておりません。

○5番（肥後充浩君）

今、避難場所として考えているということですので、改めてまたもう一度、その避難場所の検討とか、そういったのはする予定にしているんですか。

○総務課長（原田俊昭君）

全集落23カ所の避難場所ですね、今回検証を行ったときに、こちらが防災計画に載せてある指定避難の場所に、一次避難場所にですね、避難したか。実際にはどうであったかということを見たときに、実際には車で違うところとかですね、非常に、実際に避難した場所が違いました。全部違うというわけじゃないんですけど、一部違ったところもありましたので、今、全体的に各集落を回って、区長さんと話し合いながら見直しを行っているところであります。

○5番（肥後充浩君）

私も今回、車で避難したんですけども、私が注意したのは、ラジオをつけて、ラジオが通じるところで避難しなさいということをやったんですよ。でないと、いつ解除になるのか、もっと大きな津波が来るのかというのが、FMが聞こえる場所におれよということで指示して、私は知っている方々にはそうやって避難の方法をしたんですけども、やはり避難場所を設置するにしても、そういった、やっぱり聞こえない場所も宇検村ではありますから、何カ所か。だから、そういった場所

もちろん確実に、これはここにおれば、みんな情報が入って来てオーケーだよ、それとやっぱりトイレの近いところというようなことでしたんですけども、その辺も今後は考慮に入れて設定をしてほしいと思います。でないと、あげ、もうふんな、いつかでんまっちゅっていん、ぬんききやらんから、かえろうという方々も何人かみえましたので、ぜひその辺は村としても防災マップに入れるときには、防災無線等が聞こえるような場所、ラジオ、もちろん携帯が使える場所に設置をしてほしいと思います。その辺はどうですか。

○総務課長（原田俊昭君）

今回、避難のですね、今回の避難において検証した結果ですね、本当、こちらからの情報発信が不足していたということが、いろいろ指摘ありました。ですから、今後は同じ情報でも、何回でもですね、情報を発信していきたいと考えております。またその際には、FMラジオですか、そこにもう割り込みをですね、最大限に使って、防災無線と同時にではなくて、FMだけの割り込みもできますので、そういったのを最大限に使って周知をしていきたいと思っております。その際、聞こえるか聞こえないか、それも考えながら避難場所を検討してまいります。

○5番（肥後充浩君）

それと、私は湯湾の中を3mということで、湯湾の中を走って、じゃ、10mぐらいに行けば大丈夫だと思って、標高を探したんですけども、県道沿いに全然標高がなくて、どこにも湯湾集落内、見当たりませんでした。各集落ある程度回ってみると、公民館に表示している部分が大多数でございました。佐念方面に道路に1・2カ所あったところですけども、今度、ハザードマップにはちゃんとその標高は、避難場所の標高は書いてあるんですけども、実際に現地には書いていません。この地点で避難場所と書いてあるこの地点で10mなのか15mなのか20mなのかという、それはついていません。ですので、そういった場所にも標高設置はぜひしてほしいんですけども、その辺は今後、予算を組んで設置する予定はありますか。

○総務課長（原田俊昭君）

現在、66カ所ですか、表示板設置しておりますが、実際にはもう9年経った50カ所ですか、については、もう数字がほとんど見えないような状況になっておりますので、それも新しく見えるようにしながら、今度は鹿大の先生が今入って、標高を調べておりますので、そこら辺もプラスして防災マップの落とし込んでいきたい。そしてそれをですね、実際、集落ごとの地図を作って配布したいと思います。そうしないと、歩いたら表示が見えるんですけども、そこに行かないと実際は表示が見えないので、そうじゃなくて、地図上でどこは何mというふうに、もうそれぞれ頭の中に、皆さん、植え付けるような感じですね。もう集落ごとの表示が分かるのを全戸に配ってですね、皆さんに知らせていきたいと思っております。それプラス、おっしゃった、今から避難所として見直したところの地点のですね、表示もしっかり備え付けていきたいと考えております。

○5番（肥後充浩君）

それと併せて、今回、湯湾の避難した方は、こうやのほうに避難しているんですけども、そこ

まで行くのに今回は冬でしたので、歩いて行った方々もいらっしゃいます。ハブの心配は、今回は冬ですのでなかったんですけど、やはりこれから先、夏に夜中に、このくらい道を歩いて行けというのは、なかなか厳しいと思いますので、ソーラー付きの街灯をある程度、たくさんは要りませんが、それとその避難場所のその場所に、ぜひ街灯をほしいなと思っているんですけども、それはもうソーラーだったら十何年間もちますので、湯湾岳のソーラーが本当に長いこと、バッテリーだけ変えれば長いこともってましたので、多分1カ所すると十何年は確実にもつと思います。あとはメンテナンス次第だと思いますので、そういった考えを田検の四級にしてもそうです。やっぱり真っ暗な中で、みんなこうやって待っていますので、そうじゃなくて、ここが避難所だなど、一番最初歩いていった人が、そこに電気があればそこで待つということが出来ますので、佐念の避難場所にしてもそうです。だから、そういったところで、その場所でもいいですので、そういった街灯の新設はできないのか、その辺どうですか。

○総務課長（原田俊昭君）

今、全集落回って避難所を見直し、検討してございます。その中には、場所としてですね、標高は高いんですが、道路の路肩がちょっと広がっていて避難できる場所とか、そういうのも何か所かございます。そういうところは、普段、公園みたいな場所ではないので、路肩が広く、ただなっている場所とかです。そういうところは備え付けるのは難しいとは思いますが、場所によってはちゃんとした広場ですね、そういったのを設置するのに適したような場所もございますので、そういった避難場所にそれぞれ見直しながらですね、合った街灯の設置なり、こういう蓄電池ライトで対応するなり、検討していきたいと思っております。

○5番（肥後充浩君）

ぜひ実現してください。でないと、やはり歩いて行く方々にとっては大変だと思いますので、真夜中に暗い道を歩いてハブにでも咬まれたら大変だし、待っているところでハブに咬まれる可能性もありますので、やはりここが避難所だというのをするんだったら、せめて街灯の一つは付けてほしいと思いますので、ぜひその辺は考慮をお願いします。

次に、軽石の撤去は3月中に事業の完了予定ということですが、今からまだ季節風が吹きますので、なかなか3月中で事業を完了しても、その後にもた返って来る可能性がありますので、これを延ばして6月までに、大体6月から7月、8月にかけて、観光客はいらっしゃいますので、3月にしても、また軽石が返って来たら同じ状態になりますので、なるべくでしたらそういうのはできないでしょうか。

○住民税務課長（柳 百々代君）

はい、お答えします。3月中に事業完了となる予定の分は、船越海岸、村で予算を持っているものは船越海岸の分になります。6月、7月でやってということなんですが、今、予算を取っているものに対して、軽石を回収して、それを土捨て場のほうに運搬をして処理をするということを3月中に終了予定としていますので、それ以降に海岸漂着してくるものに対しては、そのときに状況を見なが

ら判断をして、次年度の計画していく中で、また予算を確保して処理をしていくというふうになっていくかと思います。以上です。

○5番（肥後充浩君）

タエンと屋鈍は県管理ですので、ぜひ県に今交渉しているはずですけども、できたら村としても観光資源の奄振の観光の中の一つになりますので、何か、観光の振興策の中で、県に頼らず早く、県がいつになるか分からんとなると、早急に切り替えてもらって、6月ぐらいには撤去できるような形は取れないですか。

○建設課長（高田浩志君）

お答えします。見通しなんですけども、農地海岸でありますタエン海水浴場は、農村整備課であります。3月中に発注をするという話を聞いております。また、屋鈍海岸につきましても、現在、環境省の許可申請中でありまして、これがですね、3月22日、3月中に設計しょうの起案をしまして、3月22日以降に作業可能ですよという返事もらっていますので、早急にそのような作業を県のほうが取り組んでいくとできております。

○5番（肥後充浩君）

ぜひ観光客に楽しんでもらえるようないい海岸が、もともとありますので、それをただ復活してほしいと思います。

それと、道路の伐採が厳しいということで書いてあるんですけども、3年か4年に1遍切れば、当分はもつと思いますので、地籍調査だろうが何だろうが、やはりがけ下まで下りて行って調査する、安全な方法でできる方法がありますので、ぜひその辺は、海の上から、道路から見るサンゴの海のきれいさは、観光客じゃなくても、我々でも普段、通るときに感動しますので、ぜひそれを復活させてほしいと思いますので、元々は見えているところだったんですけど、やはり草木が大きくなってそういうふうになっていますので、ぜひその辺はもう一度検討を行って、この時期に、今やっておけば、コロナが終わっても観光客をどんどん受け入れて、宇検村はいいなということがいえるようなことになりますので、ぜひその辺をよろしくお願ひしたいと思います。

それと、診療所問題なんですけど、あと5分しかないということで、答申の中に住民のアンケート調査や説明会等を通じ広く意見を聞いた上で判断していただきたいというのが、答えが載っています。ですので、アンケート調査とか、そういったのをやはり場所とか、そういったのを決めるのには、やっぱり村民の意見を幅広く聞いてほしいと思います。でないと、ここに書いてあるのは利便性とかいうんです、逆に、役場庁舎と診療所を一体化させたほうが利便性はずっといいわけですから、今後、50年、100年はやはりもたさないといけない施設です。ですので、ここは慎重に、やはり平成6年からですかね、令和6年からか、から11年の間にすることと、シミュレーションにも書いてあります。そのときもシミュレーション、30年の時点でもシミュレーションして、それも令和6年から11年、7年間だから大体13年、その辺までで造るのが望ましいということを書いてありますので、今、実際にもう診療所がぼろぼろで、どうしても建て替えなければならないということでしたら、

我々もすぐ、ああ、じゃ、もう緊急だなと思うんですけども、その前にやはり役場がぼろぼろになってしまって、中枢機能を果たさなくなってしまう、その恐れのほうが、逆に怖いので、役場の庁舎と一緒に、どっちみち金はかかります。だけども、それは村民を守るためであって、避難所も役場と併設して、その上に住用みたいに広い避難所も、今回の津波でも避難した方々がいらっしやいましたけども、話を聞くと、会議室のいすの上で年寄りが座っていたというような状況を聞いております。やはりそういったことも考えると、役場と診療所は同一のところで建てて、そしてどっちみち金を借りなければいけない、借金しなければいけない。じゃ、5年先に借金するのか、10年先に借金するのか、じゃ、今借金して一緒に造るのか、そういったことも踏まえながら、やはりアンケート、村民のアンケート調査等を行い、場所を決定し、全体的なシミュレーション、ここに診療所と役場と一緒にできないのか、なぜできないのかという、逆にそのシミュレーションを私は聞きたいと思っております。

だから、金が今余裕があるから造るとするのは、行政側の考えだけであって、住民に寄り添った考え方じゃないと思います。ですので、ぜひその辺はもう一度再考をしてもらって、ちゃんと答申にあるようにいろんなアンケートとか、そんなのを取って、我々も51%の人がいまのところでいいと言えば、それは賛成しますよ。ただし、今の場所ではやはり台風時期に、私はあそこを通りますけれども、なかなか歩いてなんかいけません、あそこは、台風時期に。だから、お医者様もそこには行けないはずで。けがした人をそこに連れて行くのもなかなか厳しい、そういう状況の場所ですので、あそこは岩面で波を受けるようなところですので、ぜひその辺をもう一度再考されて、またこの問題は予算委員会の中でもみんなで討議をしたいと思っておりますので、議員の方々もちょっと話したら、やはり利便性とか、そういったのを考えて、もうこっちのほうがいいんじゃないかと、診療所に宇検方面から病院に行く人を降ろして、私はちょっと役場に行って来るねって、あんた、終わったら待っときなさいということをやっていますので、そういったこともやはり考えながら、もう一度再考をお願いしたいと思います。

これで私の質問は終わります。ありがとうございました。

○議長（杉浦治俊君）

これで、5番、肥後充浩君の質問を終わります。

暫時休憩します。

休憩 午前10時32分

再開 午前10時45分

○議長（杉浦治俊君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、2番、壽山新太郎君。

○2番（壽山新太郎君）

場内の皆様、おはようございます。令和4年第1回定例会にあたりまして、一言所見を申し上げます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症が確認されてから2年が過ぎたところでございますが、年明けに世界的に感染を広げております変異株、オミクロン株が県内及び奄美大島においても感染爆発し、本村においても1月8日に初の感染者が確認されたところでございます。感染された方々に対しましてお見舞い申し上げますとともに、早期の回復を心からお祈り申し上げますとともに、日夜業務に従事され医療・介護などを支えていただいておりますエッセンシャルワーカーの皆様に対して、心より感謝を申し上げます。新型コロナウイルスが一日も早く収束し、村民の皆様の平常な生活ができるよう、この難局を村民一丸となって乗り越えていければと思っております。

それでは、通告に従いまして4点について一般質問を行います。

まず1点目に、たんかんブランド化について。1項目め、「うけんブランド確立事業」のたんかんブランド化について、今年度の事業成果はどうであったか。2項目め、将来を見据えたブランド化の更なる施策は考えているのか。3項目め、たんかんブランド化に向けた今後のたんかん農家育成について、村としての対応・対策は。

2点目に、観光の振興についてでございますが、1項目めに、今年度3月に完成する観光拠点施設「ケンムンの館」について、費用対効果も見据えた本村への集客対策として、村は、具体的にどのような情報発信を行っていくのか。2項目めに、世界自然遺産登録による観光客増加に向けた新たな村独自の観光施策はあるのか。3項目め、峰田山公園再整備について、村民の意見を反映し、事業実施に向け検討するとあったが、検討結果はどうであったか。

3点目に、労働人口の確保についてでございますが、人口減少は労働人口減少でもあり、宇検村の高齢化率は40%を超え、農家、介護の現場などあらゆる雇用の中で、労働人口確保に不安を抱えつつありますが、今後、村として、どのような施策を考えているのか、お伺いをいたします。

最後に4点目ですが、過去の質問事項に対する対応措置についてであります。令和3年9月定例会における、「福祉関連事業者に対する今後の対応」についての、答弁に対する対応策をどうとったのか。一つ、国や県と連携し、処遇改善、多様な人材活用促進、職場改善方策の進捗状況は。二つ目、村内福祉事業所の現状と課題を把握するための、村独自の実態調査結果はどうであったか。三つ目、資格取得費用助成制度の検討結果はどうであったか。

以上でございますが、あとは通告席にて質問をいたします。

○議長（杉浦治俊君）

ただいまの壽山新太郎君の質問に対して、答弁を求めます。

○村長（元山公知君）

壽山議員のご質問にお答えします。

まず、たんかんブランド化についての1点目の「うけんブランド確立事業」のたんかんブランド化について、今年度の事業成果はどうであったかとのご質問ですが、今年度2月末までの事業実施状況

ですが、委託選果に出された等級が、良以上のたんかんを対象に、村独自出荷用ダンボール箱の配布を、7農家の方に行っております。

委託選果手数料やブランド確立協力金の助成は、J Aあまみ大島事業本部の取りまとめた根拠資料が3月中旬に配布され、その後助成するため、今年度の助成はまだ行っていません。現時点の聞き取りによるの概算取扱量については6.7tとなっております。

取扱量としては、昨年度よりも倍増しており、奄美大島全体のたんかんの収量としても、裏年とされている本年の取扱量増加は本事業の成果によるものと思われまますので、検証し今後につなげていくよう取り組んでまいります。

次に、2点目の将来を見据えたブランド化の更なる施策はとのご質問ですが、たんかんにつきまして、現在実施している本事業は、事業開始から2年目を迎えました。当初より3年間の継続を計画しており、3年間の成果をJ Aあまみ委託選果機取扱量や、農家の方々へのアンケート調査及び反響等から分析を行い、次のブランド化につなげる、更なる施策を検討していきたいと考えております。また、他品目につきましては、現在、パッションフルーツとマンゴーにおいて、村独自にデザインした出荷用ダンボール箱の製作を、進めております。まずは、ふるさと納税の返礼品として出荷する際に使用する予定であります。

次に、3点目のたんかんブランド化に向けた、今後のたんかん農家育成について、村としての対応・対策はとのご質問ですが、現在宇検村内では、たんかんの生育ステージに合わせて、J Aあまみ・県の技術指導員と連携し、栽培講習会を行っております。さらに、月に一回程度の巡回指導を行い、個別での指導も合わせた、たんかん農家育成に努めております。

たんかんの新植や改植については、J Aあまみが主導している果樹経営支援対策事業と、産地パワーアップ事業の事業申請のサポートを継続して行い、新規参入、園地整備の支援も引き続き行ってまいります。

次に、観光の振興についての1点目の「ケンムンの館」について、本村への集客対策として、村は具体的にどのような情報発信を行っていくのかとのご質問ですが、情報発信のターゲット設定やアプローチは、最も重要なポイントとなってくると認識しております。今後の強みは「ケンムンの館」が行政でなく、指定管理者となる会社が、観光産業の拠点として発展的に運営することにあると思っております。

企画項目のひとつに「宇検村の魅力を理解し、適切な発信をすることにより、村内外の交流人口を活発化させる」とあります。広がる交流人口がさらなる発信源となるよう期待するところであります。

次に、2点目の世界自然遺産登録による観光客増加に向けた新たな村独自の観光施策はあるかとのご質問ですが、世界自然遺産登録地として、また奄美群島として広域的に取り組む一方で、宇検村独自の観光施策も重要であります。先ほど申し上げましたが、今後は「ケンムンの館」が中心となり、村民のため

の観光産業の拠点構築を目指してまいります。

村内の「楽しさ・面白さ・学び」を発信し、それに共感した方が宇検村にやってくる、このような観光形態を宇検村型観光形態とし、確立を目指してまいります。

次に、3点目の峰田山公園再整備について、村民の意見を反映し、事業実施に向け、検討するとあったが、検討結果はどうであったかのご質問ですが、峰田山公園については、現在のところ、不具合が頻繁に発生する水道関係の対処と修繕の他、園地草刈等の管理を行っている状況で、水道施設の再整備は検討されたものの、しばらくは現状のままに対応をするとの判断をし、公園全体については、検討はされておられません。再整備には莫大な予算がかかり、維持管理費のコストからも峰田山公園整備による費用対効果が打ち出せず、観光施設整備として優先的に取り組めていない状況であります。

令和3年度には、観光拠点施設「ケンムンの館」が完成、令和4年度には、観光基本計画を策定する予定であります。宇検村内の観光事業関係者及び住民と連携し、地域資源の発掘や問題点の整理を行い、10年先を考察した村民総意の観光計画書を作成する中で検討してまいります。

次に、労働人口の確保についての、人口減少は労働人口減少でもあり、宇検村の高齢化率は40%を超え、農家、介護の現場などあらゆる雇用の中で、労働人口確保に不安を抱えつつあるが、今後、村として、どのような施策を考えているのかのご質問ですが、商工業については、人工流出を防止し、消費人口を確保することと、産業の振興を図り、地域の購買力を高めることを基本に置いており、商品券発行事業や、商工会が実施する経営指導事業、創業支援指導事業など、商工会の事業運営に対して補助を行っているところであります。

また、今年度については新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、事業所支援としてキャリアアップ助成金を創設し、雇用基盤の強化を図っているところであります。

島内全体の活動では、地元雇用の創出による転出者抑制や、移住促進による転入者の増加といった目標を達成するために、産業や経済の活性化、その他の想像に資する取組と、魅力ある雇用やそれを担う人材の維持・確保の取組を一体的に実施し、雇用の改善を図るために「奄美大島雇用創造協議会」が令和2年5月に市町村連携で設立され、事業拡大のためのセミナーや、人材育成のための研修、U I J ターン向けの相談会を実施しております。

今後については、第二次宇検村まち・ひと・しごと創生総合戦略にそって関係機関と協議の上、事業を展開してまいります。

次に、過去の質問事項に対する対応措置についての、令和3年9月定例会における「福祉関連事業者に対する今後の対応」についての答弁に対する対応策をどうとったのかとの御質問の1点目の国や県と連携した処遇改善、多様な人材活用促進、職場改善方策の進捗状況はとのご質問ですが、国・県の事業の補助金として介護事業所等サービス継続支援事業、介護サービスICT導入事業、介護職員人材確保対策事業などの補助事業の紹介・説明を行っております。

次に、2点目の村内福祉事業所の現状の課題を把握するための、村独自の実態調査結果はどうであ

ったのかとのご質問ですが、事業所内及び役場において事業所の現状及び課題についてヒアリングを行いました。

また、令和3年10月に村内介護事業所に対し、人材確保に関するアンケート調査を行っております。内容といたしましては、人員確保の状況、職員の採用予定、介護人材確保の対策等となっております。このアンケート結果をもとに、11月8日に開催されました第3回地域ケア推進会議において報告・検討をしております。

次に、3点目の資格取得費用助成制度の検討結果はとのご質問ですが、資格取得助成制度についても、地域ケア推進会議の中で検討が行われ、同制度については介護の資格だけではなく、障害福祉・児童福祉でも人材確保が難しいため、福祉全般での人材確保を検討する協議会を今後設置し、その協議会の中で、資格取得助成制度や人材確保の方法等を検討してまいります。

以上であります。

○議長（杉浦治俊君）

再質問がありますか。

○2番（壽山新太郎君）

最初ですね、たんかんブランド化についてお聞きしますが、ブランド確立事業について、今年度の事業成果はどうであったかということなんですけど、先ほどの村長の答弁によりますと、概算で取扱量につきましては前年度より、量的には6.7tとなって、去年より増加しているという答弁でございましたが、この確立事業自体の、まだ結果は出ていないと思いますけど、前年度と比較した場合の事業の成果は、伸びたのか減ったのか、そこあたりのところをちょっとお聞きします。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

お答えします。令和2年度からこの事業は始まっております。令和2年度と比較しますが、令和2年度は6農家の利用で、今年度は答弁のとおり7農家の利用ですが、取扱量、今年度の取扱量、令和3年度は6.7tになっていますが、令和2年度、当初のときは3.7t、約倍の取扱量になっております。以上です。

○2番（壽山新太郎君）

去年より実績が伸びているというところで、大変すばらしいことなんですけど、その伸びた要因というのは、役場として具体的にどのような形で把握されておりますか。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

お答えします。前回の議会ของときにも答弁しましたが、当初の時は宣伝効果がなくて、周知が徹底してなかったということも原因にあります。今回は、いろんなラジオ等、また広報等で周知した結果、取扱量等、農家等また増えていったものと思われます。以上です。

○2番（壽山新太郎君）

そのPRの件につきましては、先月9月議会で、私のほうがどのようなPRをするかというのは、質問させていただきましたけど、今回7農家ですか、去年が6、1農家増えているという実績なんです

が、そもそもこの事業をするにあたってですね、宇検村のタンカン農家数が、戸数が何戸あって、そのうちこのブランド事業を利用した人が今年度は7農家とありますけど、実際、宇検村のタンカン農家の戸数を何戸数あるのかとかいうのは把握されておるのでしょうか。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

団体でやられているというか、大きな農家の数が、約その7農家、あとは個人個人でやられているので、その詳細の数字については把握しておりません。

○2番（壽山新太郎君）

やはりですね、この事業をこれから令和4年度以降も実施していくというところで、村長の施政方針の中でも強くうたっておりますので、やはり大きな農家の把握はもちろん大事なんですけど、小さな個人農家の方々ですね、戸数をちゃんと把握して、やっぱり周知していくことが非常に大事だと思いますので、そういった戸数の把握とかですね、そういったこともやっていただきたいと思います。

あとですね、利用した戸数が7農家なんですけど、そういう、去年からこういう事業をやっているんですけど、そういうこの事業の評判とか、反応とか、そういったのをですね、利用者の方にアンケート調査を行って、内容を精査してですね、今後の対策を4年度以降もする必要があると思いますけど、そういう調査なんかはすることは考えおられますか。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

答弁にもありましたとおり、令和2年度から3カ年の計画でこの事業を始めました。3年目に当たる令和4年度に、そういうアンケート調査等も行なって、この事業を継続していくとか、そういうことをやりたいと思っています。また、この段ボールに関してですが、利用された方々、また内地に送って、都会に送って、本当にこの島で、宇検村の風景等をデザインした、本当に特別なデザインされた段ボールを、本当にこれいいよということで、喜ばれているのが現実であります。以上です。

○2番（壽山新太郎君）

次にですね、このたんかん確立事業の助成についてなんですけど、先ほど段ボールの配布とか、良品以上の100円の補助ですかね、とか、やっていますが、これから先、今現行の助成項目以外に、新規に盛り込んでいく助成項目とかいうのは考えていらっしゃいませんか。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

お答えします。これも今やっている事業なんですけど、今、パッションとマンゴーの箱をデザインして、返礼品、ふるさと納税の返礼品のときの出荷用段ボールとして利用していきたいと考えております。

○2番（壽山新太郎君）

自分が言っているのは、タンカンについてのことで、タンカン、今その段ボールとかしていますよ。タンカンの品目に対しての新規に助成する項目はないかという質問なんですけど。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

お答えします。現在、このブランド協力金、これ以上の補助を考えてはいません。

○2番（壽山新太郎君）

分かりました。次に、将来を見据えたブランド化の更なる施策なんですが、答弁の中でいろいろ書いてございますが、こちらにつきましては、やはり関係機関と連携していただいでですね、またタンカン農家の方も踏まえて、交えてですね、いろんな様々なアイデアを出し合って、宇検村の更なるタンカンブランド化に向けた取組の強化をですね、一つよろしくお願ひします。

次に、タンカンブランド化に向けた今後のタンカン農家育成について、村の対応、対策の件なんですが、答弁書の中でも果樹支援対策事業、これはJAさんが行っている事業かと思いますが、これはどのような事業内容なのか、簡単に説明をお願いします。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

お答えします。現在、今までやっていた事業としまして、果樹経営支援対策事業というのがまずあります。これが今度新しく、令和4年度から進めていくのが、産地パワーアップ事業になります。これの一番の違いと言いますところは、果樹経営支援事業、これは定額で10a当たり23万円の補助が付きます。ですが、この産地パワーアップ事業、これについては事業費の2分の1、半分だけ補助が付くという仕組みになっております。それと、品種になりますけど、以前は2a以上というだけでうたってあったんですけど、今回からはおおむね2a以上、それと1本でも補助はできるということになっております。以上です。

○2番（壽山新太郎君）

分かりました。次にですね、宇検村の農業委員会の指針でもあります農地の利用の最適化に推進に関する指針の中でもありますように、新規参入の促進については、村産業振興課、また農協、県農政普及所と連携して、新規就農者へのサポート体制を強化すると、強化を図るとありますが、これまでの具体的な取組内容があれば教えていただきたいと思ひます。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

お答えします。現在、農地中間管理機構という県の公社のほうでやっている事業があります。これは、農家と貸し手と借り手がいるんですが、貸すほうと借り手のほうがマッチングして、この土地は借りていいですよということになると、それを農地中間管理機構に登録しておく。そしてその後、またその方、使っている方が亡くなったり、使う方が亡くなったりした場合に、その土地は借りたいんだけどということを相談してもらえればすぐ貸せるような状態になることを、現在、宇検村としては150の耕作地がありますが、そのうち耕作放棄地として30haあたりあります。そのうちの残りの120のうちの半分は、この中間管理機構に登録されている状況であります。これが実情です。

○2番（壽山新太郎君）

村長の施政方針の中で、果樹支援対策事業を用いて増加しつつある、その今言ったですね、新規就農者へ新規就農、農業者、農家ですか、の方の就業された実績、新規で何件ぐらい、新規の農家

の方がされたとか、そういったのは把握されていますか。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

お答えします。新規就農者ですが、新しく補助をやって2名ほどは確認されておりますけど、新規就農者が細かく何名というのは、まだ把握しておりません。以上です。

○2番（壽山新太郎君）

新規の農業を始めたいという方々が何名かいらっしゃると思いますけど、そういった島外者とかも含めてですね、そういう相談ごととか、ありますか。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

お答えします。現在、タンカンの農家の育成に関してなんですけど、答弁にはなってないんですけど、現在、兼業でタンカン进行管理している方々へ、対策が特に必要と感じているところであります。そこで、今年度から、令和4年度からSNS、LINE等を活用した情報の発信を計画しており、生育ステージに合わせた栽培資料や病害虫の発生状況の情報の配信に加え、農家から気軽に質問等ができるよう、情報共有の場を整備していく計画であります。以上です。

○2番（壽山新太郎君）

先ほど課長から兼業農家に対する対策ということでお話がありましたけど、やはりですね、今、専業でされている農家のそういう補助対策等はもちろん大事なんですけど、若い世代ですね、40代から60代に対する農業施策、振興施策がですね、非常にこれから大事になってくると思います。例えば、40代から60代の若い世代の方で、兼業でちょっと農業をしてみようかなとかですね、ちょっとタンカンを栽培してみたいみたいな方々がですね、自分の集落の方でも何名かいらっしゃるんですよ。ですので、そういったこれからですね、若い世代の方々に対して、何かしら村の支援策ですか、そういったのを考えていかないと、なかなか近い将来、農業振興にも響いてくると思いますが、そういう何らかの支援策は今のところ考えていないかどうか、確認をお願いします。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

お答えします。村独自で苗木等の補助をしたのが平成28年、28年にミカンコミバエがはやりまして、2,000本近くの補助で、苗木の補助をやったことがあります。ですが、現在、苗木の助成についてはJA奄美事業主体となっておりますが、さっきも言いました果樹支援対策事業や産地パワーアップ事業で対応しており、二つの事業対象とならなかった場合の苗木等の補助は、農家経営として事業性格が得られにくく、単独では現在のところ考えている予定はありません。ですが、今、補助事業でやっています宇検ブランド確立事業、これを利用いたしまして、これに協力金として100円、キロ当たり100円つきますので、そういう事業を利用して15キロ提出いただければ、その分の助成金、苗1本分の助成金が出るとか、そういう今の畑を利用したタンカン出荷をして、そういう新規参入さんの方にも協力していただきたいと思っております。以上です。

○2番（壽山新太郎君）

先ほど村単独で、前はミカンコミバエの関係で苗木の補助とかありましたけど、大和村がです

ね、村単独事業でいろんな苗木の購入助成をはじめ、肥料購入助成金等のですね、幅広い支援をやっているんですよ。一応大和村では農業へのチャレンジと題しまして、いろんな支援策をやっているところですが、宇検村はですね、やはり先ほど私が言ったみたいに、収穫をして、今やっているタンカンの事業じゃなくて、今からちょっとやってみたい方に対しての、やっぱり支援策を広げていかないと、なかなかこのたんかんブランド事業もですね、広がっていかないと感じているところであります。私は農協の宇検支所の管轄のですね、果樹部会に加入しておりますが、会員の方はやはり高齢者の方が大変でございます。大半でございます。近い将来、タンカン農家離れがですね、すごく懸念をされる状況でございますので、私が考えている対策としましては、先ほど言ったみたいにですね、専業農家の方の支援はもちろんなんですけど、若い方の担い手の育成がですね、非常に大事だと思いますので、令和4年度の予算編成は、もうしていると思いますが、これからですね、そういった若い方からの支援のためにも、もう一回ですね、村単独事業の苗木の購入、助成とか、そういったのもですね、ぜひ検討していただければと思いますが、村長、どうですか。

○村長（元山公知君）

議員の御意見、ごもっともでございます。やはり、これまで我々タンカンをどんどん増やしているという中で、高齢化の農家が高齢化してきてですね、担い手が今いなくなってきて、例えばその方のタンカンのその農地、タンカンの農地をこの若い方々の、例えばグループがそのまま借りて、その方々とまたどんな契約がいいのかというの、今、役場の中でいろいろと、そういうマッチングもできないとか、考えているところです。先ほど議員がおっしゃったみたいに、集落の中でも何名かはそういうふうな若手の方々がタンカンとか、いろんな農業に興味がある方がいるとおっしゃいましたので、ぜひとも役場のほうにというか、産業振興課とどういうことをしてほしいのか、自分たちはどういうことを考えているのかというのを、また意見を交換しながら、我々もできる限りのサポートを、また考えていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

○2番（壽山新太郎君）

村長、ぜひよろしくお願いします。大和村といえばスモモなんですけど、将来宇検村といえばタンカンとですね、みんなが言える宇検村にしていきたいと思っていますので、よろしくお願いをしたいと思います。

次に、観光振興についてなんですが、集客対策、いろいろあると思いますけど、今ですね、観光客に対して宇検村の観光を進める上でですね、宇検村の観光はこれだという、声を大にして言える観光スポットや名産品は何だとお考えでしょうか。

○企画観光課長（辰島月美君）

私一存の中で、皆さんが宇検村を印象にしていることを、一言で申し上げることはできないんですけども、今からの観光は世界自然遺産登録になったので、急激に観光客が増えることは予想されるんですけども、キャパオーバーにならないように、宇検村は宇検村なりのそのままの姿で、文化もありますし、生活・暮らしのそういう魅力を感じ取っていただける方をターゲットにして、宇

検村独自の観光というのができていければいいなという、そういう希望を持っております。

○2番（壽山新太郎君）

今、課長がおっしゃったとおりですね、観光地を訪れる方々は、やはりシニア層とか、ファミリー層、あとカップル層や学生層、あと外国人客ですね、様々な方がおります。やはりそういった方々をターゲットをですね、明確にしてストーリー性を持って伝えたいことをですね、メッセージなんですけど、宇検村の魅力を発信できるシステムづくりが非常に大事になってくると思いますので、特に今は、その観光客に対するPR周知ですか、そのところではSNSとか、ユーチューブ等をですね、動画を配信して、ストーリー性とか、そういったのをですね、主に配信をしてですね、多くの目に触れることをしておりますので、いろんな観光施策があると思いますけど、特にPRの部分ですね、そこをですね、一生懸命していただきたいと思います。

あと、第二次宇検村ひと・まち・しごと創生戦略の中でですね、無料Wi-Fiの設置を書いておりますが、これから各集落の観光拠点施設へ設置拡大するとありますけど、現在の進捗状況はどんな感じなのか、教えてください。

○企画観光課長（辰島月美君）

まずは今年度は新しいケンムンの館観光拠点施設を中心に、その一帯を網羅するWi-Fi事業を今年度いっぱい設置する予定になっています。以上です。

○2番（壽山新太郎君）

やはり、先ほど観光PRをする面でSNS等のことも大事ですし、やはりWi-Fi等がありますと、いろんな情報を見ながらですね、観光機関も増えていくと思いますので、よろしく願います。

次に、新たな観光施策のところなんですけど、収益につながる効果は大事なことだと思いますけど、宇検村はですね、特に宿泊の面と食事の面、お土産等の商品づくりですね、そこがちょっと絶対的にほかの市町村に比べて不足というか、足りない部分だと思いますが、こちらについては、こんごの対策としまして、特に宿泊施設の拡大としまして、空き家対策等も、空き家等をですね、活用しました民泊やゲストハウスを中心とした事業者への支援対策も、今から力を入れていく必要があると思いますが、そういった施策は考えているかどうか、願います。

○企画観光課長（辰島月美君）

この観光に関しては、先ほど議員がおっしゃったようにお土産、そして飲食、お食事処ですね、それと体験、遊び、そして宿泊、交通の便という、そういういろんなものが一つでも欠けたら充実しない、不満を与えてしまうという観光客に対しての印象があるかと思います。おっしゃっているその宿泊に関してなんですけども、今、民間の方が空き家を民泊にしたり、ちょっと体験で泊まれるようにという、そういう動きなどがあります。空き家対策に関しては、今私たち村が対策としていっているのは、除却のほうの助成ということで、どうしても迷惑のかかる空き家に関しての除却に対する補助金というのは、今対策をしているところでなんですけれども、活用ができる部分という、そ

こはとても大事なところで、利活用がいかにかできるかという、そういうニーズを踏まえながら、活用できる部分には大いに活用していただく、その支援というのを行政としても検討していかないといけないというふうに思っています。

○2番（壽山新太郎君）

ぜひですね、空き家対策とも並行しますので、そこあたりよろしくをお願いします。

あと、宇検村に来たら、よく旅行とか行ったら、お土産とか大事だと思いますけど、宇検村はお土産等ですね、商品開発、部分的には何か考えていらしゃるんでしょうか。

○企画観光課長（辰島月美君）

特産品協会などがあるんですけども、いろんな分野で個人としてもですけども、それぞれ商品開発はかなり行われているかと思えます。宇検村という名前を表に出している商品開発もされていますし、今からケンムンの館が稼働していく中で、ケンムンの館という、その宇検村に対してのイメージが統一化されると、また更に商品開発が進んでいくかと期待しているところです。

○2番（壽山新太郎君）

ぜひよろしくをお願いします。近隣の大和村においてもですね、こういうお土産の商品開発はすごく、非常に力を入れておられて、島料理とかですね、島の食材を活用したレトルト食品の開発とかですね、取り組んでいます。宇検村がですね、やはり費用対効果等もですね、勘案しながら収益につながる攻めの観光対策をですね、ぜひよろしくをお願いします。

もう1点、今、村内を土日と回っておりますと、ここ数年ですね、村外からの釣り客が多く見受けられます。それはすごくいいことなんですけど、私もたまに釣りをして、あちこち堤防とか回るんですけど、やはりマナーのですね、問題が非常にあります。特に道路のカーブ沿いに車を止めたりする、違法駐車になるんですかね、そういう車とか、特にごみですね、問題もですね、ちらほら、自分のほうも見ますし、村民のほうからもよく聞くところでございます。そういった方に対して、やっぱり観光客、釣り客もですね、非常に大事な観光の一環だと私は思っておりますので、そういった形に対してですね、マナーの問題がありますので、港湾施設のところは、そういう注意喚起の看板が設置されておりますが、そういう釣りのスポットですか、道路、建造物とか、そういったところにも、やはり看板設置をする必要があると思えますが、次からですね、そういう看板設置ができないか、ちょっとお聞きします。

○企画観光課長（辰島月美君）

今年度事業で看板設置については、いろいろ検討をして、ルール啓発という部分の看板を設置する予定にしております。それは大まかなタエン浜であったり、ちょっと人が集まるところをターゲットにして看板設置するんですけども、そこを通過したり、その看板を見ることによって、それを意識付けというのは、すぐすぐはできないかと思えますが、宇検村の観光客に関しましては、リピーターがかなり多いかと思えます。特に釣り客に関してはリピーターの方が多いかと思えますので、時間をかけて、そしてまた観光拠点施設からルールという部分を多く発信することによって協

力していただけるよう努力していきたいと思ひます。

○2番（壽山新太郎君）

ぜひですね、そういう対策、ひとつよろしくお願ひをしたいと思います。

次に、労働人口確保についてなんです、国勢調査結果の役場のほうからデータをいただきまして、宇検村のですね、年齢階層別人口推移、これ国勢調査結果なんです、今日、たまたま本日の新聞で直近の令和2年度の調査結果が出ておりましたが、いわゆる働き盛りのですね、とされます15歳から64歳を平成27年度と比較してみますと、人口割合で平成27年度が50.4%に対しまして、今日新聞に出ていた令和2年度の%で見ますと、43%と減少をしているのに対しまして、定年を迎えられましたとされます65歳以上の割合はですね、平成27年度と比べまして37.9%に対して、令和2年度の実績が44.7%と増加をしている状況でございます。また総人口につきましても、平成27年度対比で124名減少しているという数値でございます。このデータから見ても分かりますように、例年65歳以上の方々の労働人口が増え、若い働き盛りの方の労働人口が減っている状況でございます。労働人口確保に非常に不安を抱える状況であると思われまますが、このデータを基に、ちょっとお伺ひしますけど、令和2年3月に制定しました第二次宇検村まち・ひと・しごと創生総合戦略の中の基本目標の中でですね、宇検に定住できる仕事づくりを見てみますと、一番大事と思われまます地元出身の学生さんたちをですね、いかに宇検村に定住させ、仕事につかせるような施策がですね、書いていないような気がします。この件につきましてはどうお考えでしょうか。

○企画観光課長（辰島月美君）

第二次宇検村まち・ひと・しごと創生総合戦略は、まさに人口をいかに食い止めるかということを中心に作成されたものです。ふるさと学生応援便を通じて、高校を卒業して、中学校・高校を卒業して島を離れている方たち、その若年層といかにつながりを持っていくかという部分の重要さというのは、常々最近が一番大事ではないかということで、学生を対象にした施策という取り組みは、今から強く検討していかないといけない部分かと思ひます。

労働人口に関しましては、宇検村は昼間人口がかなり多く104.8%、人口の104.8%の方が就学、そして各工場、養殖業などに働いているという、そういう特殊な傾向がありまして、その結果、市町村民所得推計というのも鹿児島県でナンバーワンになっています。つまり、宇検村で生み出すお金、それを住んでいる方で割った、その所得が一番多いということは、宇検村には住んでいないんですけれども、昼間宇検村に働きに来て、宇検村で労働されているという方がかなり多いということが見て取れます。そういう方々が宇検村に住んで、今、宇検村が問題となっている学校存続、そして集落存続、文化の継承、いろんなものは、やはり住まないと解決ができないという部分がありますので、宇検村に住むという、その施策という部分は、18、高校を卒業して大半が村外に出て行く、その方々が力を持って、経験を踏まえた後にまた宇検村に帰って来る、Uターンして来るという、そこをちょっと村の中で計画して、施策としてやっていかないといけないというのは感じております。

○2番（壽山新太郎君）

確かに本当にそういう出身者、今、内地で働いている方とかいう方をですね、宇検村に呼び込んで定住、そして仕事をさせないとですね、本当に近い将来、問題でてくると思います。今、本当に若い20代30代の方が、本当に少なくですね、先ほど課長がおっしゃったみたいに、集落の存続になってきます。特に青年団がですね、非常に少なくなっております。そうなりますと、やはり集落も活気がなくなってですね、先ほど来、言っております集落の存続にも影響してきますので、ぜひ地元出身者の若者を呼び戻すですね、施策、今からお互い、我々議員もですね、いろんなアイデアを出しながら、行政と一緒にですね、どうすれば帰って来るか、そこが一番重要になってきますので、よろしくお願いをしたいと思います。

最後にですね、過去の質問に対する対応としてなんですが、いろいろ調査をしていただいて、誠にありがとうございます。すみません、通告にはないんですけど、先ほど答弁にもありましたとおり、キャリアアップ事業、助成事業ですか、こちらが多分、今年度3月で終わりですよ、この事業は。申請件数とか、何件あったとか、一応この事業の成果はどうであったか、分かる範囲で教えてくださいたいと思います。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

お答えします。このキャリアアップ事業は、コロナ交付金で行っておりまして、令和2年度の繰り越しになっております。それで、一応事業の実績になりますが、現在もまだ3月末までは受け付けている状況であります。事業所の数ですが、4者、宇検村内の4者の方が事業所が利用しておりまして、人数としまして16名の方が利用しております。以上です。

○2番（壽山新太郎君）

このキャリアアップ事業は、宇検村と奄美市でしたっけ、宇検村と奄美市がやっている事業だと思えますけど、大和村の議員さんから聞かれるんですけど、すごくいい助成事業ということでいわれておりますので、これ、令和4年度も引き続き実施はされるのでしょうか。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

お答えします。現在のところ、コロナ交付金で令和2年度はやっていたという状況もあり、令和3年度も繰り越しでやっていたという状況だったものですから、現在のところは令和4年度はキャリアアップ事業は、当初の予算としては入っておりません。以上です。

○2番（壽山新太郎君）

分かりました。ありがとうございます。最後にですね、先ほどの労働人口の確保と並行しますけど、宇検村はこの先もですね、高齢化率は上がってくるとおられます。その観点からですね、最後の介護の件についてもそうなんですけど、介護に携わる職員は、これから先、重要視される職種でございますので、これからはですね、介護職の方々に対する対応の強化をですね、ひとつよろしくお願いを申し上げまして、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（杉浦治俊君）

これで2番、壽山新太郎君の質問を終わります。

暫時休憩します。午後の開会は1時10分とします。

休憩 午前 11時39分

再開 午後 1時10分

○議長（杉浦治俊君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、6番、吉永常明君。

○6番（吉永常明君）

皆さん、こんにちは。令和4年度第1回定例会により、一言所見を申し上げたいと思います。

新型コロナウイルス感染症が確認されて3年目になり、過去2年間は主な村行事、集落行事が中止になり、村民の皆さんにおかれましては大変窮屈な思いで日々の生活を過ごされたと思います。今年の夏頃までには国産の飲み菓が承認され、3回目ワクチンも大多数の村民が終え、生活環境も徐々に変わっていくものと思われまます。まだまだ収束の見通しが見えない中でありますが、村民の皆さんにおかれましては感染予防を徹底しながら、日々の生活を送っていただきたいと思います。

それでは、通告に従い、一般質問をしていきます。

まず最初に、先日4日の日に村長から施政方針が示されました。その施政方針の中から4点ほど質問をしていきます。

まず最初に、令和4年度一般会計予算が約32億円で、前年度対比3.93%の増となっておりますがその要因と重点施策を伺っていききたいと思います。

次に、施政方針の中にうたっていましたけど、今年度、集落座談会の開催の予定について伺っていきます。

3番目に、今後建設予定事業に、診療所、防災会館、給食センター、役場庁舎等がありますが、どのように進めて行くのか伺っていきます。

次に、県道曾津高崎線なんですけど、私これ、ここ3年間毎年この1回目の定例会で質問させてもらっているんですけども、平田工区の進捗状況と、今後の予定について伺っていきます。

次に、防災について、午前中も同僚議員から質問がありましたけれども、去る1月16日の津波警報での避難のあり方について、いろいろと問題があったと聞いています。今後の対応について伺っていきます。

最後に、残土処理場についてですけど、現在、本村には残土処理場がありません。本村内において残土処理場の計画予定がないかどうかを伺っていききたいと思います。

あとは通告席にて質問していきます。

○議長（杉浦治俊君）

ただいまの吉永常明君の質問に対して、答弁を求めます。

○村長（元山公知君）

吉永議員のご質問にお答えします。

まず、施政方針についての1点目の、令和4年度一般会計予算が約32億円で、前年度対比3.93%増の要因と重点施策を伺うのご質問ですが、前年度比増額予算の主な要因は、物件費と扶助費と公債費の増が主な要因であります。物件費は、中でも委託料が大半を占めています。主に、総務費財産管理費の防災無線の操作卓更新業務と、村有財産維持管理委託料、企画費の第6次総合振興計画策定支援業務と、宇検村バイオガス事業支援業務、農業総務費の堆肥場指定管理委託料、農地費の湯湾干拓潮遊地浚渫調査委託料、商工費の観光拠点施設指定管理委託料などであります。

扶助費は、主に社会福祉総務費の障害福祉サービス給付費であります。

公債費は、主に償還金を上回る借入によるものと、緊急防災減災事業債など、償還据え置きなしの民間資金の返済を見込んでいることによります。

重点施策としては、増額の要因でもある指定管理者への委託業務を定期的に分析しながら、積極的に委託業務を進め、村民サービスがより充実するように努めてまいります。

また、防災事業は常に最重要施策であり、防災情報の伝達が途絶えることのないよう、防災無線機器を随時更新し、ラジオや携帯電話との共有も検討してまいります。

そして、バイオガス事業など持続可能な社会を目指す、新たな取り組みも取り入れながら、第6次総合振興計画を策定してまいります。

以上が、新年度増額分からの重点施策であります。

次に、2点目の集落座談会の開催予定について伺うのご質問ですが、集落座談会については、これまではコロナ収束後という考えでございましたが、感染症が完全になくなることは考えられませんが、対策を行ったうえで新年度の早い時期には実施したい考えであります。ですが、まだまだ住民に不安があるなかでありますので、一方的に開催することはせず、区長さん方から集落のご意見を伺ったうえで、判断してまいります。

次に、3点目の今後建設予定事業に、診療所、防災会館、給食センター、役場庁舎等がありますが、どのように進めて行くのか伺うのご質問ですが、現況として、宇検集落の防災会館が今年度完成、屋鈍集落が建て替えに向け解体工事に入っております。防災会館については、今年度劣化度診断を行いましたので、まず危険個所の改修を行い、劣化の箇所や規模で判断して、改修や建て替えを総合的に判断してまいります。診療所については、4年度実施設計に入り、5年、6年で建設予定であります。給食センターについては、学校給食のあり方検討委員会からは、「センター方式で、各学校へ配送する方式にした方が良い」という、検討結果が報告されました。建設場所については、須古集落の農協裏の村有地が候補地として望ましいとの報告でした。建設時期については、令和7年度に着工できるよう進めてまいります。庁舎については、計画的に基金積み立てを行っておりますので、計画どおり令和10年度までには建設したいと考えております。

次に、4点目の県道曾津高崎線の平田工区の進捗状況と、今後の予定について伺うのご質問です

が、事業期間については、当初、平成22年度から令和2年度までの予定でありましたが、令和5年度完了予定として3年間延伸しております。全体計画は、延長1,800mのうち、令和4年2月時点で延長が670m完成しております。

現在は、橋梁の上部工の架設及び、橋梁前後の改良工事を行っております。

次に、防災についての1月16日の津波警報での、避難のあり方について、いろいろと問題があったと思うが、今後の対応について何うとのご質問ですが、今回の津波警報時における避難のあり方については、確かにいろいろと課題が浮き彫りになりました。

まず避難場所については、今回、冬の真夜中ということもあり、多くの人が車で避難しました。また、車避難が有効で現実的であることが示されましたので、これまでの場所に加え、全集落避難場所の検討に入っております。

次に、情報発信不足については、同じ情報であってもラジオにも割り込み、繰り返し伝える。エリアメールも頻繁に使用するなど、出来る限りの発信手段を用いて今後は対応してまいります。

屋外でのトイレ問題は、携帯簡易トイレと簡易テントの検討に入っております。今後、区長会などで具体的に説明して、より実用的なものが揃えられるよう取り組んでまいります。

寒さ対策については、建物建設は場所や規模を検討する上でも、避難場所が広範囲になり、早期の実現は難しいので、簡易テントの検討と防災グッズなど、個人での防寒対策を呼びかけてまいります。

現在1月20日の区長、消防団、職員による検証会議を受けて具体的に検討し、出来ることから対応を急いでいるところであります。

今回は、気象庁が「これまでに経験したことがない」と話す異例の津波でありました。今後、想定される津波は、南海トラフ地震か、喜界沖地震により発生する津波であり、最短でも第1波の到達予想は、38分かかりますので、冷静な避難行動がとれるよう、備えを呼びかけてまいります。

次に、残土処理場についての本村内にて残土処理場の計画予定はないかのご質問ですが、宇検村の残土処分場は、平成28年2月末で受入が終了して以降、宇検村内で発生する残土は、隣接町村への搬出になっております。

残土処分場までの運搬距離が長いために、工事費で残土処分に占める割合が上がり、設計金額が高くなります。補助事業の進捗が遅れるのもありますが、特に、村単独事業での事業費の抑制が図れないため、残土処分場の必要性を感じております。立地場所についてですが、奥地が望ましいのですが、広範囲で奄美群島国立公園の第1種・第2種の特別区域に指定されている状況であります。

立地場所の検討で考慮していかなければならないことは、なるべく取付道路を造らず現道からの乗り入れができる所、村内の集落からの運搬距離が比較的短い所、集落や河川等に影響のない所、大型車両の安全通行が確保できる所とか、十分な検討が必要であると考えます。

今後、林地開発行為申請をして進めていく考えですが、県のほうとも協議をしてスケジュールをたて、早期着工を目指していきたいと考えております。

以上であります。

○議長（杉浦治俊君）

再質問がありますか。

○6番（吉永常明君）

まず最初に財政について伺いをしていきたいと思います。施政方針の中にもうたってありますけれども、本村の財政状況としては、実質公債率も改善され、将来負担率もここ何年か、ずっとゼロになっているわけですが、そうした中で、今回32億と3.39倍増なんですけど、ここ2・3年の傾向を見ますと、令和2年度が当初で30億、補正を入れると最終的には大体36億ぐらい組んでいるんですよ。去年が31億で補正で7億で38億ぐらい、最終的な予算になっているわけですが、この傾向を見て行ったときに、今回、当初32億で、補正を含めていくともう大方40億近くなる金額になるかと考えられますけれども、そうした中で、起債の残高よりかも、起債の残高がここ何年か、ずっと据え置きだったのが、ここ2年ぐらいで39億円に上がってきているんですよ。そうした中で、今回も償還金よりも起債残高のほうが多いということなんで、そこら辺をどういうふうに捉えているのか、ちょっと答弁をお願いします。

○総務課長（原田俊昭君）

議員がおっしゃるように、起債の借入れの件は、償還額を上回る借入れが、ここ何年か続いている状況であります。令和2年度の決算でも39億余りで、3年度の今現在で1億ぐらい借入れのほうが上回っていますので、またプラスになると思いますが、起債のほうはたびたび申し上げておりますが、交付税措置の参入のできる有利な起債を考えて進めております。今後ともこの事業については、事業した分、村内での事業でありますので、効果が表れていると思っております。また、予算規模が大きくなっておりますが、交付税が伸びているのも現実であります。ですけど、交付税が伸びるのはうれしいんですが、心配されるように資材も高騰したりとか、歳入も歳出も同時に多くなっている状況であります。そこら辺を含めてですね、歳入の伸び、そしてまた歳出含めて、十分検討しながらですね、歳入の伸びだけを頭に入れるんじゃなくて、歳出も抑える努力をして、事業の効果が表れるように予算編成に努めていきたいと思っております。

○6番（吉永常明君）

本村の起債残高を見ますと、平成20年頃までは、大体60億ぐらいあったんですよ。それから平成21・2年ぐらいで37億ぐらいになって、37億になって10何年間ぐらいずっと37億できて、ここちょっと1・2年で、ここに示されているように39億というふうになっているわけなんですけども、そうした中で、施政方針の中にもうたっているように、今後、診療所、給食センター、庁舎建設とか、いろんな大きな事業があるわけですね。やっぱりそうした中で、当然、借入れをしないと事業は進めていかれないわけですが、さっき課長が述べられたように、確かに交付税が伸びているという話もありましたけれども、今後、このコロナ禍が続いて、国も相当な国債を発行しております。そうした中で、この先、本当に交付税が従来どおり入って来るかというの、ちょっと疑問視する

ところがあるんですけど、極端に減ることはないと思うんですけども、そういった大きな事業とか、今後の国の交付税のことも考えていくと、やはり借入れをやっぱり慎重にしながら、やっぱり新しい事業に取り組んでいくべきじゃないかなと思いますけど、そこら辺はどうですかね。

○総務課長（原田俊昭君）

議員のおっしゃるとおり、本当に事業を進める上では、財政状況を見極めながら進めていかなければならないと思っております。特に今、庁舎建設、防災会館、診療所、給食センター、いろんな建物の計画がございます。そういった中で一番大きいのは庁舎建設であります。これは計画どおり、今毎年積み立てをしております。なるべく借金というか、借入れをしないようにですね、積立を行った上でやっていきたいということで、今3年度ですので、4,000万ぐらいずつ積み立ててもあと2億ぐらいして8年度ぐらいに8億とかですね、そういっためどが立つような予算設計をですね、やっていきたいと思っております。ですから、大きい計画は着実に計画どおり積み立てをしながら、また、普段のいろんな土木事業とかですね、そういったのは歳入も考慮しながら、なるべく積み立てばっかりするんじゃなくて、事業の効果が出るようにしていきたいと考えております。

○6番（吉永常明君）

今、課長から庁舎の話が出たんですけど、ここの施政方針の中で、庁舎の建設予定というか、令和10年ほどを考えているみたいなんですけれども、庁舎基金が現在、多分6億弱ですかね、課長が言われたように、4,000万から5,000万の積み立てをやっているわけなんですけど、先ほど午前中もちょっと話がありましたけど、庁舎検討委員会が諮問した庁舎の建設金額が10億ちょっとですよ。そうすると、やっぱりかなりの金額の借入れをしなきゃならないと思うんですよ。そうしたことから、やっぱりその庁舎建設と、大きな事業がありますから、やっぱり予算編成において、やっぱりこの起債、償還の在り方と起債の在り方については、やはり十分考えて、今後は組んでいただきたいなというふうに思います。また、財政等については、この後、予算委員会もありますので、その中でまたしっかり聞けるところは聞いていきたいと思っております。

次に、施政方針の中に、今回初めて集落座談会等の開催をするような旨が載っていますけれども、答弁の中にもありますように、コロナ禍の中で、なかなか開催が難しいかなというふうに思っております。この集落座談会については、今から十何年か前かな、に一遍、僕が記憶している間で一遍、集落座談会があって、その後、十何年間に行われてないわけなんですけども、我々議会がここ何年か、去年、一昨年と議会報告会をされてないんですけど、その以前に議会報告をした中で、やっぱり各集落を回ったときに、議会報告の質問とかをやりとりを本当はしたいんですけど、各集落からのやっぱり質問というのは、もう行政に対しての不満とか、こうしてほしいとかというやり取りが多いわけですよ。当然、各集落を座談会をやりますと、当然、苦情や要望は当然、ほとんどだと思います。だけど、それはそれでちゃんと受け止めて、できないものは、ちゃんとできませんよと、これは様子を見ながらできるものはできるよと、やっぱり村長がおっしゃったように、やっぱり集落民の声を聞くのが大事なので、今回、コロナ禍の中でありますけれども、収束がなかなか見

込めない中で、そういう計画を立てているということは、僕はもう前向きで非常にいいのかなと、やっとそういうことをやってくれて、住民の声を直接聞いて、前向きな答弁かなというふうに思っているんです。やっぱりぜひ、このコロナ禍であっても、今年、ずっとコロナコロナと控えていたら、何も前に進まないで、この答弁にもありますように、集落の区長などと話をし、できるところから随時進めていって、住民の声を聞いていかなければならないと思うんですけど、そこら辺は村長どうですかね。

○村長（元山公知君）

議員の御意見ありがとうございます。普段から集落の声とか要望等は、区長さんが頑張っていただいて、いろいろ役場に届けていただいたり、また、議員の皆様方がしっかりと村民の声を役場に届けていただいているということに対して感謝申し上げます。中でも、我々のところにも声が寄せられるのがですね、やはり自分の声で、直接自分が伝えたいという方々の声もありますので、そういう方々の要望等に答えながら、またこの集落座談会というのは、やはり開催をしなくちゃいけないということで、このコロナ禍が収束をしたらということ考えていたんですけども、今回、先ほど述べさせてもらったようにですね、コロナ禍であったとしても、コロナ禍で少しずつ少しずつ収束しつつあるので、また見ながら、区長さん方と日程調整しながら開催していきたいと思っております。

○6番（吉永常明君）

ぜひ早いうちにそういう機会をつくっていただきたいというふうに思います。

次に、建設事業についてなんですけど、診療所を来年度設計して、5・6年で建設予定ということなんですけども、その後はさっきも話したように給食センター、庁舎、各集落の防災会館とありますので、そこら辺は本当に予算等十分かんみして、今後進めていただいたいというふうに思います。

次に、県道の曾津高崎線について伺います。去年も同じような質問をさせて、今回も答弁のとおり、令和5年度発注分で完成予定ということなんですけども、建設課長もご存じのように、今、平田工区ということで、タエン崎から平田の間をやっているんですけども、これが令和22年度からの計画事業で進めてきているんですけど、現在、ここに答弁にもありますように橋梁の工事をやっているわけですね。そのほかにまだ工事の箇所が4カ所ぐらいあると思うんですけど、それで本当に令和5年度で完成の見込みなのか、そこら辺お願いします。

○建設課長（高田浩志君）

お答えいたします。この平田工区につきましては、平成22年度から、先ほど申し上げましたけども、令和2年度の予定でありました。今、令和5年度完了という話が議員のほうからあったんですけども、今の時点では令和5年度完了予定として、その令和2年度を3年間延伸をしております。その中で、現在、全体の延長が1,800mですね、ありまして、現在、1,800mのうちの670mが完成しているということで、全体事業費としては21億であります。それで、令和元年度までで11億余りの事業費

を消化しておりますが、当然、今の予定で行きますと、令和5年度まで延伸した分では、ちょっと完成は難しいということで、令和5年度中までには計画の変更をいたしまして、今の予定で令和8年から9年の完成を目指すという全体の計画になっております。以上です。

○6番（吉永常明君）

僕がね、毎年というか、いつもこの1回目の定例会で、その話をお聞きするかといいますと、要は去年、瀬戸内事務所に我々議員が行ったときに、今、1路線1カ所しか県は工事発注をしないというような話があったもんで、結局ここを終わらないと、本村まだ要望されているのがタエン浜と佐念の間で、北側に行くとは拓洋さんのという、やっぱりまだまだ工事をやっていかなきゃならない箇所が何カ所もあるわけですよ。今の県の考えというか、聞いたら、もう年間1カ所ということだったら、その平田区間でも4カ所ぐらいまた工事区間が残って、法面の工事が多分2カ所あって、海側にたつ工事が1カ所、多分あると思うんですよ。そこを考えたら、これから先、本当に県の事業が本村にちょっとスムーズにいくかなと、なぜ、以前は、同じ平田工区でも、2カ所同時に工事進行されていた、いつの間にか1カ所というふうになっているんだけど、課長、そこら辺はどうなんですかね。

○建設課長（高田浩志君）

現在、県道の改良工事につきましては平田工区だけになっております。当然、去年の災害のときに阿室屋鈍間、これが通行止めが長くなりましたけども、そこについても令和3年度に用地調査をしたりして、次の災害防除ということで計画もしております。それから、先ほどありました生勝工区の拓洋さんの前の200mについても、今進めておりますけれども、名瀬瀬戸内線の生勝、ケタグラの海岸の上りの海岸ほうが崩れている場所についても、現在測量設計中ということで、ほかの場所でも県道の改良の要望はしているところでございます。当然、先ほど言った平田工区の後には、佐念とタエンの海水浴場の間も要望としてあげているところであります。

○6番（吉永常明君）

ここに課長からもらった県の工事があるんですけど、一応本村は道路工事が1カ所で、あと砂防と急傾地が何カ所か、本当に数えるんですが、ここの県の資料があって、瀬戸内事務所が発注している工事なんですので、同じ瀬戸内管内で瀬戸内町は道路で令和30年度ですよ、8カ所やっているんですよ。多分県が言うのは、あてにしてないんだけど、1路線で1カ所というけど、瀬戸内町だけ1路線で古仁屋から西古見の間、皆さん、行かれたら分かるけど、本当に10カ所ぐらいの工事が入っているんですよ。改良含めているんなら。そうした中で、県が言うのと、実際にやっているのと全然違うので、そこら辺は課長、もっと強めに話を持って行くことはできないもんですか。

○建設課長（高田浩志君）

県が県道については、県が工事を進めているわけでごさいます、当然、村の県道の改良区間につきましては、今の村内の海岸線の改良工事が主になってきますが、改良済みの区間との整備率としては、瀬戸内町よりは宇検村のほうが整備率は上がっております。そういう中で、当然先ほど、

改良の中でできない場所等も改良が済んでない場所がありますので、その辺は強く県のほうに話を
持ち掛けて、お互い進めていきたいと考えております。

○6番（吉永常明君）

今、課長がおっしゃったように、実際に本当、瀬戸内を回ってみたときに、宇検村のほうが確かに瀬戸内よりか道路の改良は進んでいるかなというふうに思っています。そういうことから、向こうを中心にやっているのかなというのは思うようにしています。それでなくても、やっぱり本村もまだまだ改良が必要な場所があるんで、なるべく早期にできるような努力をしていただきたいと思
います。

次に、防災についてなんですけど、去る1月16日未明に津波警報があり、村民が避難したわけですが、そうした中で、午前中同僚議員から避難状況とかは、いろいろ質問答弁がありましたので、そこはもう除いて、今後について、今後どのようにしていくかについて質問させていただきます。

今回、一番夜中の避難ということで、多分、行政側にもいろんなそういう問い合わせがあったと思うんですけど、まず一番感じたのが、寒さ対策、トイレ対策、あと情報だと思うんですけど、これ僕自身、本村の避難場所については、比較的避難場所としては高台にみんなあるんで、確立されているなというふうに認識はしているんですよ。そうした中で、こういう夜中のああいうときに、冬で、寒い、トイレとかというのが、非常に今回感じました。津波の場合は、今回もそうだったように、警報が出て解除になるまで相当な時間がかかるんですよ。いつになるか分からないんで、今後、寒さ対策とか、トイレ対策については、ここにいろいろ書いているんですけど、どんなふうに考えているのか。

○総務課長（原田俊昭君）

お答えいたします。まず寒さ対策、今回、真冬の真夜中の避難でございまして、本当に我々は警戒本部で役場にいたんですけど、本当もう、待つしかなくて大変だったと思います。そういった寒さ対策をするためには、一番理想としては、その避難場所に建物があって、そこで寒さをしのげるのが理想でありますけれども、今回、車避難も多かったですし、また一次の避難場所をですね、そういった場所に建物を建てた場合、また管理面とかもいろいろ出てきます。ですから、もしそういう計画をする場合は、もういつになるか分からない、そういうふうになりますので、今当面の考えとしましては、簡易のテントを、すぐ運べるようなテントを準備して設置する。そしてトイレの場合、寒さ対策の場合ですね、その簡易のテントプラス、今度は自分自身の防寒対策として、防災グッズを広く紹介してですね、自分自身の防災グッズの準備プラス役場の簡易テントとか、合わせて寒さ対策を行っていったらと思っています。また、トイレの件も、トイレの件も広範囲にわたりますので、建物とか、トイレを造るというのは、なかなか難しいので、簡易のトイレ、最近はございますので、今、3パターンほどちょっと検討してまして、それを区長さん方に見てもらったりしてですね、決めようと準備を進めております。そのトイレを設置しても見えないようにしなければいけ

ないので、そういった隠れる、1人でトイレをするときに隠れるようなトイレもですね、テントみたいな、目隠しになるテントみたいなのも合わせて検討しておりますので、またそれもこちらで一番いいのを準備したいので、それも区長さん方と検討しながら進めていきたいと思っております。以上です。

○6番（吉永常明君）

本当、今回特に感じたのは、さっき課長もしたように、やっぱり寒さとトイレだと思います。そうした中で、今回は真冬、だったら、どういうときに津波の場合は来るか分からないということがあって、当然、雨の日もあるだろうし、風の日もあるだろうし、いろんなことを考えながら、やっぱり今後、対策を取っていただきたいなと思っております。そうした中で、今回特に感じたのが、各集落、各地区に消防団がおられるんですけども、今回、やっぱり消防団の方が非常によく各家庭を回りながら、ちゃんとした避難案内をされていたんですよ。そうした中で、結局消防団員は警報が出ている間、あの夜中から明け方までずっと起きていたんですけども、各集落の方々にも消防団が自分らで判断での寒さとトイレとは自己責任で帰ってという形で、今回そういうふうにしてもらったところもあると思うんですよ。そうした中で、ふとちょっと消防団員の件のことについてちょっと尋ねたいんですけども、現在、宇検村に消防団が8分団かな、あると思うんですけど、大体10で、80何人、女性団員も入れたら90人近い消防団員がいると思うんですけども、津波の場合、津波警報が発令されたときには、結局、消防団は地元でしか残れないわけですよ。結局、津波警報が出たときに、本村の場合は屋鈍からここに来るとか、ここから屋鈍に行くとかいうのは、もう絶対不可能だと思うんで、警報が出ている間は。そうした中で、現在、宇検村の消防団員は各分団に10名と、割り当てとかあるわけですけども、そうした中で、結局その地区の消防団員が定員割れというか、定員に満たない場合、現在、湯湾に住んでいる人が遠くの分団になって、数合わせみたいにしてるところが何か所かあると思うんですけども、やっぱりいざとなったときには、そこに残っている団員しかできないわけですよ。現在の消防団員をどうのこうの、そのまま残して、その地区に住んでられれば、その地区の消防団員として、住民じゃなくてプラスアルファを見て、やっぱり地元のは、やっぱりこういうときには地元にいる人のほうが、消防団員でも活躍できるわけですよ。だから、そこら辺は今後、ちょっと考えていく必要があるかなと。例えば、うちなんか、小さい集落は消防団員が少なくすみすけど、湯湾の場合に大きな集落なったときには、やっぱり住民とかだったら、全然違うわけですよ。それをもっと機敏に消防団員が動ける体制、津波以外だったら例え移動はできても、津波の場合は役場の職員もそうですけど、湯湾にいる職員の動き見ても、よそから行く役場職員は津波警報が出ている間は移動は不可能と思うんですよ。また、やってはいけないことだし。だから、そういうことを考えたときに、消防団員の在り方も、やっぱり今後検討していてもいいのかなというふうに思うんですけど、そこら辺どうですかね。

○総務課長（原田俊昭君）

消防団員について、宇検村の場合、幸い奄美大島の5市町村と比べまして、宇検村は定員不足とい

うふうにはなっておりません。ほかの市町村、不足しているところもございます。そういう中で、定員不足になっていませんので、その点は大変住民にとっても安心の材料だと思います。ですが、その各校区の分団は分かれていますけども、おっしゃるように、実際、全集落に平均的に消防団員が配置されているかといいますと、そこはまだそういう平均的な配置はされていないと思います。そういった中で、何かあったときに、集落の安全を守るのは、やはりその地元に住む人たちですので、自助・共助という中で、やはり自主防災組織ですか、そういうのをしっかり組織してですね、絶えず、絶えずその防災について、話し合う場を持つことが、一番大切だと思います。今回、いろんな消防団員が活躍してくれましたけど、それも防災訓練でですね、津波の訓練もずっと毎年やっています、去年はまた今度は河川氾濫の訓練をしました。その際は、消防団が自主防災組織と連携するというのが一番の目的でしたので、そこら辺でやったことが、今回、プラスになって働いたと思っております。ですから、そういったふうにして、自主防災組織と消防団とが連携して動けるように、今後も自助・共助の部分でしっかり地元の、自分なんかのところは自分なんかで守るといふふうにはですね、自主防災組織をしっかりしていきたいと思っております。

○6番（吉永常明君）

本当、今回のこの真夜中の津波警報というのは、我々村民もそうですし、行政の皆さんもそうだと思うんですけど、本当に考えてもない真夜中の警報で、すごい問題点が浮き彫りにされたと思います。それをしっかり捉えて、今後の防災対策にしっかりとやっていただきたいというふうに思います。

続きまして、残土処理場について、質問をしていきます。この残土処理場については、この2基の残土処理場が満杯になる前に、一遍質問をさせてもらったときには、現在の副村長が建設課長のときだったんですけど、そのときには次の残土計画は考えていませんという、その当時はそういう答弁でした。それから、平成29年度に同僚議員が同じように残土処理場について質問をされています。そのときは、建設課長から、今、何カ所か候補は考えていますという、だけどその時点では、世界遺産関係もあつただろうと思うんですけど、まだ公表はできないというような話だったんですけど、その後、その候補地についてはどうかと。その後、熱海の残土の土石流事故があり、全国的に非常に残土処理場については、多分厳しくなっていると思うんですけども、以前、課長がおっしゃった、その候補地については、どういうふうになっていますか。

○建設課長（高田浩志君）

私のほうからは令和2年の第3回のときに、現在、地形的に良好な場所を3カ所程度選定しており、今後関係機関と協議を進めていくという回答をしております。その中で、その場所なんですけれども、答弁にもありますとおり、1種、2種の特別区域は、ちょっとハードルがちょっと高いんじゃないかというのがありますけれども、その環境省のほうとも一度協議したことはあります。その際に、5年に1度の計画区域の見直しがあるときに、そういう話し合いをもって進めていくことも考えられるということも、回答を得ております。現在、もう一つの場所は、大和村の町村境のほう

に、一応考えたい地形の海岸線が見えるところがありまして、そこも一応現地等も把握しながら、どれぐらいの受け入れができるか、図上で考えたこともあります。現在、答弁にありますけども、村としてはできるだけ真ん中のほうがいいんじゃないかと、先ほど言った町村境に計画してしまうと、どうしても屋敷からの運搬距離が非常に長くなります。いうことを含めると、部連の部連古志線の終点、宇検中央1号線のその辺が、そこら辺の地形等も踏まえて、場所的にも踏まえて、そこがいいんじゃないかということで、先月、大島支庁のほうにも行きまして、最初の初期段階の協議を行っているところであります。

○6番（吉永常明君）

この残土処理場については、答弁にもありますように、結局工事の設計高にもなるし、工事費のもう3分の1ぐらいはその運搬料とかにかかっているんで、やっぱりそこら辺を考慮したときに、さっき課長が答弁されましたけど、できるならば湯湾方面が一番、宇検村の場合は北側とあと南側にこうなっているので、一番理想ですけど、ここは1種、2種になっているので、かなり難しいと思います。さっき課長が答弁されたように、本当、できるのであれば北側の端とか、南側の端とかに1こ2カ所ぐらい設けられれば一番いいのかなというふうには思っていました。けどさっき答弁、部連のほうにそういうのを一応考えているということなんで、それはそれで進めていただければいいかなと思うんですけども、今後、やっぱり長いこと考えていて、いつまでも村の市町村の残土を捨てるというのは、やっぱり公共事業というのは、結局災害もありますし、ずっと続くもので、やっぱり本村は本村で、やっぱり1カ所は設けていくべきじゃないかと思うんですけど、村長どうですか。

○村長（元山公知君）

貴重なご意見ありがとうございます。残土処分場については、もう以前から必要だということで動いていますけども、なかなかその選定場所がですね、見つからないとか、なかなかどこに造るということを先に言うことも、ちょっと難しかったということもありましてですね、でもまたいろいろ協議をしながら、ぜひともこの残土処分場をしっかりと造っていくように進めていきたいと思っております。今の残土処分場の形ですと、我々の道路を造るときに、その残土処分場のまたその処分量がですね、近隣の町村のほうに入っていくというのがありますので、そこはまた、我々の村内でしっかりと、そういうふうな経済を回していけるようにできればいいと考えておりますので、ぜひともまたしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

○6番（吉永常明君）

ぜひ前向きに検討して進めていただきたいと思います。

これで私の質問は終わりますが、最後に、高田課長、松元局長、最後の定例会、お疲れ様でした。

○議長（杉浦治俊君）

これで、6番、吉永常明君の質問を終わります。

暫時休憩します。

休憩 午後 2時01分

再開 午後 2時10分

○議長（杉浦治俊君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、1番、倉本富夫君。

○1番（倉本富夫君）

皆様、こんにちは。令和4年度3月第1回定例会一般質問の先立ち、一言所見を申し上げます。

まだまだ収まりを見せないコロナウイルスですが、当村においての2月中旬から3回目のワクチン接種が始まりました。接種に携わっている医師や看護師の皆様、また、行政の方々におかれまして、お礼を申し上げたいと思います。本村の皆様方にも今後も予防対策をしっかりしてもらい、早めにコロナを落ち着かせられるように、官民一体となって頑張っていきたいと思います。

では、通告に従い、一般質問をさせていただきます。

まずは、防災についてです。まだ記憶に新しいですが、1月16日の午前12時頃に、トンガ沖の海底火山で大噴火が発生し、日本中の沿岸部で津波警報が発表されました。そのときに感じたり聞いたことを質問させていただきます。

一つ目は、高台避難所の場所を再検討する必要があるかです。各集落にはハザードマップが浸透しており、地域コミュニティもしっかり対応できており、かなり優秀に避難ができたと感じました。今回の避難は、車でした方が多く見られましたが、それゆえに、今ハザードマップに書かれている高台の避難場所を記載されていたところが、避難したところと違うような感じでありました。なので、ちょっと再検討する必要があるかというのをお聞きしたいです。

二つ目は、FMうけんの放送、防災無線の在り方です。FMうけんでは、防災時音楽が流れていました。そういうのが避難された方に聞いて、NHKを聞いたらというのを話したんですけど、そういうFMうけんの防災時の放送の在り方について、ちょっとお聞きしたいと思います。防災無線のほうは、耳が遠い方とかが、自宅にいて聞こえないという方がいらっしまったので、そちらの対策のほうもちょっとお聞きしたいと思います。

三つめは、対策本部の設置場所の在り方についてです。津波時対策本部は役場のほうにあったと思いますが、津波は湾内の奥にある湯湾などは高くなってくると思います。津波の対策本部が災害時になると、住民の方々にも余計な不安を与えてしまうと思うので、もう少し高台にほうにとかいう検討をしたらいいのかなと思います。村としての意見を聞かせてください。

次に、農業振興についてです。

一つに、本格的にブランド確立の助成を始めましたが、農家の届け出、申告件数は何件だったのでしょうか。また、タンカンの企画外品の買い取りはどうなったのか、教えてください。

二つ目に、パイプハウスのリース事業を今年度から実施すると施政方針でおっしゃっていましたが、ハウスの設置場所、面積、あと農家の申請見込み件数はどうなっているかお伺いしたいです。

最後に、軽石問題のことについてです。村内を回ってみると、屋鈍、阿室、平田の崎原3集落の海岸、河川ほうに特に多くの軽石が溜まっていると感じました。漁業の関係者、漁業の組合員の方々や集落のボランティアの方々が手伝って回収をしていますが、あまり見た目で減っていないような感じがします。村としても何か対応をできないでしょうか。

以上で質問を終わります。これから先は通告席にて再質問させていただきます。

○議長（杉浦治俊君）

ただいまの倉本富夫君の質問に対して、答弁を求めます。

○村長（元山公知君）

倉本議員のご質問にお答えします。

まず、防災についての1点目の、高台避難所の場所の選定を再検討する必要はないかのご質問ですが、ハザードマップの津波浸水区域は、海岸付近が警報警戒区域になっており、村が指定する一時避難場所については、海拔的にも安心できる場所となっておりますが、今回、多かった車避難に向かない場所などは、再検討する必要があると考えており、現在全集落の避難場所を、区長さんで見直し作業にあたっております。

次に、2点目の災害時のFMうけん・防災無線の放送のあり方についてのご質問ですが、FMうけんは、放送の切替で、他のラジオ局の番組を流すことができますが、災害時には手動で行わなければならない、今回のような津波警報発令中で、しかも暗い中では、番組切り替えに危険が伴います。今回の課題で、情報発信不足が指摘されておりますが、ラジオへの割り込み放送は役場からでも可能でありますので、FMうけんラジオを最大限活用して、同じ情報でも繰り返し発信するよう、努めてまいります。

次に、3点目の災害時の対策本部の設置場所のあり方についてのご質問ですが、災害時の本部設置場所のあり方ではありますが、今回は津波警報で、予想される波の高さが3mでありましたので、役場1階に本部を設置いたしました。

大津波警報の場合は3mを超えますので、2階に設置する考えをもっておりますが、ハザードマップの津波浸水区域によれば、海岸線での津波の高さが3mのときでも、内陸に進むにつれて低くなり、海岸線から100m地点では、津波の高さは30cm以内におさまっております。よって、現在の南海トラフ地震シミュレーションの、マグニチュード9.1による津波であれば、災害時の本部設置場所として現在の役場庁舎でも本部機能を果たせるものと認識しております。

次に、農業振興についての1点目のたんかんの助成した農家の件数は何件か。また、加工品のたんかん買収はどうなったかのご質問ですが、今年度の2月末までの事業実施状況ですが、委託選果に出された良以上のたんかんを対象に、村独自の出荷用ダンボール箱の配布を7農家の方に行っております。

委託選果手数料や、ブランド確立協力金の助成は、J Aあまみ大島事業本部の取りまとめた根拠資料が3月中旬に配布され、その後助成するため、今年度の助成はまだ、行っておりません。現時点の聞き取りによる概算取扱量については6.7tとなっております。

加工用たんかんの買い取りについてですが、今年は18農家1,137kg買い上げました。今年度製造した、たんかんジュース「濃いに恋して100%」は令和4年度に販売いたします。

次に、2点目のパイプハウスのリース事業のハウス設置場所、面積、農家の申請見込み件数はどうなっているかお伺いしたいとのご質問ですが、農業用パイプハウスリース事業の目的になりますが、地域の生産品目及び生産量の拡大による、出荷量並びに販売額の向上のため、施設園芸への取組を強化、推進するため、令和4年度より実施いたします。設置場所については、申請者である農家さんに用意していただきます。設置面積は、約210㎡(6m×35m)になります。村民の皆様に応募していただき、令和4年度は、1件の事業を実施する計画にしております。

次に、軽石問題についての崎原3集落の海岸、河川に特に溜まっているが、村としても対応できないかのご質問ですが、崎原3集落の海岸の屋鈍海岸は、県管理の大島支庁瀬戸内事務所で進めているところです。村内業者のボランティアにより、昨年11月22日に大型土のう33袋分回収して、県道横に仮置きしております。

残っている軽石の撤去は、現在、関係機関との協議を行っており、協議終了後、委託業務の発注を行い、できるだけ速やかに撤去できるように、努めてまいります。阿室集落、平田集落の海岸は、海岸保全区域内にあり、村管理の海岸になります。

現況確認したところ、平田集落入口付近の平田川河口部に、他より多く漂着・堆積した軽石を確認しております。村で計画を立て除去作業を行いたいと考えております。また、河川に溜まっている軽石についてですが、屋鈍川、阿室川下流部で確認しております。今後、建設課で除去作業を計画を立てて対応していく考えであります。

以上であります。

○議長（杉浦治俊君）

再質問がありますか。

○1番（倉本富夫君）

防災のことについてなんですけど、先ほどから同僚議員が質問されているので、ある程度、自分が聞きたいところとかを、話していきたいと思えます。

まず、村としては今回の津波については、車で、車か徒歩かという避難の計画が、避難の仕方があると思うんですけど、当初ではどちらのほうを、どちらのほうで避難をしてもらうかというのかは考えていたんですか。

○総務課長（原田俊昭君）

お答えいたします。これまでずっと行っていた津波での避難訓練は、村内の23一次避難場所にそれぞれ徒歩で集まって、人数を確認したり、避難のしかたとか、いろいろ確認したりとか、そうい

う訓練でございました。ですから、避難訓練においては車での避難というのはやったことはありませんでしたが、実際、今回、真夜中で、寒い中の避難ということになったとき、実際は車で避難する人が多くありました。実際、また長時間に及びましたので、車での避難が有効であったと思っております。ですから、今回はそういうことが示されましたので、今回は避難場所の見直しですか、車で避難できる場所に簡易テントとか、建てられる場所はないかとか、そういったところを考えていきたいと思っております。

○1番（倉本富夫君）

自分も車で避難したんですけど、今回、夜ということもあり、車で横になる方も結構いらっしやいました。場所によってですけど、その避難場所によってですけど、車の数、渋滞とかいう問題が奄美市のほうとかでもあったと思うんですよ。そういう避難場所に選定した場所にちょっと大きな駐車場とか、そういうのとか、路肩に車線を引いて、車を止めてくださいとかいうのはできないですかね。

○総務課長（原田俊昭君）

今回、避難場所の見直しということで、全集落回って、区長さんと一緒に見させていただきました。そういった場所においては、高台の県道沿いでセンターラインが入っている大きい道路とか、実際そういうところもありました。そういうところはもう片側にずっと止めてもらったら、それでも大丈夫だと思っております。ですが、場所によっては、Uターンが難しいところとかも実際ありましたので、そういったところは路肩の整地して広げる場所とかあったらですね、Uターンできる場所、とにかく、島で渋滞とかいってもですね、譲り合いすればなんとかできると思っております。ですから、そのUターンする場所さえ確保できたら、車避難も非常に有効になると考えておりますので、今後、そのように進めていきたいと思っております。

○1番（倉本富夫君）

あと、名柄の集落のほうは簡易のバッテリーでしたかな、蓄電器みたいなのと、あと街灯を役場の方が持って来てくれて、結構明るかったんですけど、やっぱり、ほかの他集落の方に聞いたら、そういうのも役場からも遠いということもあったんでしょうけど、そういうのも集落もしくは消防団の方々に持ってもらって、各集落、各消防団に1個ずつというのをやって、そういう場所づくりとかをしてもらうのも一つの手だと思うんですよ。それに関してはどう考えていますか。

○総務課長（原田俊昭君）

現在、停電時の対策として、13時間蔵ぐらいもつ蓄電池というのがありまして、それにライトもセットで12基準備できております。それはですが、当初は各学校に置いてですね、集中的に各校区で使うという考えでございましたが、今回のようなときには、学校から持って行くともなかなかできないので、やはり各集落にですね、設置をして、1晩もちますので、そういったので避難場所に設置するとか、やっぱりそういったものを進めていかなければならないと思っております。現在、ですから、揃うまでの間はですね、12基ある蓄電池を、まずは集落に配置をして、また順次学

校、校区にまた設置していきたいと思っております。

○1番（倉本富夫君）

ぜひそういうふうにしてもらっていただきたいと思います。高台の避難場所で、今回感じたのが、やっぱり冬ということもあり、寒いということでした。トイレのほうもなく、下に下りられた方もやっぱりいらっしゃいました。簡易トイレとかは、防災バッグの中に入っているんですけど、やっぱり村民一人一人が、ちょっと防災の意識を高めるためにも、防災バッグを一人一人が持って避難していただきたいと思うんですよ。それに関して、助成か補助とか、そういうのはできないのかなという考えですけど、どうですかね。

○総務課長（原田俊昭君）

防災グッズについてですが、午前中も申し上げましたが、寒さ対策の中で、村ができることは簡易テントとかを準備して、風をよけるような対策を行いたい。防寒対策ですが、防寒ですが、それは一応、身にまとうのが一番防寒着とかですね、になると思います。ですから、それはやっぱり自分の身に合った防寒着とかが必要になりますので、そういったのもセットで防災グッズ、個人個人で防災グッズは進めてもらいたいと思います。それについての助成ということですが、いろいろあると思いますが、集落によっては集落単位で考えたりしているところもございますので、平均的にいろいろ見た場合にはですね、一遍に村で準備するということは、集落の状況も見ながらではないと、無理だと思っておりますので、今後、検討はいたしますが、基本的には個人で防災グッズは揃えていただきたいと思っております。

○1番（倉本富夫君）

自分たちは防災グッズ、防災バッグを持っているほうなんですけど、やっぱり高齢者の方とか、持っていない方が多く、集落単位とか、消防団でまとめて買ってとかいうのをしたいというときには、ぜひ補助、助成のほうをちょっとお願いしたいと思っております。

あとは携帯の電波が届かないところとかがあったんですけど、そうですね、消防団員がそこにもしいたりしたら、どういうふうに、対策本部と消防の人たちと、多分今、携帯電話でやり取りしていると思うんですよ。もし、その携帯電話が停電とかで使えなくなる場合があると思うんですよ。そういうときに、何かほかに無線の手段とか、そういうのを一応考えたりはしているんですか。

○総務課長（原田俊昭君）

役場の災害の本部と消防団の連携であります。基本的には役場から消防団の主だった方に連絡をして、そこからまた消防団組織の中で連絡を取り合うことになると思います。そうしないと、やっぱり命令系統とか、情報収集、間違った情報収集とかがあつてはいけないので、やはり今後もそのようにしていきたいので、やはり役場と連携を取る団員の方は、やはりつながるところにいてもらいたいと考えております。特別その携帯電話以外の無線機というのは、車とか、そういうのには、車同士の連絡を取り合うのとかついておりますが、電波が届かないような場所に行ったら、衛

星電話とか、そういったレベルにならないとつながらないとおもいますので、今考えられる範囲で言えばですね、やはり携帯電話とかのつながるところで連絡を取れる体制を考えていただきたいと思っております。取っていくようにこちらもしていきたいと思っております。

○1番（倉本富夫君）

携帯電話が電池、あとアンテナのほうにも電気が通ってないと、電波が立たなくなると思うんですよ。消防の無線が結構幅広く通ると思うんですけど、一応、対策本部にも消防の無線とか、そういう緊急時にある程度の距離がつながる無線を置いたらどうかなと思うんですよ。これは自分の意見ですけど、やはりなるべく対策本部と消防の分団長と連絡を取って、密に避難していかないと、また何かあったときが大変なので、そちらのほうをちょっとやっていただきたいなと思います。

あと、FMうけんは放送の切り替えを手動でしないといけないというふうになっていたんですけど、NHKとか、ああいう放送も一応手動で切り替えられるようにできるんですか。

○総務課長（原田俊昭君）

FMうけんについてですが、FMうけんで流れている番組は、番組表で組んでおきまして、例えば名瀬のディが流れるときにはディの番組を、その何時から何時まではディが流れるというふうに番組を組んでいるということになりますから、自動でしたら、その組んだとおりに流れる。ですから、今回のような場合には、ディを流したいときには手動でその時間のところに、もうディを番組として入れるということになります。この、もうとにかくラジオとかも含めて、先ほどの無線の連絡とかも含めて、やはり役場からできる体制は、今後、本当、考えていかなければいけないと思っております。そういった中で、今回の4年度の当初で防災無線の更新というのが入っておりますが、これはもう4年5年連続して更新をするわけですけども、そういった中でできるだけそういった、こちらからも要望を出してですね、そういう体制を取っていきたいと思っております。

○1番（倉本富夫君）

ぜひお願いしたいと思っております。あと、防災無線、今、集落のほうで流れているやつですよ、以前質問した、同僚議員だったかな、が質問したときに、各個人の家とかにも置けるとかというような話を聞いたと思うんですけど、そちらの進捗のほうはどうなっているんですかね。

○総務課長（原田俊昭君）

これは各家庭に置く、自動で起動するラジオであります、予算のほうで100台見込んで予算計上してございます。以上です。

○1番（倉本富夫君）

ぜひそれもちょうと早めに、何が起こるか分からないので、早めにしてもらいたいと思っております。眠ってて、耳が聞こえない方がいて、全然それでも防災無線のアラームでも聞こえなくて起きられなかったという方も、やっぱりいらっしゃるので、そういう、聞こえるようにとか、そういうのはぜひやっていただきたいと思っております。

次の農業振興の質問ですけど、加工品のタンカンの買い取りのほうで、1,137kg買い取ったとあり

ましたけど、これ、全部今年度中に加工するんですかね。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

今年度のタンカンの買い上げ数量が、答弁のとおり1,137、それを2月の後半ぐらいから出荷しはじめて、売るのは令和4年度になるんですが、今、全部製品として戻って来ている状態でありませう。

○1番（倉本富夫君）

前回はタンカンジュースの買い上げをしたんですか。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

このタンカンの買い上げになります濃いに恋しての100%オレンジジュースになりますけど、令和元年度から始めておまして、今年度で4年目になります。ちなみに去年のタンカンの買い上げ数量になりますけど、同僚の議員にも言ったんですけど、581kgになります。以上です。

○1番（倉本富夫君）

大分増えていきますね。こちらのタンカンジュース、昨年からは、令和元年から作っていると言われましたけど、タンカンジュースのほうは全部売れているんですか、在庫はまだ残っているんですかね。そこら辺を教えてください。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

お答えします。当初の令和元年度のときは、大和村にあるまほろば館ですかね、そこと住用にある三太郎の里と、あとうけん市場で売上げておりました。現在のところは、住用の三太郎の里とうけん市場で売っている、あとふるさと納税に出しておられます。それは全部その年度内で完売しておられます。以上です。

○1番（倉本富夫君）

では、来年度についてですけど、今のところ完売している。今年もタンカンジュースの買い取りをして、今年も売れたら、徐々にやっぱりタンカン不用品の企画外の買い取りを進めていく方向ですか。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

タンカンの品質確保にもなりますし、これから先も宇検のPRにも関わりますので、ずっと続けていければと思っているところです。

○1番（倉本富夫君）

ふるさと納税、ふるさと返礼品のほうにも使われているということでしたけど、返礼品のほうに出した大体の金額、金額というか、本数とかいうのは、分かりますか。あと、全体でのタンカンジュースを作った本数とか、前年度の本数とかいうのも、ちょっと知りたいです。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

ふるさと納税に前年度出したのが50本、約50本です。今年ふるさと納税で、一応ふるさと納税の担当者のほうから予約されているのが150本、これみんな720mlの大瓶のほうです。それで、前年度の

本数になると思うんですけど、前年度が720mlの製作本数が205本、小さい180mlのやつが673本になります。以上です。

○1番（倉本富夫君）

ぜひ農家の方にとって最高の収入源だと思うので、こちらの買い取りのほうと、あとPRのためにも、タンカンジュース大分使えていると思うので、これからもよろしくお願ひしたいと思ひます。

あと、パイプハウスのことについてなんですけど、これ、場所のほうは、その農家が申請した場所だけなのですか。村独自でその場所を借りて提供するというのはやらないのですか。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

場所になります、農家の方に土地を準備してもらって、そちらに建てていただくようになります。役場のほうではその土地までは準備することはありません。以上です。

○1番（倉本富夫君）

作る品目がこちら、宇検村の重要品目になっていると思うんですけど、このハウスの何用のハウスか、マンゴー用とか、パッション用、あと花卉、花とか野菜とか、いろいろハウスの種類があると思うんですけど、どういう取るのハウスなのか知りたいです。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

お答えします。このハウスの形式名がK6N型、6m×35mの210㎡になっています。まず、Kというのが鹿児島という意味で、6というのが間口の幅です、6m。Nは果樹用ということでNになっております。以上です。

○1番（倉本富夫君）

パッションとか、マンゴーはちょっと別かな、マンゴー、あとパッションやマンゴーを一応作るようなハウスなんですか。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

村の推奨品目でありますパッションフルーツとマンゴーの制作をしていただくようなハウスになっております。

○1番（倉本富夫君）

今、農家が1件だけ申請がきているということなんですけど、まだ今からそういう申請は受け付けているんですかね。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

お答えします。この事業が新規事業になりまして、令和4年度、今度の4月から始まる事業になります。それで、申込み申請の期間を設けまして、審査をした結果で1件の方にハウスを使っていただく、リースしていただく事業になります。以上です。

○1番（倉本富夫君）

一応今年度は1件だけということによろしいですか。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

はい、今年度は1件を予定しております。以上です。

○1番（倉本富夫君）

こういう事業、新農者の方にもすごいとつきやすい事業だと思うので、もうちょい、またPRして、こういう事業があるから、ちょっと自分で畑を、耕作放棄地をちょっと開墾して、こういうやつをやってもらいたいというのを、もうちょっとPRしてもいいかなと思うんですよ。それについてですけど、今回、どういうふうなPRというか、そういうのをしたんですかね。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

お答えします。まだPRはしておりません。今年度の事業でまだ予算も通っていない状態ですので、まだPRはしませんが、通った場合に、通していただいた場合には、この前、タンカンブランドのときも一緒のように、防災無線等、またラジオ等、また広報等で住民の皆様にお知らせしたいと考えております。以上です。

○1番（倉本富夫君）

パイプハウス、一応有償となっているんですけど、月か年かは、一応どれぐらいの金額なんですか。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

お答えします。このハウスは役場のほうから150万円で農家の申請された方の土地に設置いたします。リース事業なので、7年間の間月1万円、年間で12万円、7年間払って84万円になると思います。そのリース料を払っていただくことになると思います。以上です。

○1番（倉本富夫君）

本当に新規就農者とか、そういう新しくまた畑とか、そういうものを植えたい方には、とてもありがたい事業なので、自分も応援していきたいと思います。

最後にですけど、河川の軽石のほうなんですけど、崎原の3集落は冬の時期じゃなくても波とか、北風とかで川が詰まって、その中に河川のほうに軽石が入って、溜まっていつているみたいなんですよ。建設課のほうで除去作業をしていくと、計画を立てて対応していくということなんですけど、そもそも河川がやっぱり詰まるのが原因なのかなと思います。いろいろ河川が詰まるのをいろいろやっていると思うんですけど、一応、去年か一昨年、阿室川のほうは、一回河川を上げたんですけど、また今詰まっている、詰まっているというか、浜のほうに堆積している砂とかがあるんですよね。あれ、ちょっとどうにかできないのかなという思いがあるんですけど、そこら辺、ちょっとどう考えているのか、教えていただきたいと思います。

○建設課長（高田浩志君）

議員おっしゃっております屋鈍川と、それから阿室川なんですけど、以前、河川の中に軽石が堆積、溜まっていたのは、確認しておりました。両方の河川とも、海岸側のほうがたかくなっておりまして、ですから、もう入り込んで、入り込んでしまっ、外のほうには流れ出ない状況になって

おりました。両方とも川の水に浸かった状態でしたので、この中で除去作業を計画を立ててということによっておりましたけれども、3月の3日の日に役場職員8名で屋鈍川から始めまして、阿室川の除去作業をいたしました。屋鈍川につきましては、もう完全に干上がった状態でありましたので、人力でやりまして、屋鈍川については川の中に入り込んで、網を上流から下流に引っ張って来て除去作業をしております。屋鈍川で2 t ダンプの2台、そして阿室川でその2 t ダンプ2台と土のう袋10袋ほど除去作業をしておりますが、両方ともやはり河口のほうがふさがっている関係で、今後また新年度に口のほうのですね、砂を一たん除去して、外からの海流もツーツーナ状態にしようという考えではあります。

○1番（倉本富夫君）

あそこをずっと自分も崎原のほうに縁があって行っているんですけど、1・2年で必ずまた元の状態に戻るんですよ。そっち、何か対策ができないかなと思っているんですけど、どうなんですかね。

○建設課長（高田浩志君）

議員おっしゃったとおり、2年前にも取りまして、その前も何回か取っているはずですよ。基本的には、その溜まった河口が詰まった時点でそこを空ける、この繰り返しをしていくしかないのかなと、今のところ考えているところです。

○1番（倉本富夫君）

分かりました。あと、平田の川、一番こっちから行けば手前のほうの農道のところの川も、結構堆積しているような感じがするんですよ。そっちも入口、平田のほうも川が3本あるんですけど、全部詰まっています。2本の川については、軽石のほう干上がっているとか、河川の下の方に干上がっているとか、あと川のほうにちょっと流れ出ている、浮かんでいるというのが結構見られるので、こちらのほうもちょっとお願いしたいと思います。自分にも声をかけてくれたら、手伝いに行くので、いくらでも呼んでください。

以上で僕の質問を終わりたいと思います。

○議長（杉浦治俊君）

これで1番、倉本富夫君の質問を終わります。

これで、本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会します。

○職員（松井 学君）

ご起立願います。一同、礼。

散会 午後 3時02分

令和 4 年第 1 回宇検村議会定例会

第 3 日

令和 4 年 3 月 8 日

令和4年第1回宇検村議会定例会会議録
令和4年3月8日（火曜日）午前9時30分開議

1. 議事日程（第3号）

- 日程第 1 一般質問（通告順）
7番 喜島 孝行 議員

○散会の宣言

1. 本日の会議に付した事件
議事日程のとおり

1. 出席議員

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	倉本富夫君	2番	壽山新太郎君
4番	海原隆家君	5番	肥後充浩君
6番	吉永常明君	7番	喜島孝行君
8番	杉浦治俊君		

1. 欠席議員

3番 保池穂好君

1. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

事務局長 松井学君 書記 楠田綾香君

1. 説明のため出席した者の職氏名

村長	元山公知君	会計課長	小松洋仁君
副村長	植田稔君	教育委員会事務局長	松元五月君
教育長	村野巳代治君	建設課長	高田浩志君
総務課長	原田俊昭君	住民税務課長	柳百々代君
保健福祉課長	栄光男君	産業振興課長	栄平四郎君
企画観光課長	辰島月美君		

△ 開 会 午前9時30分

○職員（松井 学君）

ご起立願います。一同、礼。

○議長（杉浦治俊君）

これから、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお配りしたとおりです。

△ 日程第1 一般質問

○議長（杉浦治俊君）

日程第1、一般質問を行います。

順番に質問を許します。

7番、喜島孝行君。

○7番（喜島孝行君）

議場の皆様、おはようございます。令和4年第1回定例会にあたり、一言所見を申し上げたいと思います。

昨年末には新規のコロナウイルス感染も収束しかけたと思われましたが、なかなか収束せず、6波の波が大きくなり、不安な日々を過ごしている日常でございます。村民の皆様におかれましては、十分感染に気をつけられてお過ごしくださいますよう、お願いいたします。

それでは、通告に従い、一般質問をいたします。

最初に、定例会初日に村長から施政方針が示されました。その中から何点か質問をしていきたいと思えます。

まず最初に、今後予定されている診療所の建替え、防災会館の順次建替え等、あるいは防災会館の建替え、給食センター、役場庁舎など、公共関連施設建設の時期や、その大きさなど念頭に入っていればお教えてください。

次に、農地中間管理機構の現状及び今後のあり方について、お願いいたします。

そして、3番目に、3月に完成する観光拠点施設ケムムの館と、うけん市場のあり方について、お願いいたします。

4番目に、去る1月16日未明のトンガ沖大噴火に伴う、津波警報による一時避難のあり方、そして、その行動についての感想をお聞かせください。

最後に、オミクロン株の感染が続いている中、3回目の接種が行われていますが、今後の方策をお聞かせください。

あとは通告席にて質問させていただきます。

○議長（杉浦治俊君）

ただいまの喜島孝行君の質問に対して答弁を求めます。

○村長（元山公知君）

皆さん、おはようございます。喜島議員のご質問にお答えします。

施政方針についての1点目の、今後予定されている公共関連施設の時期や、その大きさなど念頭に入っているのかとのご質問ですが、今後の公共施設の建設時期や規模として、防災会館については、現在宇検集落の防災会館を建設しており、今年度中に完成いたします。屋鈍集落も建て替えに向け解体工事に入っております。

防災会館の今後については、今年度劣化度診断を行いましたので、まず危険箇所の改修を行い、劣化の箇所や規模で判断して、改修や建て替えの時期を総合的に判断してまいります。

診療所については、4年度実施設計に入り、5年、6年で建設予定であります。

給食センターについては、学校給食のあり方検討委員会からは、センター方式で、各学校へ配送する方式にした方が良いという検討結果が報告されました。建設場所については、須古集落の農協裏村有地が候補地として望ましいとの報告でありました。建設時期については、令和7年度に着工できるよう進めてまいります。

庁舎については、計画的に基金積み立てを行っておりますので、計画どおり令和10年度までには建設したいと考えております。

次に、2点目の農地中間管理機構の現状及び今後のあり方についてとのご質問ですが、現在、湯湾、宇検、平田の3地区を中心に村内耕作地の3分の1にあたる54.3ha（241筆）が、農地中間管理事業を活用した農地の貸し借りを行っております。農地中間管理事業を活用するにあたり、相続未登記の農地が多いことが、活動の障壁となっております。また、本事業では農地の貸し手と借り手のマッチングが必要となるため、農業委員会を中心とした遊休農地の貸し手の意向調査などが、重要になってくると考えております。

今後の対策としまして、現在宇検村では、後継者や担い手農家が不足しておりますが、持続可能な営農計画を立て、個人ではなく生産組合や集落などによる集団での営農に繋がられるよう、推進していくことが重要であります。

今後も、農業委員会を中心に村・県・農業委員会の3者での連携を密に取り、相続未登記農地の解消や、話し合い活動、農地中間管理事業の周知に努め、本事業を推進してまいります。

次に、3点目の3月に完成する観光拠点施設ケンムンの館と、うけん市場のあり方についてとのご質問ですが、今現在、順調に運営しているうけん市場を、観光拠点施設「ケンムンの館」に移転して、4月1日から運営を開始する予定にしております。

冷蔵・冷凍庫の移動や在庫の管理、調整などを行いスムーズに営業できるよう進めております。「ケンムンの館」では、うけん市場と観光総合窓口、グリーンスローモビリティ運行の3つの業務が行われます。

その「ケンムンの館」と隣接する「結いの館」含めて、令和4年度から行政でなく、指定管理者となる会社が運営を行います。

うけん市場も、新たな施設の中で村民が生産した農林水産物や、加工品等を安価で提供し、来場客へ喜んでいただけるものと思っております。複数の施設や機能が一体化することにより、うけん市場の売り上げの上昇や、村民交流、観光発展へと相乗効果を目指してまいります。

次に、4点目の1月16日未明のトンガ沖大噴火に伴う、津波警報による一時避難のあり方やその行動についての感想はとのご質問ですが、今回の津波警報が、冬の真夜中に発表され、警報解除になるまで7時間15分かかりました。真っ暗の中、長時間にわたる避難は、トイレの問題や寒さ対策などで大変つらい思いをされたことと思います。

避難行動については、消防団の避難誘導や支援もあり、迅速な行動がとられたと認識しておりますが、多くの課題が浮き彫りになりました。主なものとして、今回多くの方が車で避難しましたが、暗闇の寒い中では、車避難が有効で現実的であるということを実感いたしましたので、全集落で避難場所の見直し検討に入っております。

他にも情報発信が足りなかったこと、屋外でのトイレ問題、寒さ対策などについて、1月20日の区長、消防団、職員による検証会議を受けて具体的に検討し、出来ることから対応を急いでいるところであります。

今回は、気象庁が「これまでに経験したことがない」と話す異例の津波でありました。今後想定される津波は、南海トラフ地震か喜界沖地震により発生する津波であり、最短でも第1波の到達予想は38分かかりますので、冷静な避難行動がとれるよう備えを呼びかけてまいります。

次に、5点目のオミクロン株の感染が続いている中、3回目の接種が行われているが、今後のあり方はとのご質問ですが、2月28日現在で、新型コロナウイルスワクチン追加接種（3回目）を完了している方は、65歳以上で594名、18歳から64歳までが113名の、合計707名となっております。割合でいきますと、65歳以上が87.5%、18歳から64歳までが19.0%で、合計55.5%となっております。

今後の予定では、3月13日に約220名、4月24日に約220名、5月15日に約60名と、希望する村民の方に接種を実施いたします。

以上であります。

○議長（杉浦治俊君）

再質問がありますか。

○7番（喜島孝行君）

質問の中の1項目、2項目、3項目につきましては、昨日同僚議員が同じような質問をしておりますので、私はまた別な観点から質問したいと思います。

トンガ沖地震に伴う今回の津波の避難ですけど、急なことでびっくりして飛び起きて、周りを見て、湯湾の私の家の前の海と湯湾川を見たんですけど、川底が見えるぐらい引いておりまして、昔のチリ地震ですか、1960年のチリ地震のときが、最初は相当引いて、その次に2波、3波と大きな津波が来たということですので、それを思い出しながら冷静に観察していたわけですけど、どうしようかということで、近所の方々とも一緒になってやはり一次避難をしたほうが、高台へ避難したほ

うがいいんじゃないかということで、車で移動いたしました。途中、早めに避難されている方もいらっしゃいましたけど、ところが、その後の情報ですか、これも昨日の話でもあったんですけども、情報がなかなかなくて、同じような、ラジオを聞いても同じような放送しかしておりませんでしたので、その辺りのところは、もっと細かい情報をいただければ、避難している方々も安心するんじゃないかと思えますけど、その辺りのことについて、何か特別な方法はないかお教えいただければありがたいですけど。

○総務課長（原田俊昭君）

この災害時に情報発信ですけれども、今回は本当、情報不足というか、皆さんがもう7時間余り避難されて、不安の中ですね、静かでいろいろ寒い中、情報が足りなくて、情報でもあればですね、ちょっと安心できたんじゃないかなと思っております。そういった中で、ただ防災無線で何かを伝えるだけではなくて、例えばあまみFMとかは、いろんな語り合いながら、いろんな励ますような情報も伝えておりますので、そういったことも含めまして、今後はやはりFMラジオを最大件に生かしてですね、いろんな動きの情報の合間合間には、避難されている方を励ますような情報も流したりとか、いろんなそういったことも考えていきたいと思っております。

○7番（喜島孝行君）

この津波のことに關しまして、鹿児島大学の教育センターの岩船さんが2月9日に南海日々新聞さんに寄稿しているのがありまして、奄美での津波を振り返るという題目で載っておりました。これによりますと、津波のまず注意報の発表基準は、津波の高さが0.2mから以上、1m以下の2点で普通は出すと、今度は逆に津波警報のほうは1m以上、そして3m以下というふうな範囲になったら出すということで、ところが、もう23時55分には奄美市小湊で1.2mの津波は出ているということで、本来ならその時点で出すべきだったんじゃないかと、注意のほうも早くで出せば、出したほうが住民にとって非常に親切じゃないかと思ったんですけど、思ったということで、気象庁では大体16日に0時15分に津波警報を奄美群島、トカラ列島に、津波注意報を全国太平洋側に発表したと。ところが、我々が聞いたのは、もう既にその後で、もう到達した後だったということ、この岩船教授が述べております。まして、またこのトンガ沖の地震というものは、遠地津波ということで、非常に珍しいということで、気象庁もなかなか判断が難しかったんじゃないかということで、途中の情報も流れが悪かったんじゃないかと思っておりますと、そのように書いております。一番津波の問題の場合は、その高台にほうに逃げるのが、大体一番得策だろうと思うんですけど、この場合はやはりそれだけの余裕と時間があれば十分なわけですけど、もし、すでにもう津波が来て、周りがもし津波が流れていたら、非常に人でも車でも困難じゃないかと、それだったら、逆に緊急避難ビル避難というような垂直避難も検討してはどうかというのが載っているわけなんですけど、それについてどうお考えか、お願いいたします。

○総務課長（原田俊昭君）

確かに、津波の場合の避難の行動ですけれども、基本的にはより遠くよりも、より高くというふ

うにいられております。ですから、逃げる際に、より高い建物があつたら、もうそこに上るのがより遠くに逃げるよりも命を守ることにつながるといふ考えであります。この件についてはですね、岩手とか、いろいろな津波の多いところはですね、もう子供にその避難の訓練をする際にも、それをもうしっかり、そのたんびに伝えているようです。より遠くに逃げるよりも、すぐより高いところに逃げなさいといふのを伝えているようでもあります。今、議員がおっしゃったようにですね、今回の津波は実際、一報があつたのは、8時頃ですね、夜の8時頃、20cmぐらゐの変動があります、午前0時頃に20cmぐらゐの潮位変動があるかもしれないといふ一報が入りました。ですから、警報にはならないといふことでありましたが、実際には、第1波が8時40分に小湊に到達して、次、23時55分に小湊で1.2mを超えたので、1mを超えたので警報発令といふことになつたようでもあります。そういったことからして、警報はですね、奄美全体に出されるわけで、小湊で出ても奄美全体ですので、宇検村ではそんなに上がらなくても警報といふふうになります。ですから、そういったのを冷静に判断できたら、遠くに逃げなくても垂直避難といふことでもよかつたかと思ひますが、真冬の真夜中のことでありましたので、警報が鳴つた途端ですね、皆さん、やっぱり身を守るために、より遠くへ逃げる、それが信条だつたかと思ひます。ですから、今後ですね、実際今後は南海トラフと喜界沖地震が津波に想定されていますけど、答弁でもありましたけど、第1波が到達するまで38分かかりますので、そこら辺は冷静に考へて、潮位がどれぐらゐ上がるかといふのを考へて、ここなら大丈夫といふことで、より遠くよりもより高くといふこともみんなで判断できるように、防災訓練などでもですね、住民に知らせていきたいと思ひます。以上です。

○7番（喜島孝行君）

今、総務課長が述べましたように、なるべく情報を、正確な情報をいただければ、村民もありがたいことだらうと思ひます。この岩船先生の寄稿によりますと、木造家屋であれば一般に約2mの深さまでの津波でも、2階以上におれば助かる可能性が多いんじゃないかといふことで、時間的余裕があれば高台避難までも十分大丈夫だらうと思ひんですけど、緊急性があつた場合は、行く途中で津波にあつてしまうと、どうしても命の危険性が高まると。だから、なるべくだつたら2階以上の建物があつたんだつたら、2階以上の建物に逃げ込んだ方がいいんじゃないかといふようなことを力説していらつしゃいます。特に、津波とか地震とかの場合、大体逃げ出そうとしても路上が多いから、路上にもう逆に津波が流れていれば、それで足元をすくわれて、人間でも、あるいは自動車でもすぐ流されるという危険性があるといふことで、なるべくこの垂直避難も検討に入れたほうが、今後の避難の検討に入れたほうがいいんじゃないかと、おっしゃっています。

津波からの避難といふことは、津波の状況を高さ、到達時間、家屋の立地、標高、海岸からの距離、避難場所やそこまでの避難経路の地理的特性、避難者の体力、移動手手段等に応じて異なりますので、日ごろからおのおのの避難体制を整えたほうがいいんじゃないかといふことを力説していらつしゃいます。

だから、結論的に言ひますれば、高台避難のみを推奨せず、自宅や隣家等の2階以上に上がる緊

急的な垂直避難を選択肢に入れた対応でもよかったのではないかと力説していらっしゃいます。その辺についてはどうですか、再度。

○総務課長（原田俊昭君）

岩船先生が新聞でも伝えておりますが、家屋が倒壊する恐れのあるぐらいの津波といいますと、この波の流れが秒速5mを超えたら、家が壊れる可能性があるということがいわれているようです。今、想定されている津波の勢いですね、それはそこまではいかないだろうと、その警報レベルですけども、いわれております。そういうことからしましたら、普通の建物で人が住んでいる建物ですね、しっかりした建物であれば、2階以上のところに逃げたらですね、命は助かる。より遠くて高いところが一番理想は理想なんですけども、やはり議員がおっしゃるように、垂直避難をですね、やはりそういうことも考えまして、家は壊れないというふうな、ある程度の考え、この津波のレベルを見てですけども、考えてですね、垂直避難ということも今後は考えていかなければならないと思っております。

○7番（喜島孝行君）

先ほどから答弁にもありましたとおり、南海トラフが一番、今後30年の間に80%ぐらい来る確立があるというのがいわれておりますけど、現在のあれとして、大体何mぐらいの高さの津波が宇検村には来るだろうと考えていらっしゃいますか。

○総務課長（原田俊昭君）

喜界沖と南海トラフと、今二つ想定されていますけれども、喜界沖地震が一番高いのは、この湯湾集落のところで2.7m、南海トラフは3.271というふうになっております。そのときですね、小湊のほうは5.98、約倍上がっております。ですから、太平洋側で地震が起きた場合で津波が起きた場合は、小湊よりも約半分ぐらいですね、の高さになるというふうに考えてもらったらいいと思います。今、シミュレーションで出されている数字は、そのようになっております。大和村では4.4mとかですね、なっております。この近辺では宇検村が一番低くなっております。

○7番（喜島孝行君）

高さは分かりましたけど、そのあと屋鈍を入れて来て、それから一番奥の湯湾、須古あたりまでに多少の時間はあると思うんですけど、その大体時差ですか、屋鈍、宇検あたりと、その湯湾、須古あたりの時差はどれぐらいか、分かりますか。

○総務課長（原田俊昭君）

はっきりした時間は、湯湾までは38分というのがありますけども、あとは判断の基準としまして、先ほど申し上げました秒速5mですか、そういった流れを考えて、それで計算して出すとか、そういう負になると思います。また津波はですね、海面が流れるのではなくて、海全体、海底、海底のところも全部動くのが津波ということですので、その地形にも相当影響するようであります。その流れのスピードはですね、ですけど上がってきたときのスピードは、秒速5mを超えないということが言われていますので、今の津波警報レベルはですね、宇検村に入って来た際ですけども、です

から、それで今計算はしてないんですけど、計算したら出て来ると思います。

○7番（喜島孝行君）

今のはまだはっきり分からないということですけど、宇検村の場合は幸いにも枝手久島がありまして、すぐすくまっすぐ来るわけじゃないですので、何と言いましょか、クッションがあちこち、曲がりが多いもんですから、少しは緩和されるんじゃないかと思っはいるんですけど、やはりこれはいかんせん東日本大地震みたいに、もう10何mというような、15m、18mというような大きな地震が来たら、とても高台のほうに避難しなくちゃいけないだろうと思っはいますけど、幸い宇検村は後ろ側が山が近くにありますので、すぐ高台のほうに避難はできるんじゃないかとは想像できますけど、その辺りの総務課でつかんでいる、何か情報とかございましたら、お教え願いたいです。

○総務課長（原田俊昭君）

大津波警報となると、3mを超える津波で、3mを超える津波でも、何かこう大津波の中でも段階があるんですけども、とにかくそうなることですね、やはり今回の避難のように、高台に一斉に避難するのが理想だと思います。ですが、今示しているハザードマップですか、それがもう皆さんに配られていますけど、あれを見ますと、海岸線の色と、ちょっと中に入った色が違いますけど、ブルーになっている、緑色ですね、なっているところは30cm以下を示している場所です、ハザードマップの中で。それから見ますと、海岸線の中で、ぼんところ3mぐらい上がって、あとはやはり下がっていく、大体100mぐらい進んだところでは30cmの浸水というふうに予想されております。それは、今予想されている3mの津波が宇検村に来たときに、そうやって海岸線のところはそれだけ上がって、あとはちょっと下がっていくというふうになっております。ですけど、津波の場合は誰もが想定できないというか、1波、2波、3波とこう襲ってきますので、一応ハザードマップを参考にしながら、やはりそれ以上の避難ですか、を頭に入れておいてですね、より遠く、より高くというふうなのを頭に入れて、避難を想定しておいてほしいと思っはしております。

○7番（喜島孝行君）

個人的な考えではありますけど、宇検村にその津波が来るというのを、早めに把握できるような、その機械とか、設備を入口の屋鈍か、あるいは宇検、あるいは枝手久島ですか、そういうのもし設置できるんだったら、非常にありがたいことじゃないかと思っはいますけど、いかがでしょう。

○総務課長（原田俊昭君）

今の気象庁がいろいろ発表しているのを聞いても、昨日もどこですか、日本海側で震度4の地震があつて、もう何分もしないうちに津波の発生の恐れはないという、今やはり地震が発生しても、すぐ津波の恐れはないという発表が出るぐらい、気象庁というか、そういったところの観測レベルですか、は上がっていますので、まずはそういった情報をいち早くつかんで対応するということが、一番大事だと思います。そういった機材とかはもう全然、今のところは考へてはおりません。

○7番（喜島孝行君）

分かりました。気象庁を信じましょう。いや、できれば地元にあったほうがいろいろ便利ですし、村民にすぐ連絡が行くから、いいんじゃないかと思った次第です。

それでは、次にいきたいと思います。オミクロン株の件ですけど、先月から住民の皆さんは3回目の接種をしている、まだ残りの方がいらっしゃるという答弁ですけど、いつ頃まで終わる予定でしょうか。

○保健福祉課長（保枝力人君）

お答えいたします。現在、ファイザー社のワクチンが届いておりますが、モデルナも届いておりますが、その使用期限が5月になっておりますので、答弁でありましたとおり、5月15日を宇検村最終接種と考えております。以上です。

○7番（喜島孝行君）

なるべく早く終わることが、村民に、特に高齢者にとっては大事なことだろうと思いますので、お忙しいでしょうけど、積極的に接種の件、よろしく願いいたしたいと思います。

あとはもう同僚議員がほとんど言ったことの繰り返しみたいなことになりますので、私のほうもこれで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

○議長（杉浦治俊君）

これで、7番、喜島孝行君の質問を終わります。

これで一般質問を終わります。

これで本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会します。

○職員（松井 学君）

ご起立願います。一同、礼。

散会 午前10時08分

令和 4 年第 1 回宇検村議会定例会

第 4 日

令和 4 年 3 月 17 日

令和4年第1回宇検村議会定例会会議録
令和4年3月17日（木曜日）午前9時30分開議

1. 議事日程（第4号）

- 日程第 1 議案第 1号 令和4年度宇検村一般会計予算について
- 日程第 2 議案第 2号 令和4年度宇検村国保事業特別会計予算について
- 日程第 3 議案第 3号 令和4年度宇検村国保施設事業特別会計予算について
- 日程第 4 議案第 4号 令和4年度宇検村簡易水道事業特別会計予算について
- 日程第 5 議案第 5号 令和4年度宇検村農業集落排水事業特別会計予算について
- 日程第 6 議案第 6号 令和4年度宇検村漁港漁村集落排水事業特別会計予算について
- 日程第 7 議案第 7号 令和2年度宇検村介護保険事業特別会計予算について
- 日程第 8 議案第 8号 令和2年度宇検村後期高齢者医療事業特別会計予算について
(以上8件一括上程・委員長報告・討論・採決)
- 日程第 9 議案第 15号 宇検村報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例について
(説明・質疑・討論・採決)
- 日程第 10 議案第 16号 宇検村印鑑の登録および証明に関する条例の一部を改正する条例
について (説明・質疑・討論・採決)
- 日程第 11 議案第 17号 宇検村簡易水道設置及び維持管理条例の一部を改正する条例につ
いて (説明・質疑・討論・採決)
- 日程第 12 議案第 18号 宇検村農業用トラクター耕耘機及び農機具使用条例の一部を改正す
る条例について (説明・質疑・討論・採決)
- 日程第 13 議案第 19号 宇検村農業用大型機械運営境議会設置条例の一部を改正する条例
について (説明・質疑・討論・採決)
- 日程第 14 議案第 20号 宇検村地区生活館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する
条例について (説明・質疑・討論・採決)
- 日程第 15 議案第 22号 宇検村過疎地域持続的発展計画の一部変更について
(説明・質疑・討論・採決)
- 日程第 16 議案第 23号 宇検村国民健康保険税条例の一部を改正する条例について
(説明・質疑・討論・採決)
- 日程第 17 議案第 24号 工事請負変更契約（宇検集落防災会館新築工事）について
(説明・質疑・討論・採決)
- 日程第 18 議案第 25号 工事請負変更契約（美長良団地1号棟改修工事）について
(説明・質疑・討論・採決)

○日程第 19 議案第26号 工事請負変更契約（令和2年度観光拠点連携整備事業）について
(説明・質疑・討論・採決)

○日程第 20 同意第1号 宇検村教育委員会委員の任命について
(説明・質疑・討論・採決)

○日程第 21 議員派遣の件について

○日程第 22 常任委員会の閉会中の所管事務調査の件について

○日程第 23 議会運営委員会の閉会中の所管事務調査の件について

○閉会の宣言

1. 本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

1. 出席議員

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	倉本富夫君	2番	壽山新太郎君
4番	海原隆家君	5番	肥後充浩君
6番	吉永常明君	7番	喜島孝行君
8番	杉浦治俊君		

1. 欠席議員

3番 保池穂好君

1. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

事務局長 松井学君 書記 楠田綾香君

1. 説明のため出席した者の職氏名

村長	元山公知君	会計課長	小松洋仁君
副村長	植田稔君	教育委員会事務局長	松元五月君
教育長	村野巳代治君	建設課長	高田浩志君
総務課長	原田俊昭君	住民税務課長	柳百々代君
保健福祉課長	栄光男君	産業振興課長	栄平四郎君
企画観光課長	辰島月美君		

△ 開 会 午前9時30分

○職員（松井 学君）

ご起立願います。一同、礼。

○議長（杉浦治俊君）

これから、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお配りしたとおりです。

- △ 日程第1 議案第1号 令和4年度宇検村一般会計予算について
- △ 日程第2 議案第2号 令和4年度宇検村国保事業特別会計予算について
- △ 日程第3 議案第3号 令和4年度宇検村国保施設事業特別会計予算について
- △ 日程第4 議案第4号 令和4年度宇検村簡易水道事業特別会計予算について
- △ 日程第5 議案第5号 令和4年度宇検村農業集落排水事業特別会計予算について
- △ 日程第6 議案第6号 令和4年度宇検村漁港漁村集落排水事業特別会計予算について
- △ 日程第7 議案第7号 令和4年度宇検村介護保険事業特別会計予算について
- △ 日程第8 議案第8号 令和4年度宇検村後期高齢者医療事業特別会計予算について

○議長（杉浦治俊君）

日程第1、議案第1号、令和4年度宇検村一般会計予算についてから、日程第8、議案第8号、令和4年度宇検村後期高齢者医療事業特別会計予算についてまで、以上8件を一括議題とします。

本8件について、本8案について、審査の経過及び結果について、委員長の報告を求めます。

○予算審査特別委員会委員長（肥後充浩君）

場内の皆様、おはようございます。令和4年度宇検村一般会計、特別会計予算審査報告をいたします。

令和4年第1回定例会において、本委員会に付託されました令和4年度一般会計予算及び7特別会計予算について、審査の結果を報告いたします。

審査の概要を申し上げます。全員で構成する予算審査特別委員会の付託された一般会計予算及び1国保事業、2国保施設事業、3簡易水道事業、4農業集落排水事業、5漁港漁村集落排水事業、6介護保険事業、7後期高齢者医療事業の歳入歳出について審査いたしました。

村民の福祉向上、地域の活性化等、広く客観的に村民全体の立場に立った上で、公平公正な予算計上がなされているかを重点に審査した結果、原案のとおり全会一致で可決いたしました。

審査の詳細について、以下報告いたします。

一般会計についてですが、歳入歳出総額は32億5,275万8,000円で、前年度に対して1億2,300万5,000円増額で、前年度対比3.93%の増額予算となっている。

歳入の主な内訳は、自主財源の村税は1億3,362万8,000円で、前年度対比1.3%の減となっており、歳入が5億4,091万3,000円で、前年度対比23.4%増額予算となっている。

本年度も基金からの繰り入れによつての予算編成であり、新たな自主財源増の施策が求められている。財政健全化による行財政運営を強く望みます。

歳出の主な内訳の性質別の割合は、義務的経費42%、投資的経費は18%、その他40%、公債費は前年度より4,000万円増額計上されており、今年度も増額傾向が予想され、歳出予算を圧迫している現状である。

今後とも財政健全化を念頭に自主財源の増加や公債費負担比率を改善する努力を望む。

次に、特別会計予算についてですが、7特別会計歳入歳出総額10億1,134万5,000円、前年度対比4.4%、4,235万4,000円の増額予算となっている。

国保事業は、前年度対比0.8%の増となっており、国保施設事業24.4%増となっている。簡易水道事業については、使用料の見直し等、財政健全化の取り組みが見られるが、施設の老朽化に伴う施設更新費の負担が増大することが見込まれることから、引き続き財政の健全化に取り組んでいただきたい。

特別会計は一般会計からの繰り入れで維持運営されており、いまだに一般会計を大きく圧迫している状況である。特に漁港漁村集落排水事業は、維持管理費も増大することが懸念され、施設の統廃合など今後の運営が重要な課題である。

次に、委員から主な意見、質疑を申し上げます。

七ヶ宿町交流事業に関して、品物のやり取りだけでなく、人的交流や販路拡大等、地域の活性化を考え、できることから少しずつでも事業を進めるべき。

スポーツ合宿誘致に向けた積極的な取り組みをお願いしたい。

体育館横の公園整備について、観光拠点施設と連携を図るため再整備の必要があるのではないかと。

雇用の確保が困難な村内事業者に、どんどん鹿児島移住修行起業支援事業を広報し、雇用の確保、定住促進につなげてはどうか。

診療所建設について、役場庁舎と一緒に建設アンケート調査を実施して上で検討してもらえないかと。

その他の意見については、後ほど意見書として提出いたします。

審査の結果といたしまして、令和4年度一般会計予算は、前年度対比3.93%増額予算となっており、保健福祉の充実に努め、観光連携施設を中心とした観光の促進、地域共生の確立、交流人口の促進を図る予算案であると考えます。しかし、今年度も基金からの繰り入れにより予算編成がなされ、依然として自主財源が乏しく、依存財源に頼っている状況の中、引き続き財政健全化の運営に取り組むべきである。村民の福祉向上に努め、時代の変化に伴い発生する様々な課題に早急に対応する柔軟性のある行財政運営に職員一丸となって取り組むことを強く望む。

本予算審査特別委員会に付託されました令和4年度宇検村一般会計予算及び7特別会計予算は、全会一致で可決するものと決定いたしました。

最後に、村当局は本特別委員会の指摘と提言、意見書を真摯に受け止められ、今後の行財政運営に生かされるよう切望し、令和4年度予算審査特別委員会の委員長報告といたします。

○議長（杉浦治俊君）

以上で委員長の報告を終わります。

ただいま委員長報告がありましたが、全員で構成する特別委員会で3日間にわたり慎重に審査が尽くされておりますので、議案第1号から議案第8号までの委員長に対する質疑は省略したいと思います。

これから、一括して討論を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第1号、令和4年度宇検村一般会計予算についてを採決いたします。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

委員長の報告のとおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（杉浦治俊君）

起立多数です。

議案第1号、令和4年度宇検村一般会計予算については、委員長報告のとおり可決されました。

これから、議案第2号、令和4年度宇検村国保事業特別会計予算についてを採決いたします。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

委員長報告のとおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（杉浦治俊君）

起立多数です。

議案第2号、令和4年度宇検村国保事業特別会計予算については、委員長報告のとおり可決されました。

これから、議案第3号、令和4年度宇検村国保施設事業特別会計予算についてを採決いたします。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は可決であります。

委員長報告のとおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

[賛成者起立]

○議長（杉浦治俊君）

起立多数です。

議案第3号、令和4年度宇検村国保施設事業特別会計予算については、委員長報告のとおり可決されました。

これから、議案第4号、令和4年度宇検村簡易水道事業特別会計予算についてを採決いたします。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は可決であります。

委員長報告のとおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

[賛成者起立]

○議長（杉浦治俊君）

起立多数です。

議案第4号、令和4年度宇検村簡易水道事業特別会計予算については、委員長報告のとおり可決されました。

議案第5号、令和4年度宇検村農業集落排水事業特別会計予算についてを採決いたします。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は可決であります。

委員長報告のとおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

[賛成者起立]

○議長（杉浦治俊君）

起立多数です。

議案第5号、令和4年度宇検村簡易水道事業特別会計予算については、委員長報告のとおり可決されました。

これから、議案第6号、令和4年度宇検村漁港漁村集落排水事業特別会計予算についてを採決いたします。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は可決であります。

委員長報告のとおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

[賛成者起立]

○議長（杉浦治俊君）

起立多数です。

議案第6号、令和4年度宇検村漁港漁村集落排水事業特別会計予算については、委員長報告のとおり可決されました。

これから、議案第7号、令和4年度宇検村介護保険事業特別会計予算についてを採決いたします。

この予算は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は可決であります。

委員長報告のとおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

[賛成者起立]

○議長（杉浦治俊君）

起立多数です。

議案第7号、令和4年度宇検村介護保険事業特別会計予算については、委員長報告のとおり可決されました。

これから、議案第8号、令和4年度宇検村後期高齢者医療事業特別会計予算についてを採決いたします。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は可決であります。

委員長報告のとおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

[賛成者起立]

○議長（杉浦治俊君）

起立多数です。

議案第8号、令和4年度宇検村後期高齢者医療事業特別会計予算については、委員長報告のとおり可決されました。

△ 日程第9 議案第15号 宇検村報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例について

○議長（杉浦治俊君）

日程第9、議案第15号、宇検村報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。

○村長（元山公知君）

皆様、おはようございます。議会議員の皆様、昨日の外来種駆除作業、お疲れ様でございました。世界自然遺産核心地域である湯湾岳周辺ということもあり、村民の代表である皆様のすばらしい活動が新聞でも紹介されました。村内外へ自然保護共生の意識が広がっていくことを期待しています。ありがとうございました。

それでは、議案第15号について提案理由のご説明をいたします。

議案第15号は、宇検村報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例についてですが、報酬を支給する委員会の委員を新たに加えるため、条例の一部を改正するもので、議会の議決を求めるものです。

よろしくご審議をお願いします。

○議長（杉浦治俊君）

これで提案理由の説明は終わりました。

これから、質疑を行います。

○6番（吉永常明君）

このメンバーは何人で構成されているんですかね。

○企画観光課長（辰島月美君）

再エネ導入の検討委員会のほうになります。これは昨年からのこの委員会を組んでいるんですけど、昨年はこの報酬条例は上げていなかったの、報酬は発生しなかったんですが、今年度新たに再編成をして行う予定になっております。各種団体の委員長を検討していますので、10名から15名を予定しております。

○議長（杉浦治俊君）

ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第15号、宇検村報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例についてを採決いたします。

お諮りします。

本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

議案第15号、宇検村報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例については、原案のとおり可決されました。

△ 日程第10 議案第16号 宇検村印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例について

○議長（杉浦治俊君）

日程第10、議案第16号、宇検村印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○村長（元山公知君）

議案第16号について提案理由のご説明をいたします。

議案第16号は、宇検村印鑑の登録および証明に関する条例の一部を改正する条例についてですが、保証人の対象を村民に限定しないようにするため、条例の一部を改正するもので、議会の議決を求めるものです。

よろしくご審議をお願いします。

○議長（杉浦治俊君）

これで提案理由の説明は終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第16号、宇検村印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例についてを採決いたします。

お諮りします。

本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

議案第16号、宇検村印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例については、原案のとおり可決されました。

△ 日程第11 議案第17号 宇検村簡易水道設置及び維持管理条例の一部を改正する条例について

○議長（杉浦治俊君）

日程第11、議案第17号、宇検村簡易水道設置及び維持管理条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○村長（元山公知君）

議案第17号について提案理由のご説明をいたします。

議案第17号は、宇検村簡易水道設置及び維持管理条例の一部を改正する条例についてですが、宇検村簡易水道の給水区域を拡張し、安定した飲料水の供給を行うため、条例の一部を改正するもので、議会の議決を求めるものです。

よろしくご審議をお願いします。

○議長（杉浦治俊君）

これで提案理由の説明は終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第17号、宇検村簡易水道設置及び維持管理条例の一部を改正する条例についてを採決いたします。

お諮りします。

本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

議案第17号、宇検村簡易水道設置及び維持管理条例の一部を改正する条例については、原案のと

おり可決されました。

△ 日程第12 議案第18号 宇検村農業用トラクター耕運機及び農機具使用条例の一部を改正する条例について

○議長（杉浦治俊君）

日程第12、議案第18号、宇検村農業用トラクター耕運機及び農機具使用条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○村長（元山公知君）

議案第18号について提案理由のご説明をいたします。

議案第18号は、宇検村農業用トラクター耕耘機及び農機具使用料条例の一部を改正する条例についてですが、新規機械導入に伴う省力化機械一貫体系による農業用機械使用料の改正及び追加、修正を行うため、条例の一部を改正するもので、議会の議決を求めるものです。

よろしくご審議をお願いします。

○議長（杉浦治俊君）

これで提案理由の説明は終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑ありませんか。

○6番（吉永常明君）

表紙の一番下の商品名というか、タイヤショベルなんかこうあって、次の枠、ちょんちょんしかないけど、1日なのか、1時間なのか、これ、何か必要じゃないですか。ほかのページは1時間とか、1日とかと書いてあるけど、この表紙だけはちょんちょんになっているけど、何か、必要じゃないかな。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

この下のトレンチャーからパワーショベル、ミニユンボ、これまでの間のちょんちょんですけど、上にある宇検村農業トラクター、耕運機及び農機具使用条例のところの前に、まだ文章があるということです、表があるということです、別表が。

○6番（吉永常明君）

ほかの項目に関しては、全部、実働、書いていますよ、1時間幾ら、1日当たり幾らとか、金額が載っているけど、このちょんちょんというか、何と言うか、別に表紙があってもこれでは何か分からない。

○議長（杉浦治俊君）

暫時休憩します。

休憩 午前 9時55分

再開 午前 9時58分

○議長（杉浦治俊君）

会議を開きます。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

条例にありますのは、一番上に実働1時間に付きというのがありまして、その次から変わっているもんですから、そのちょんちょんになっているということです。

○議長（杉浦治俊君）

よろしいですか。

ほかに質疑ありませんか。

○5番（肥後充浩君）

これは料金改定も入っているものですか。それとも料金改定は前のままで、その条例の中で変わっているのは、料金改定も一緒に変わっているんですか。

○産業振興課長（栄 平四郎君）

この料金改定ですけど、主なものは現在あるんですけど、トラクターの後ろにつけるアタッチメント類、トレンチャーだの、新しく言えばプラソイラーとかいうのが新しく入っているのもありますし、料金改定をしたのは自走式モアのこれは手動なんですけど、実働1時間につき前は500円だったのがオペレーターつきになっているもんですから、1,000円に、500円上げて1,000円になっております。それと、堆肥散布機の自走式、これもオペレーターつきになっておりまして、実働1時間につき500円のが500円上げまして1,000円になっております。あとは大体が3,000円、これはもうずっとトラクターの後ろにつけるアタッチメント類なんですけど、3,000円できまして、そのプラソイラー、プラソイラーだけが小型トラクターに取り付けるということで、ハウスの中とかを土を上げる機械らしくて、それは3,000円じゃなくて2,000円ということになっております。

それとあと、新しく入ったのが、カッター自走式、これは粉碎する機械なんですけど、それとあとビレットプランター、4年度から入って来るのがスピードスプレイヤー、高所作業車になります。以上です。

○議長（杉浦治俊君）

ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第18号、宇検村農業用トラクター耕運機及び農機具使用条例の一部を改正する条例についてを採決いたします。

お諮りします。

本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

議案第18号、宇検村農業用トラクター耕運機及び農機具使用条例の一部を改正する条例については、原案のとおり可決されました。

△ 日程第13 議案第19号 宇検村農業用大型機械運営協議会設置条例の一部を改正する条例
について

○議長（杉浦治俊君）

日程第13、議案第19号、宇検村農業用大型機械運営協議会設置条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○村長（元山公知君）

議案第19号について提案理由のご説明をいたします。

議案第19号は、宇検村農業用大型機械運営協議会設置条例の一部を改正する条例についてですが、課名変更に伴う名称変更及び追加記載を行うため、条例の一部を改正するもので、議会の議決を求めるものです。

よろしくご審議をお願いします。

○議長（杉浦治俊君）

これで、提案理由の説明は終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第19号、宇検村農業用大型機械運営協議会設置条例の一部を改正する条例についてを採決いたします。

お諮りします。

本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

議案第19号、宇検村農業用大型機械運営協議会設置条例の一部を改正する条例については、原案のとおり可決されました。

△ 日程第14 議案第20号 宇検村地区生活館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する 条例について

○議長（杉浦治俊君）

日程第14、議案第20号、宇検村地区生活館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○村長（元山公知君）

議案第20号について提案理由のご説明をいたします。

議案第20号は、宇検村地区生活館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例についてですが、阿室防災会館の設置に伴い、本条例より阿室地区生活会館を削除するとともに、文言等の修正を行うため、条例の一部を改正するもので、議会の議決を求めるものです。

よろしくご審議をお願いいたします。

○議長（杉浦治俊君）

これで提案理由の説明は終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第20号、宇検村地区生活館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例についてを採決いたします。

お諮りします。

本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

議案第20号、宇検村地区生活館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例については、原案のとおり可決されました。

△ 日程第15 議案第22号 宇検村過疎地域持続的発展計画の一部変更について

○議長（杉浦治俊君）

日程第15、議案第22号、宇検村過疎地域持続的発展計画の一部変更についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○村長（元山公知君）

議案第22号について提案理由のご説明をいたします。

議案第22号は、宇検村過疎地域持続的発展計画の一部変更についてですが、過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法第8条第1項において、定めた計画の一部を変更するため、条例の一部を改正するもので、議会の議決を求めるものです。

よろしくご審議をお願いします。

○議長（杉浦治俊君）

これで提案理由の説明は終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑ありませんか。

○議長（杉浦治俊君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第22号、宇検村過疎地域持続的発展計画の一部変更についてを採決いたします。

お諮りします。

本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

議案第22号、宇検村過疎地域持続的発展計画の一部変更については、原案のとおり可決されました。

△ 日程第16 議案第23号 宇検村国民健康保険税条例の一部を改正する条例について

○議長（杉浦治俊君）

日程第16、議案第23号、宇検村国民健康保険税条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○村長（元山公知君）

議案第23号について提案理由のご説明をいたします。

議案第23号は、宇検村国民健康税条例の一部を改正する条例についてですが、国民健康保険法の一部を改正する政令の公布に伴い、国民健康保険税の基礎額等に係る課税限度額の引き上げを行うため、条例の一部を改正するもので、議会の議決を求めるものです。

よろしくご審議をお願いします。

○議長（杉浦治俊君）

これで、提案理由の説明は終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第23号、宇検村国民健康保険税条例の一部を改正する条例についてを採決いたします。

お諮りします。

本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

議案第23号、宇検村国民健康保険税条例の一部を改正する条例については、原案のとおり可決されました。

△ 日程第17 議案第24号 工事請負変更契約（宇検集落防災会館新築工事）について

○議長（杉浦治俊君）

日程第17、議案第24号、工事請負変更契約（宇検集落防災会館新築工事）についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○村長（元山公知君）

議案第24号について提案理由のご説明をいたします。

議案第24号は、工事請負変更契約についてですが、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、宇検集落防災会館新築工事の請負変更契約を締結したいので、議会の議決を求めるものです。

よろしくご審議をお願いします。

○議長（杉浦治俊君）

これで提案理由の説明は終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第24号、工事請負変更契約（宇検集落防災会館新築工事）についてを採決いたします。

お諮りします。

本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

議案第24号、工事請負変更契約（宇検集落防災会館新築工事）については、原案のとおり可決されました。

△ 日程第18 議案第25号 工事請負変更契約（美長良団地1号棟改修工事）について

○議長（杉浦治俊君）

日程第18、議案第25号、工事請負変更契約（美長良団地1号棟改修工事）についてを議題とします。本案について、提案理由の説明を求めます。

○村長（元山公知君）

議案第25号について提案理由のご説明をいたします。

議案第25号は、工事請負変更契約についてですが、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、美長良団地1号棟改修工事の請負変更契約を締結したいので、議会の議決を求めるものです。

よろしくご審議をお願いします。

○議長（杉浦治俊君）

これで提案理由の説明は終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第25号、工事請負変更契約（美長良団地1号棟改修工事）についてを採決いたします。

お諮りします。

本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

議案第25号、工事請負変更契約（美長良団地1号棟改修工事）については、原案のとおり可決されました。

△ 日程第19 議案第26号 工事請負変更契約（令和2年度観光拠点連携整備事業）について

○議長（杉浦治俊君）

日程第19、議案第26号、工事請負変更契約（令和2年度観光拠点連携整備事業）についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○村長（元山公知君）

議案第26号について提案理由のご説明をいたします。

議案第26号は、工事請負変更契約についてですが、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、令和2年度観光拠点連携整備事業の請負変更契約を締結したいので、議会の議決を求めるものです。

よろしくご審議をお願いいたします。

○議長（杉浦治俊君）

これで提案理由の説明は終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑ありませんか。

○5番（肥後充浩君）

540万ぐらい、600万近くの増額となっておりますけれども、この工期と、その増額の分の工事はどんなことをするのか。教えてください。

○建設課長（高田浩志君）

お答えいたします。工期はですね、令和4年3月18日までとなっております。主な変更の理由なんですけれども、木材の高騰と、あとは雨水処理関係での内容としては、それから屋根材、その分で661万6,000円増額となっております。

○5番（肥後充浩君）

工期は3月18日ですか。

○建設課長（高田浩志君）

はい、工期は3月18日です。

○5番（肥後充浩君）

もう明日で終わるんですか。

○建設課長（高田浩志君）

はい、終わっています。

○議長（杉浦治俊君）

ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第26号、工事請負変更契約（令和2年度観光拠点連携整備事業）についてを採決いたします。

お諮りします。

本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

議案第26号、工事請負変更契約（令和2年度観光拠点連携整備事業）については、原案のとおり可

決されました。

△ 日程第20 同意第1号 宇検村教育委員会委員の任命について同意を求めることについて

○議長（杉浦治俊君）

日程第20、同意第1号、宇検村教育委員会委員の任命について同意を求めることについてを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○村長（元山公知君）

同意第1号について提案理由のご説明をいたします

同意第1号は、宇検村教育委員会委員の任命についてですが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第4条第2項の規定により、宇検村大字宇検642番地2、高田浩志氏教育委員に任命するにあたり、議会の同意を求めるものです。

よろしくご審議をお願いします。

○議長（杉浦治俊君）

これで提案理由の説明は終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑ありませんか。

○7番（喜島孝行君）

略歴のところで、ちょっとこれ、平成、間違っているんじゃないかなと思って、上から3番目の宇検村役場入庁のところ、平成63年ということはありませんか。

○総務課長（原田俊昭君）

平成ではなく、昭和の間違いでございます。

○議長（杉浦治俊君）

ただいまの指摘は間違っているということによろしいですか。

ほかに質疑ありませんか。

先ほどの略歴の件は、皆さん訂正をお願いしたいと思います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○村長（元山公知君）

これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、同意第1号、宇検村教育委員会委員の任命について同意を求める件についてを採決いたします。

この採決は起立によって行います。

本件これに同意することに賛成の方はご起立をお願いします。

[賛成者起立]

○議長（杉浦治俊君）

起立多数です。

したがって、同意第1号、宇検村教育委員会委員の任命について同意を求める件については、同意することに決定しました。

△ 日程第21 議員派遣について

○議長（杉浦治俊君）

日程第21、議員派遣についてを議題とします。

お諮りします。

お手元にお配りしてありますとおり、本村議会議員を派遣することにしたいと思えます。

ご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

したがって、お手元にお配りしてありますとおり、本村議会議員を派遣することに決定しました。

なお、派遣議員及び日程等に変更が生じた場合には、議長に一任していただきたいと思えます。

△ 日程第22 常任委員会の閉会中の所管事務調査の件について

○議長（杉浦治俊君）

日程第22、常任委員会の閉会中の所管事務調査の件についてを議題といたします。

総務文教常任委員長及び建設経済常任委員長から所管事務調査のうち会議規則第75条の規定によって、お手元にお配りしました所管事務調査事項について、閉会中の継続調査の申し出があります。

お諮りします。

それぞれの委員会から申し出のとおり、閉会中の継続審査とすることにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

したがって、各委員会から申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

△ 日程第23 議会運営委員会の閉会中の所管事務調査の件について

○議長（杉浦治俊君）

日程第23、議会運営委員会の閉会中の所管事務調査の件についてを議題とします。

議会運営委員長から会議規則第75条の規定によって、お手元にお配りしてあります本会議の会期日程と会議の運営に関する事項について、閉会中の継続調査の申し出があります。

お諮りします。

委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉浦治俊君）

異議なしと認めます。

したがって、委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

これで、本日の日程は全部終了しました。

会議を閉じます。

令和4年第1回宇検村議会定例会を閉会します。

○職員（松井 学君）

ご起立願います。一同、礼。

閉会 午前10時24分

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

宇検村議会議長 杉浦治俊

宇検村議会議員 海原隆家

宇検村議会議員 肥後充浩